I·O DATA

ネットワーク　アタッチド　ストレージ

ET-NAS120G

取扱説明書

118683-01

【ご注意】

1) 本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
※本製品のソースコードに関しては、【本製品のソースコードに関して】(15ページ)を参照してください。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
9) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Apple,Macintosh,Power Macintosh,PowerBook,Mac,Mac OSロゴおよびその標章は、米国Apple Computer,Inc.の登録商標です。
- iMac,iBookは、米国Apple Computer,Inc.の商標です。
- その他、一般に会社名、サービス名、ソフト名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ····· 1
本製品が使用できるまでの流れ ····· 5
本製品を使用すれば ····· 6
本製品の特長 ····· 7
安全にお使いいただくために ····· 8
注意していただきたいこと ····· 13
本製品のソースコードについて ····· 15

第1章 使う前に ····· 17
箱の中の確認 ····· 18
対応している機種とOS ····· 19

第2章 設定する（本製品の設定） ····· 21
～ 本製品を使うために管理者が行う設定 ～
1. 管理者の設定手順の流れ ····· 23
2. 各部の名称・機能を確認する ····· 24
3. 接続に必要なものを準備する ····· 27
4. パソコンのIPアドレスを設定する ····· 29
5. Webブラウザを設定する ····· 40
6. 本製品のみをパソコンに接続する ····· 47
7. 本製品のみの電源を入れる ····· 50
8. Webブラウザから設定画面を起動する ····· 51
9. 本製品に最初に設定すること ····· 56
ステップ1：本製品のIPアドレスを設定する ····· 57
ステップ2：本製品をDHCPサーバとして使用する場合（必要時） ····· 59
ステップ3：インターネットを使用する場合（必要時） ····· 61
ステップ4：AppleTalkを有効にする（Mac OSユーザ用：必要時） ····· 63
ステップ5：ワークグループ名を設定する（Windowsユーザ用：必要時） ····· 64
基本的な設定を終了したら ····· 67

10. 機器別の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
①ハードディスクを共有させる場合・・・・・・・・・・・・・・ 68
ハードディスク共有の基本的な考え方 ・・・・・・ 69
出荷時のハードディスクの設定を確認する・・ 70
ハードディスクに新しいフォルダ（共有）を作成する場合 ・・・ 75
新しいフォルダ（共有名）の作成手順① 共有の設定 ・・・・・・・・ 77
新しいフォルダ（共有名）の作成手順② ユーザの登録 ・・・・・・ 88
②インターネット接続を共有させる場合・・・・・・・・・103
ステップ1：プロバイダと契約する・・・・・・・・・・・・103
ステップ2：モデム・TAを設定する ・・・・・・・・・・・104
ステップ3：インターネット関連を設定する ・・・・108
補足：インターネットを切断するには ・・・・・・・・・110
③プリンタを共有させる場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・111
11. 本製品の電源を切る・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
12. すべての設定が終了したら・・・・・・・・・・・・ 114
ステップ1：本製品の電源を切る ・・・・・・・・・・・・・・114
ステップ2：パソコンのIPアドレスを確認する・・・・・114
ステップ3：パソコンの電源を切る ・・・・・・・・・・・・・115
ステップ4：ハブやモデム・TAおよびプリンタを接続する・・・・116
ステップ5：すべての機器の電源を入れる・・・・・・・121
13. ハードディスクのデータの保守・・・・・・・・ 122
14. その他の管理上の注意 ・・・・・・・・・・・・・・ 128

第3章 使ってみよう（ユーザ側の設定）・129
～ ユーザ側パソコンでの必要な設定 ～

ユーザ側での設定手順の流れ ・・・・・・・・・・・・ 130
ユーザ側で最初に設定すること ・・・・・・・・・・・・ 131
ステップ1：パソコンをハブに接続する ・・・・・・・・・・131
ステップ2：Windowsユーザ側の最初の設定・・・・・132
ステップ3：Mac OSユーザ側の最初の設定 ・・・・・142

機器別の設定

①ハードディスクをみんなで使う場合 …… 145
Windows XPで使うには……146
Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0で使うには‥148
Mac OSで使うには……150
②インターネットにみんなでアクセスする場合155
Windowsでの設定①:Webブラウザの設定 ……156
Windowsでの設定②:DNSとゲートウェイの設定・ 160
Mac OSでの設定①:Webブラウザの設定…… 170
Mac OSでの設定②:TCP/IPの設定…… 171
③プリンタをみんなで使う場合…… 172
Windows XPで使うには…… 172
Windows 2000/NT 4.0で使うには…… 174
Windows Me/98/95で使うには …… 176
Mac OSで使うには…… 180

付録1 困ったときには …… 183

付録2 Web設定画面の詳細 …… 193
・Web設定画面の起動方法…… 194
・ネットワークに関する設定 …… 195
[IPアドレス]‥‥(本製品のIPアドレスの設定) …… 195
[DHCP]‥‥(DHCPサーバ機能の設定) …… 197
[DNS]‥‥(DNSアドレスの登録) …… 198
[AppleTalk]‥‥(AppleTalk関連の設定) …… 199
[Microsoft]‥‥(Microsoftネットワーク関連の設定) 200
・インターネットに関する設定 …… 201
[ポート]‥‥(RS-232C/モデムの設定) …… 201
[インターネット]‥(インターネット接続関連の設定) 203
[アプリケーション]‥‥(アプリケーションの追加) ‥ 205
[ステータス]‥‥(接続ステータスの表示)…… 208
・システムに関する設定 …… 211
[システム]‥‥(システムの基本設定項目の設定)‥ 211
[E-Mail]‥‥(E-Mail通知機能関連の設定) …… 213
[シャットダウン]‥(シャットダウン・リブートの設定) 214

・プリンタに関する設定 ····· 216
・ディスク検査に関する設定 ····· 218
・ログファイルの表示 ····· 220
・ソフトウェアのアップグレード ····· 221
・現在の状態の表示 ····· 222
[システム]···(本製品のシステムの表示) ····· 222
[プリンタ]···(接続したプリンタ情報の表示) ····· 223
[ディスク]···(ディスク情報の表示) ····· 224
・ハードディスクの共有に関する設定 ····· 225
[参照]···(共有状態の表示) ····· 225
[グループ]···(グループの作成・修正・削除) ···· 227
[共有]···(共有の作成・修正・削除) ····· 229
[ユーザ]···(ユーザの作成・修正・削除) ····· 231

付録3 TCP/IPの基礎知識 ····· 233
IPアドレス ····· 234
同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要 ·· 234
グローバルIPアドレスとローカルIPアドレス ····· 235
IPアドレスのクラス ····· 236
DHCP ····· 237
具体的なIPアドレスの設定例 ····· 238
本製品をDHCPサーバとして使用する場合の例··· 238
IPアドレスをすべて手動で設定する場合の例 ····· 239

付録4 仕様 ····· 240

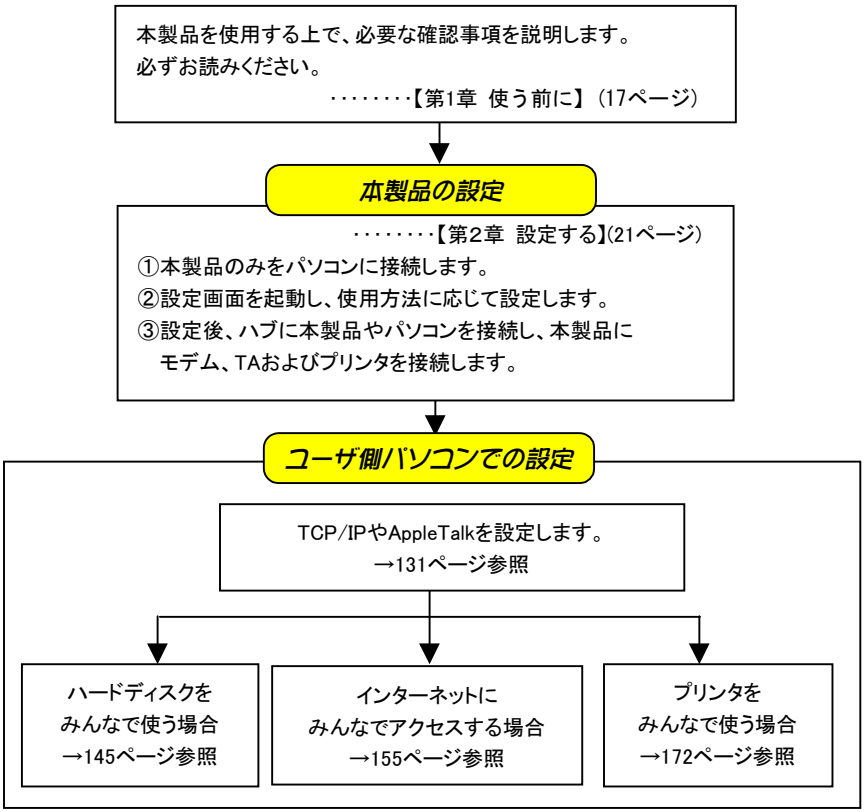
アフターサービス ····· 245

本製品が使用できるまでの流れ

本製品を使用するには、まず、管理者が本製品の設定を行う必要があります。
設定後、ユーザは本製品を使用できるようになります。
以下のフローに沿って、必要な個所をお読みください。

参考

本書内では、本製品を管理する人を[管理者]、使用する人を[ユーザ]と呼んでいます。
管理者…本製品を管理・運営する人。
本製品の接続から設定のすべてを行います。
ユーザ…管理者が設定した本製品を使用する人。



本製品を使用すれば

本製品は、以下のようにお使いいただくことができます。

①**ハードディスクの共有**

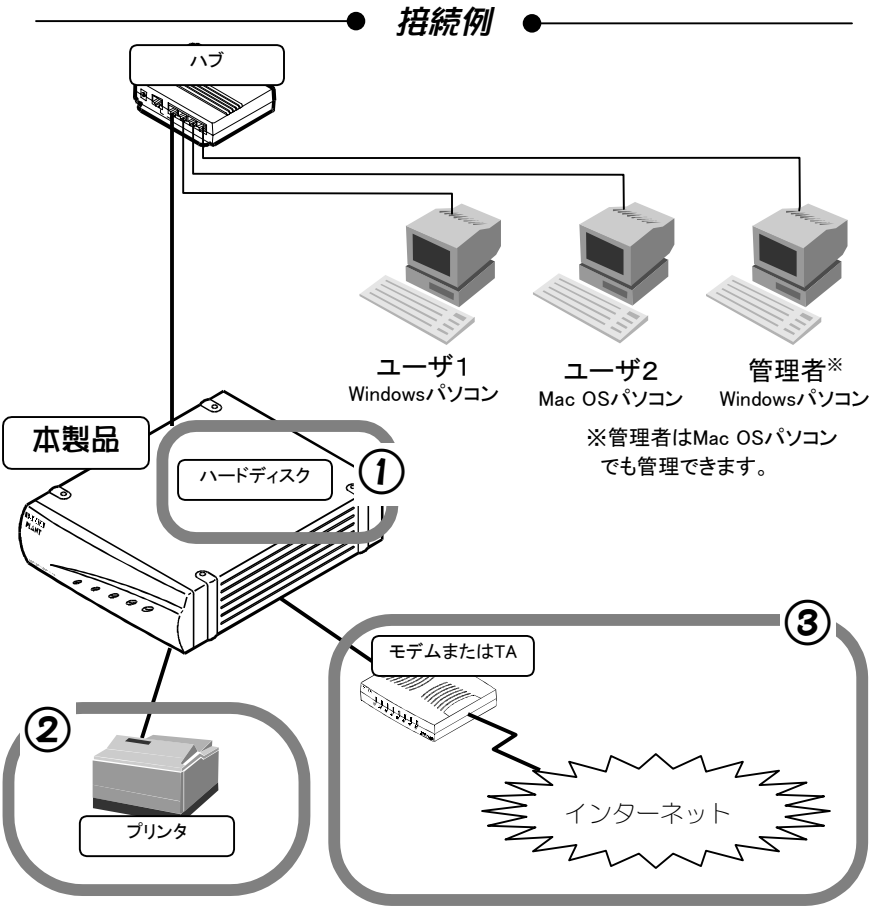
本製品のハードディスクをみんなで使用できます。

②**プリンタの共有**

本製品に接続したプリンタをみんなで使用できます。

③**インターネット接続の共有**

本製品に接続したモデムまたは TA を使用して、インターネットにみんなでアクセスできます。



本製品の特長

簡単ファイル共有

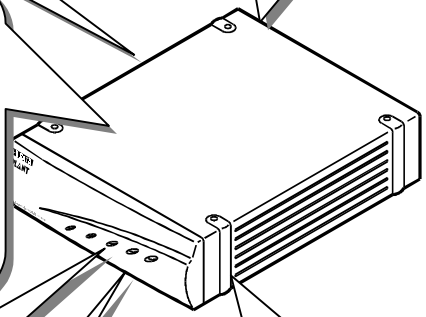
Windows と Mac OS 間で簡単にファイル共有ができます。

インターネット接続共有機能搭載

既存のモデムや TA を利用し、インターネットへの接続を共有することができます。

高度な管理機能搭載

- DHCP クライアント／DHCP サーバ機能
- ディスク容量警告機能
- システムログ表示機能
- ハードディスク回転自動停止機能
- 自動電源切断機能
- システムプログラムアップデート機能



簡単Webブラウザ設定

Web ブラウザより設定を行うことができるため、特別なプログラムをインストールする必要はありません。

ユーザ毎にディスク共有容量制限機能

各ユーザ毎にディスク使用容量の制限を設定することができます。

高度なプリントサーバ機能搭載

- １台のプリンタを共有できます。
- 印刷中でも、空きになるのを待たずに次々とプリントジョブを投入することができるプリントスプーラ機能搭載

※プリンタ共有を Mac OS で利用するには、PostScript（LaserWiter 互換）プリンタが必要です。
※Microsoft Windows Printing System（WPS）専用プリンタは、その仕様上本製品での利用はできません。
※プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムには対応していない場合があります。

安全にお使いいただくために

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、
安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告および注意事項

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことをご注意ください。

- ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。
- 給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。

本製品の接続、取り外しの際は、必ず本書で、接続・取り外し方法をご確認ください。

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。

本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

濡れた手で本製品を扱わないでください。

感電や、本製品の故障の原因となります。

ACアダプタについては以下にご注意ください。

- ●必ず添付のＡＣアダプタを使用してください。
- ●電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- ●電源コードをＡＣコンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
- ●電源コードの電源プラグは、濡れた手でＡＣコンセントに接続したり、抜いたりしないでください。感電の原因となります。
- ●電源コードがＡＣコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコン本体に触らないでください。感電の原因となります。
- ●ACアダプタにものを乗せたり、かぶせたりしないでください。
- ●保温・保湿性の高いものの近くで使用しないでください。
  （じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど）
- ●本製品を長時間使わない場合は、ACアダプタを電源から抜いてください。
  ACアダプタを長時間接続していると、電力消費・発熱します。

⚠注意

本製品を使用中に誤った操作をしてデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温湿度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●腐食性ガス雰囲気中（ClI_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所
- ●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）

本製品は精密機器です。以下のことにご注意ください。

- ●落としたり、衝撃を加えない
- ●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●そばで飲食・喫煙などをしない
- ●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

動作中にケーブルを抜かないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

動作中にACアダプタを抜くなどして電源を切らないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。

- ●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
- ●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
- ●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。

本製品内部を結露させたまま使わない。

時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。

そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。

本製品内部およびコネクタ部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。

動作中にケーブルを激しく動かさないでください。

接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。

注意していただきたいこと

1）本製品は、以下の注意事項を守ってお使いください。

・本装置の汚れは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いてふいたりしますと、変形や変色の原因になることがあります。

・本製品を開けて内部の部品に触れないでください。電圧の高い部分があって危険です。また故障の原因になります。この場合は保証期間内であっても保証できなくなりますので、ご注意ください。

2）使用時は以下の注意事項をご確認ください。

・本製品にモデム・TA、プリンタを接続する場合は、各製品の取扱説明書も必ずご覧ください。

・本製品を接続する回線では、キャッチホンサービスのご利用は避けてください。

・落雷の恐れがある場合は、本製品のご使用を中止し、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。

3）ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。

弊社修理センターでは、データ復旧サービスは行っておりません。
※故障した場合、データの復旧はできなくなります。
万一に備えて、こまめにデータをバックアップするようにしてください。

4）本製品の修理は弊社修理係にご依頼ください。

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

修理係では、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

⚠ 注意事項

・本製品にネットワーク経由で接続可能なMacintoshの端末数は最大50台までとなります。

・本製品にネットワーク経由で接続可能なWindowsの端末数に制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。推奨する同時接続台数は32台までとなります。

・ファイルコピー中に本製品の電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。ハードディスクのアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。

・Windows 2000やWindows XPから本製品に非常に大きなファイルをコピーしている最中にキャンセルした場合、コピー中のファイルが不完全に残ってしまうことがあります。
不完全に残ったファイルは消去してから再度コピーをやり直してください。

・Windows 98から本製品にファイルのコピー中にLANケーブルが抜けるなどして中断された場合、コピー途中のファイルが本製品上に残り消去できなくなる場合があります。
この場合は、いったん本製品の電源を切り、再度起動してからコピー途中のファイルを削除し、コピーをやり直してください。

・Macintoshで共有する場合、AppleTalkを使用する方法とTCP/IPを使用する方法があります。

・本製品をDHCPクライアント設定後、DHCPサーバが存在しなかったなどの理由でIPアドレスの取得に失敗した場合、本製品は出荷時のIPアドレス「192.168.0.2」に設定されます。
IPアドレス取得の失敗のメッセージが表示された場合は、この値で設定を修正してください。

・共有名にはスペースは使用できません。

・ブラウザから設定する、共有、グループ名、ユーザ名、パスワードはすべて、ASCII 半角英数字のみが有効となります。

本製品のソースコードに関して

本製品は、LinuxをOSとしています。
本製品を構成しているプログラム・ドライバのソースコード(以下、本ソースコード)は、GPL(GNU General Public License)およびLGPL(Library GNU General Public License)に基づき配布するものです。
本製品をお使いのユーザは、上記ライセンスに基づき、本ソースコードを変更・複製すること、また頒布することができます。

ソースコードおよびその取り扱いに関しては、本製品（ハードディスク）内の以下にあるREADME.TXTファイルをご確認ください。（adminでログインする必要があります。）

HDD1¥SOURCE¥README.TXT

注意！

本製品を構成しているプログラム・ドライバのうち、オープンソースソフトウエアに起源を持たず、この製品向けに独自に作成された部分につきましては、そのソースコードを収録しておりません。
したがって、本製品をお使いのユーザーが、ソースコードを元にシステムの構成を行っても、本製品の全ての機能を再現することはできません。

MEMO

第1章

使う前に

この章では、本製品をご使用になる前の準備について、順を追って説明しています。

箱の中の確認

18ﾍﾟｰｼﾞ

箱の中身を確認します。

対応している機種とOS

19ﾍﾟｰｼﾞ

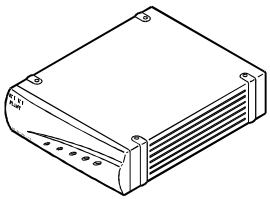
対応機種や対応OSについて説明します。
接続する前に、ご使用のパソコンがこれらの条件を満たしているか確認してください。

箱の中の確認

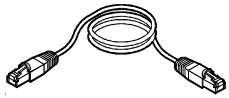
ご使用の前に以下のものがそろっていることをご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

箱・梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。

☐ 本製品

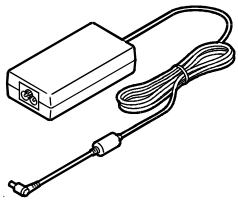


☐ LANケーブル（約2m）

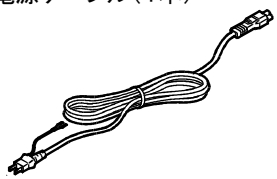


ストレートケーブル
（カテゴリ5）

☐ ACアダプタ（1個）



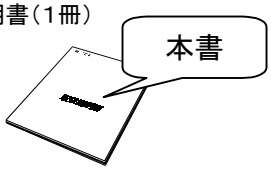
☐ 電源ケーブル（1本）



上記のACアダプタに接続します。

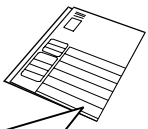
☐ 縦置きスタンド（2個）

☑ 取扱説明書（1冊）



☐ ハードウェア保証書（1枚）

☐ ユーザー登録カード（1枚）



ユーザー登録はお済みですか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。

対応している機種とOS

本製品を使用できるパソコンおよび環境は以下の通りです。

パソコンの機種・OS・LAN環境

■Windowsでお使いになる場合■

パソコン本体	・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※1 ・NEC PC-9800 シリーズ
OS環境	・日本語 Windows XP ・日本語 Windows 2000 ・日本語 Windows Me ・日本語 Windows 98(Second Edition 含む) ・日本語 Windows 95 ・日本語 Windows NT 4.0 ServicePack4 以降
LAN環境	イーサネットが正常に動作し、TCP/IP が利用できること

※1　弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。

■Mac OSでお使いになる場合■

パソコン本体	Apple Macintosh, Power Macintosh, iMac, iBook, PowerBook
OS環境	Mac OS 8.0～9.2.2
LAN環境	すでにイーサネットがセットアップされていること

必要なWebブラウザ(管理者のみ)

本製品を管理する管理者は、上記環境以外に、さらに以下の Web ブラウザ※2 のバージョンが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

※2　Web ブラウザを使用して本製品を設定します。

管理用 Webブラウザ	Internet Explorer を使用する場合、バージョン 5.0 以上

MEMO

第2章

設定する（本製品の設定）

～ 本製品を使うために管理者が行う設定 ～

この章では、本製品を使用するための設定方法を説明します。
設定は、管理者のみ行います。まず、管理者は、本製品のみをパソコンに接続し、設定を行います。（モデム・TAおよびプリンタは設定後に接続します。）
本章での設定後、【第３章 使ってみよう（ユーザ側の設定）】（129ページ）にてユーザ側での本製品を使用するための設定を説明します。

1. 管理者の設定手順の流れ 23 ページ

管理者が行う本製品の設定手順の流れについて確認します。

2. 各部の名称・機能を確認する 24 ページ

本製品の各部の名称・機能について確認します。

3. 接続に必要なものを準備する 27 ページ

本製品をパソコンやネットワークに接続する上で必要なものを準備します。

4. パソコンの IP アドレスを設定する 29 ページ

管理用パソコンの IP アドレスを設定します。

5. Web ブラウザを設定する 40 ページ

設定画面を起動する Web ブラウザの接続設定を行います。

6. 本製品のみをパソコンに接続する 47 ページ

本製品のみをパソコンに接続します。

7. 本製品のみの電源を入れる 50 ページ

本製品のみの電源を入れます。

8. Web ブラウザから設定画面を起動する 51 ﾍﾟｰｼﾞ

Web ブラウザ上から設定画面を起動します。

9. 本製品に最初に設定すること 56 ﾍﾟｰｼﾞ

設定画面で必要な最初の設定を行います。

10. 機器別の設定（①ハードディスクを共有させる場合） 68 ﾍﾟｰｼﾞ

ハードディスクを共有させるための設定を行います。

10. 機器別の設定（②インターネット接続を共有させる場合） 103 ﾍﾟｰｼﾞ

本製品に接続するモデム・TA の設定やインターネット接続を共有させるための設定を行います。

10. 機器別の設定（③プリンタを共有させる場合） 111 ﾍﾟｰｼﾞ

本製品に接続するプリンタを共有させるための設定を行います。

11. 本製品の電源を切る 113 ﾍﾟｰｼﾞ

本製品の電源を切ります。

12. すべての設定が終了したら 114 ﾍﾟｰｼﾞ

本製品にハブやモデム・TA およびプリンタを接続します。

13. ハードディスクのデータの保守 122 ﾍﾟｰｼﾞ

ハードディスク内のデータの保守について確認します。

14. その他の管理上の注意 128 ﾍﾟｰｼﾞ

その他の管理上の注意について確認します。

1. 管理者の設定手順の流れ

パソコンへの接続

①各部の名称・機能を確認します。 【各部の名称・機能を確認する】(24 ページ)
②接続に必要なものを準備します。 【接続に必要なものを準備する】(27 ページ)
③パソコンの IP アドレスを設定します。 【パソコンの IP アドレスを設定する】(29 ページ)
④Web ブラウザの設定を行います。 【Web ブラウザを設定する】(40 ページ)
⑤パソコンに接続し電源を入れます。 【本製品のみをパソコンに接続する】(47 ページ)
【本製品のみの電源を入れる】(50 ページ)

基本設定

①設定画面を起動します。 【Web ブラウザから設定画面を起動する】(51 ページ)
②基本的な設定を行います。 【本製品に最初に設定すること】(56 ページ)
- 本製品の IP アドレスを設定します。
- 本製品を DHCP サーバとする場合の設定を行います。(必要時)
- インターネットを使用する場合の設定を行います。(必要時)
- AppleTalk を有効にします。(Mac OS ユーザ用：必要時)
- ワークグループを設定します。(Windows ユーザ用：必要時)

機器別の設定

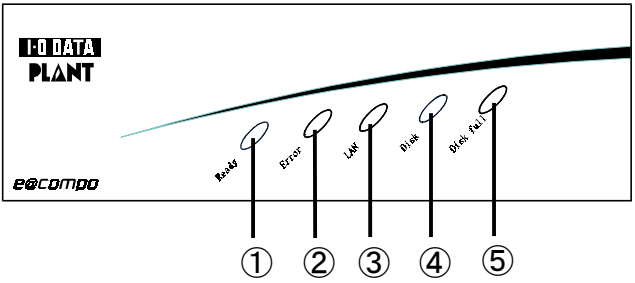
接続する機器別の設定を行います。
- ハードディスクを共有させる場合 【ハードディスクを共有させる場合】(68 ページ)
- インターネット接続を共有させる場合
【インターネット接続を共有させる場合】(103 ページ)
- プリンタを共有させる場合 【プリンタを共有させる場合】(111 ページ)

設定が終了したら

①本製品の電源を切ります。 【本製品の電源を切る】(113 ページ)
②パソコンの電源を切り、ハブやモデム・TA およびプリンタを接続し、すべての機器の電源を入れます。 【すべての設定が終了したら】(114 ページ)

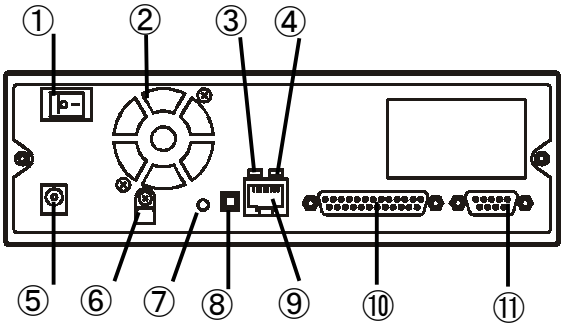
2. 各部の名称・機能を確認する

■前面パネル■



No	ランプ	色	意味
①	Ready	緑	**点滅**:システム起動時、およびシャットダウン中 **点灯**:システムが正常動作して使用可能状態であること
②	Error	橙	**点灯**:ハードウェアエラーが検出された場合
③	LAN	緑	**点滅**:ネットワークへのデータの送受信時
④	Disk		**点滅**:ハードディスクへの読み書き時
⑤	Disk full		**点灯**:ディスク容量が飽和状態（起動中も点灯状態） **点滅**:ディスク使用率が98%を超えた場合

■背面■



No	名称	用途
①	電源スイッチ（POWER SWITCH）	本製品のシステムの起動（電源ON）とシステムのシャットダウン（電源OFF）を行います。 **※システムのシャットダウンは、システムが使用可能状態のときに有効です。** **また、シャットダウンには、システムの終了処理のため、数分かかる場合があります。** 押すたびに、ONとOFFを繰り返します。
②	ファン	装置冷却用のファンです。 危険ですので、指を入れないでください。 また、動作中は、ふさがないでください。
③	100	100BASE-TXネットワーク環境に接続されている場合、橙色に点灯します。
④	10	10BASE-Tネットワーク環境に接続されている場合、緑色に点灯します。
⑤	12V DC	添付の専用ACアダプタを接続します。 接続時には、ACアダプタが本製品から不意に抜けてしまうことを防止するために、必ずケーブルを［⑥フック］に固定してください。（49ページ【注意】参照）
⑥	フック	添付の専用ACアダプタのケーブルを固定します。
⑦	リセット（RESET）	このボタンを押すと、設定ツールでのアドミニストレータ（admin）のパスワード、およびIPアドレスが初期値に戻り、本製品の再起動を行います。
⑧	デイジーチェーン	相手先のネットワークの状態に応じて、ネットワークへの接続をクロス接続で行うか、ストレート接続で行うかを設定できます。 ⊓: スイッチOFF（出荷時） ストレート接続時（ハブと接続する場合） ⊔: スイッチON クロス接続時（直接パソコンと接続する場合）

（次ページへ）

（前ページからの続き）

No	名称	用途
⑨	LAN	ハブを介して、あるいは直接、本製品とパソコンをLANケーブルで接続します。 **・ハブ経由で接続する場合** ［⑧デイジーチェーン］スイッチをOFF( )にして、添付のストレートケーブルで接続します。 **・パソコンと直接接続する場合** ［⑧デイジーチェーン］スイッチをON( )にして、添付のストレートケーブルで接続します。
⑩	PRINT	本製品とプリンタを接続します。（25ピンメス） ケーブルはプリンタに添付のものをご使用ください。
⑪	COM	本製品とモデムやTAを接続します。（９ピンオス） ケーブルはモデム・TAに添付のものをご使用ください。 （コネクタが合わない場合は、市販の変換コネクタをご使用ください。）

■ブザー■

回数（回）	間隔（秒）	期間（分）	概要
1	—	—	使用可能状態になったことを示す
15	15	3	温度上昇が検出された場合
3	30	3	ディスク使用率が98%を超えた場合
2	5	1	DHCPクライアントに設定時に DHCPサーバが検出されなかった場合
1	—	—	RESETボタンが押された場合
1	—	—	電源スイッチが押された場合

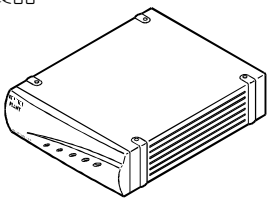
※この表では、【期間（分）】までの間に、【間隔（秒）】間隔で【回数（回）】回ずつ、ブザー音が鳴ることを意味しています。
例えば、上記3番目の「ディスク使用量が98%を超えた場合」では、3分間の間に30秒間隔で3回ずつ、ブザーが鳴ります。

3. 接続に必要なものを準備する

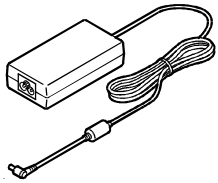
ここでは、本製品をパソコンやネットワークに接続する前に必要なものの準備について説明します。

チェック①:接続時に必要なものは準備しましたか？

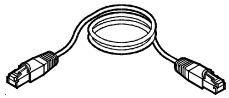
・本製品



・ACアダプタ（添付品）

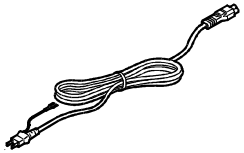


・LANケーブル（添付品）



本製品とネットワークを
接続します。
（ストレートケーブル）

・電源ケーブル（添付品）



・その他（モデムやTA、プリンタを接続する場合）

※本製品には、モデム・TAおよびプリンタの接続用ケーブルは添付しておりません。

・モデムやTAと接続する場合

モデム・TAとの接続には、モデム・TAに添付のケーブル（DOS/V用）をお使いください。

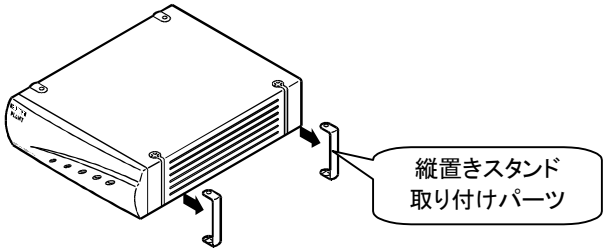
・プリンタと接続する場合

プリンタをご用意ください。
本製品とプリンタとの接続には、市販のDOS/V用プリンタケーブルをお使いください。

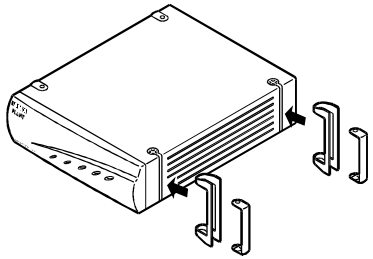
チェック②：本製品を縦置きで使用しますか？

添付の縦置スタンドを使用することにより縦置きでもご使用になれます。

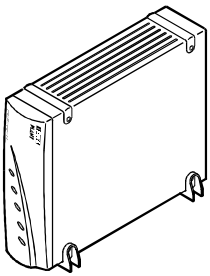
① 縦置きスタンド取り付けパーツを取り外します。



② 添付の縦置きスタンドと取り外した縦置きスタンド取り付けパーツを順に取り付けて固定します。



以上で終了です。縦置きでご利用ください。



4. パソコンの IP アドレスを設定する

本製品を使用するには本製品の設定が必要ですが、まず、本製品を設定するパソコン(**管理用パソコン**)の IP アドレスが、本製品の IP アドレスと同じクラスで、かつ、本製品とは別の IP アドレスとなっている必要があります。
以下の手順で設定してください。(**本製品の出荷時の IP アドレスは「192.168.0.2」です。**)

参考

本製品を使用するには、IP アドレス、DHCP などのネットワークの知識が必要です。お分かりにならない場合は、【付録3　TCP/IP の基礎知識】(233 ページ)を参照してください。

1 パソコンの電源を入れます。

2 パソコンのIPアドレスの設定を行います。
設定はご使用のOSによって異なります。以下の該当する個所へお進みください。

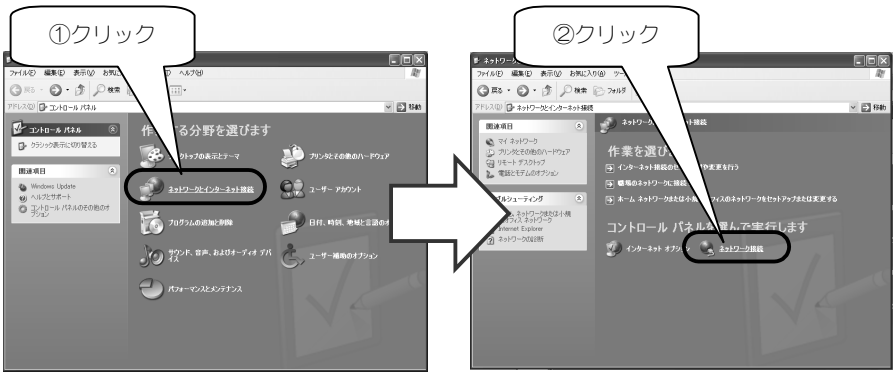
● Windows XPをお使いの場合	→ 次ページを参照してください。
● Windows 2000をお使いの場合	→ 33ページを参照してください。
● Windows Me/98/95をお使いの場合	→ 35ページを参照してください。
● Windows NT 4.0をお使いの場合	→ 37ページを参照してください。
● Mac OSをお使いの場合	→ 39ページを参照してください。

Windows XP で IP アドレスを設定する

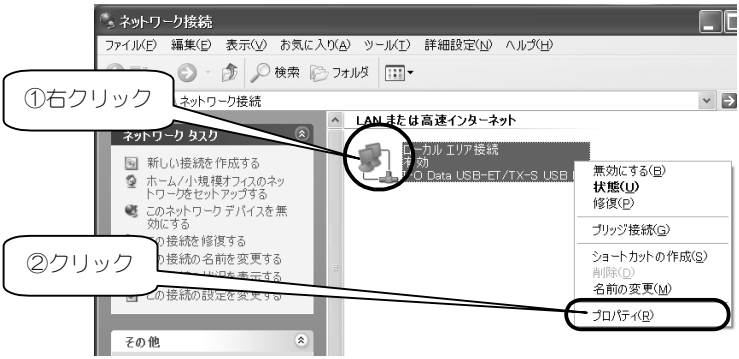
1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

2 [スタート]ボタンをクリックし、現れたスタートメニューの中にある[コントロール　パネル]をクリックします。

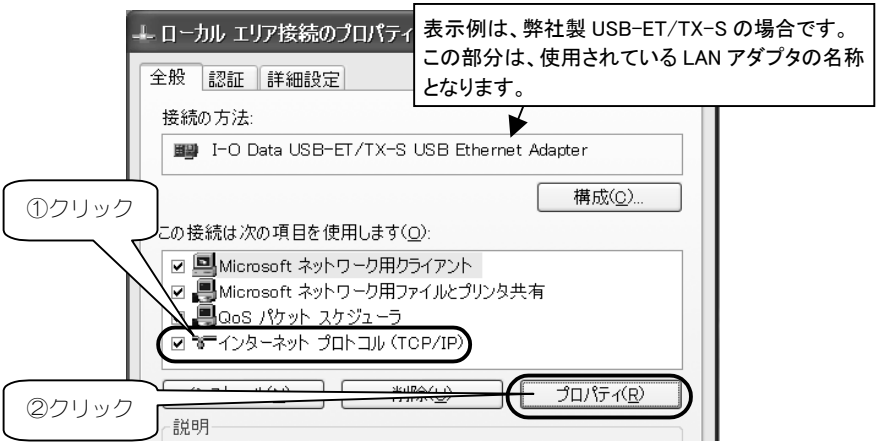
3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックし、開いたウィンドウの中にある[ネットワーク接続]をクリックします。



4 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



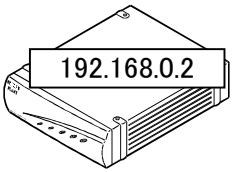
5 [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

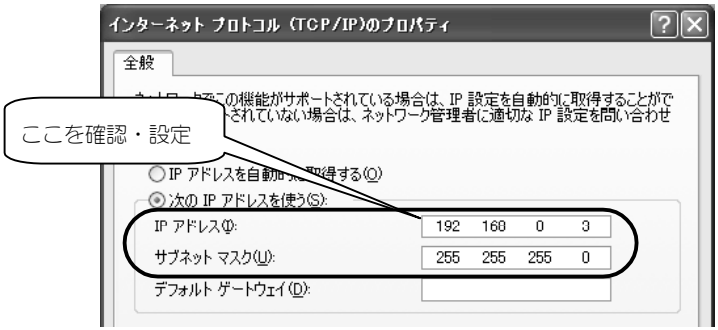


6 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）





「IP アドレスを自動的に取得する」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス（「172. xxx. xxx. xxx」など）に設定している場合

本製品と同じ IP アドレス（「192. 168. 0. 2」）に設定している場合

パソコンの IP アドレスを一時的に、「192.168.0.3」などの同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

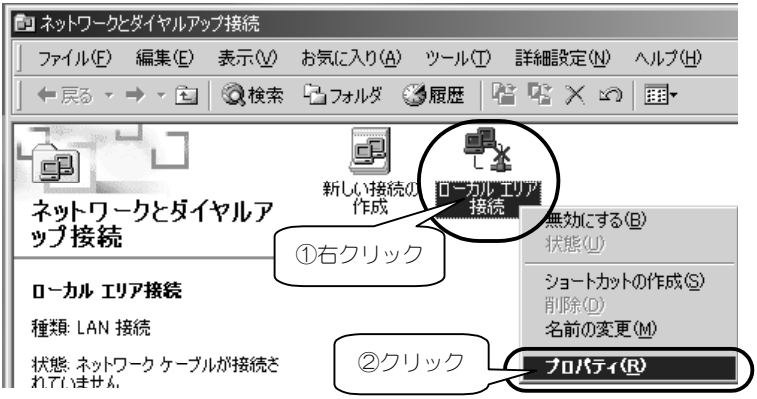
確認・設定後、【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)へお進みください。

Windows 2000 で IP アドレスを設定する

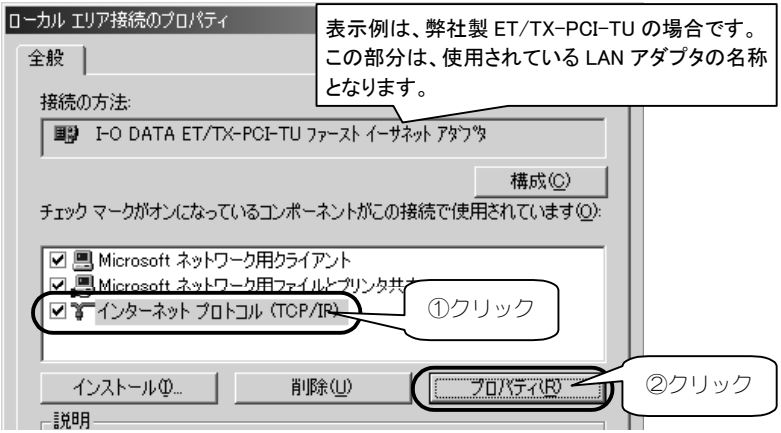
1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



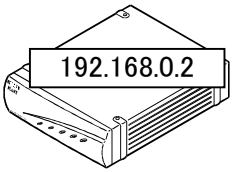
4 [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

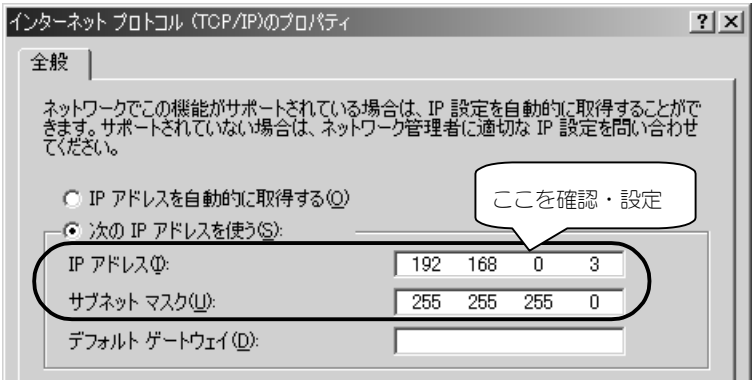


5 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）





「IP アドレスを自動的に取得する」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス（「172. xxx. xxx. xxx」など）に設定している場合

本製品と同じ IP アドレス（「192. 168. 0. 2」）に設定している場合

パソコンの IP アドレスを一時的に、「192.168.0.3」などの同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

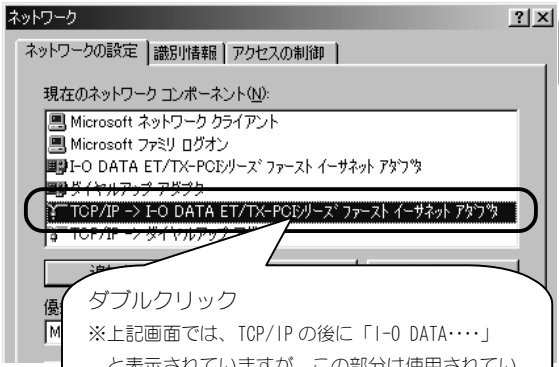
確認・設定後、【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)へお進みください。

Windows Me/98/95 で IP アドレスを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [TCP/IP]をダブルクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、[TCP/IPー>xxxxxxxx]をダブルクリックします。(xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。)



Windows 98 での表示例

ダブルクリック

※上記画面では、TCP/IP の後に「I-O DATA‥‥」と表示されていますが、この部分は使用されている LAN アダプタのデバイス名の名称となります。

※ご利用のネットワーク環境によっては、「TCP/IP」のみが表示される場合もあります。

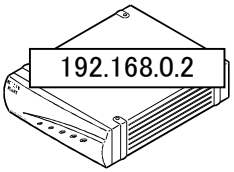
Windows Me/98/95 で TCP/IP が表示されていない場合は…

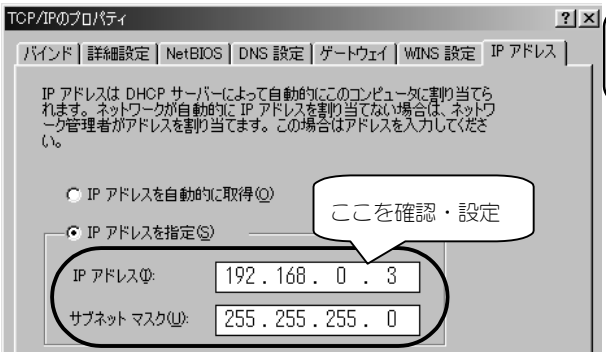
【困ったときには】の P187 をご参照ください。

3 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）





Windows 98 での表示例

「IP アドレスを自動的に取得」
に設定している場合

別のクラスの IP アドレス
（「172. xxx. xxx. xxx」など）
に設定している場合

本製品と同じ IP アドレス
（「192. 168. 0. 2」）
に設定している場合

パソコンの IP アドレスを一時的に、
「192.168.0.3」などの
同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに
変更し、［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

確認・設定後、【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)へお進みください。

Windows NT 4.0 で IP アドレスを設定する

1 Administrator権限でWindows NT 4.0にログオンします。

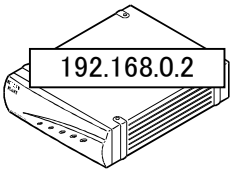
2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

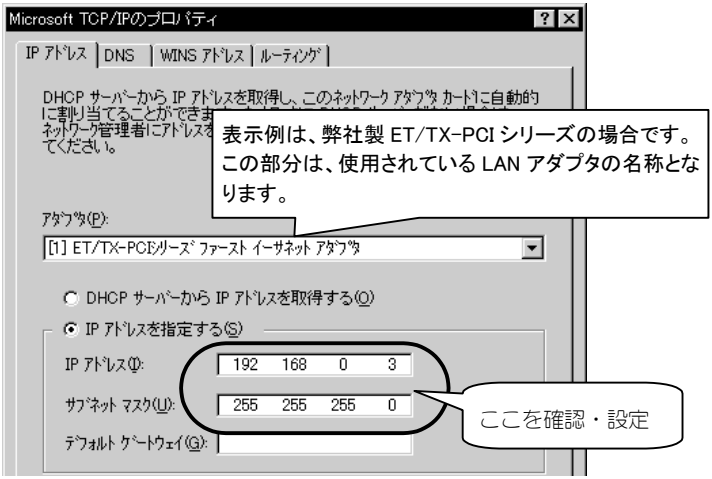
3 [TCP/IP プロトコル]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

4 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）





「DHCP サーバーから IP アドレスを取得する」
に設定している場合

別のクラスの IP アドレス
（「172. xxx. xxx. xxx」など）
に設定している場合

本製品と同じ IP アドレス
（「192. 168. 0. 2」）
に設定している場合

パソコンの IP アドレスを一時的に、
「192.168.0.3」などの
同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに
変更し、［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

確認・設定後、【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)へお進みください。

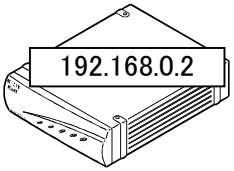
Mac OS で IP アドレスを設定する

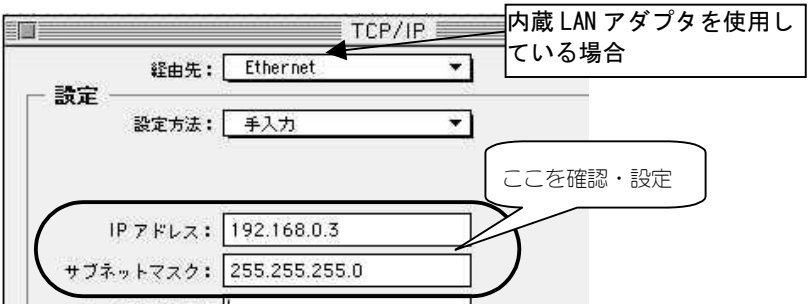
1 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[TCP/IP]をクリックします。

2 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、管理用パソコンのIPアドレスが本製品のIPアドレスと同じクラスで、かつ、別のIPアドレスとなっている必要があります。

（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.2」です。）





「DHCP サーバを参照」
に設定している場合

別のクラスの IP アドレス
（「172. xxx. xxx. xxx」など）
に設定している場合

本製品と同じ IP アドレス
（「192. 168. 0. 2」）
に設定している場合

一時的に、
［設定方法：］を［手入力］に設定し、
パソコンの IP アドレスを
「192.168.0.3」などの
同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに
変更し、すべての画面を閉じてパソコンを
一度再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

確認・設定後、【5. Web ブラウザを設定する】(次ページ)へお進みください。

5. Web ブラウザを設定する

本製品を設定するには、Web ブラウザの接続設定をしておく必要があります。
下記２点に注意し設定してください。

①LAN を使用してインターネットに接続する。
②プロキシサーバーは使用しない。

注意！

Web ブラウザは、【対応している機種と OS】(19 ページ)の【必要な Web ブラウザ】の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。

参考

本製品を設定する際、あるいは、本製品を使用してインターネットに接続する際に、プロキシ経由で使用している場合は正常に設定やインターネット接続ができません。
以下の個所を参照して、設定を解除してください。

- Windows をお使いの場合　→　次ページを参照してください。
- Mac OSをお使いの場合　→　45ページを参照してください。

Windows での Web ブラウザの設定

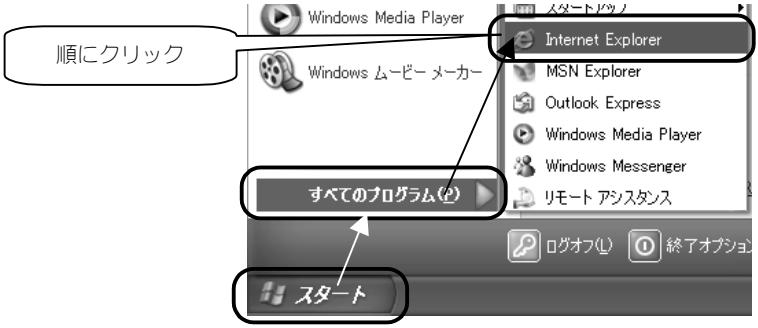
注意！

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。
まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

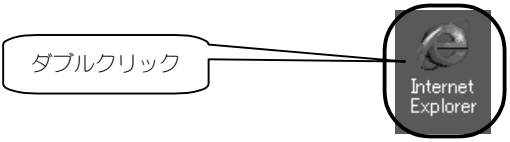
・*Windows XPの場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。



・*Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合*

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。



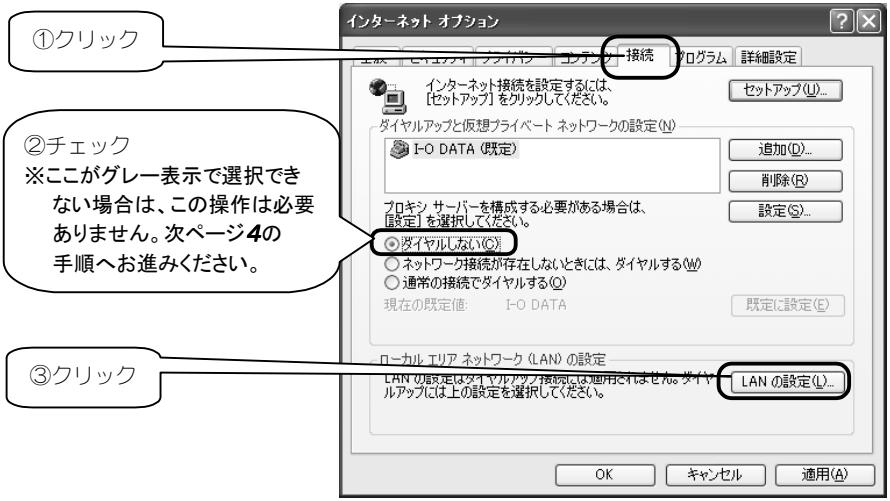
注意！

この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の
[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

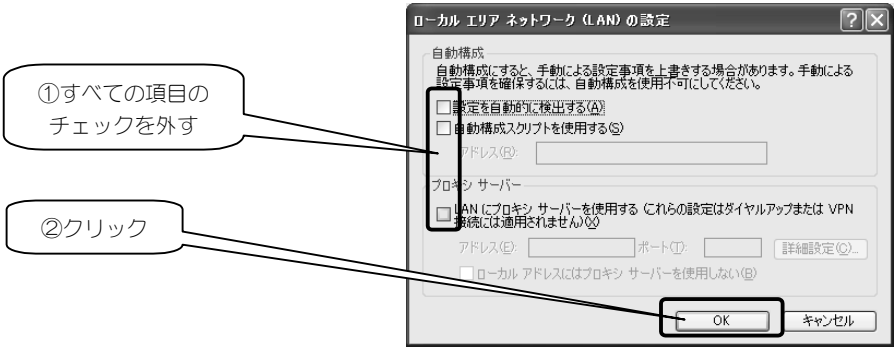
※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 [接続]タブをクリックし、
[ダイヤルしない]をチェックします。続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

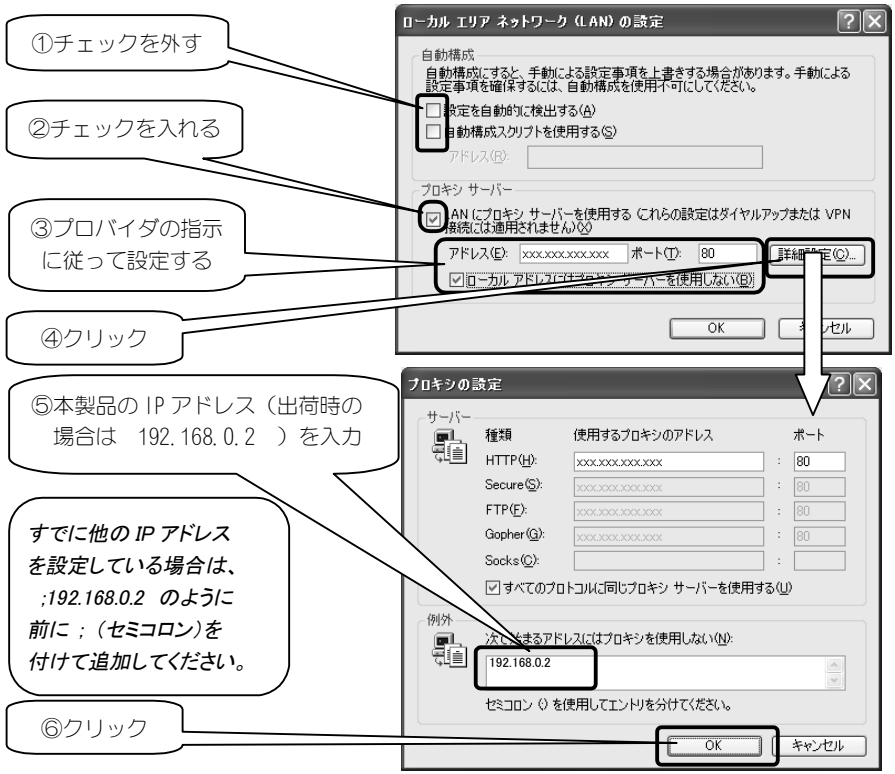


4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の<u>指示がない</u>場合



・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の<u>指示がある</u>場合

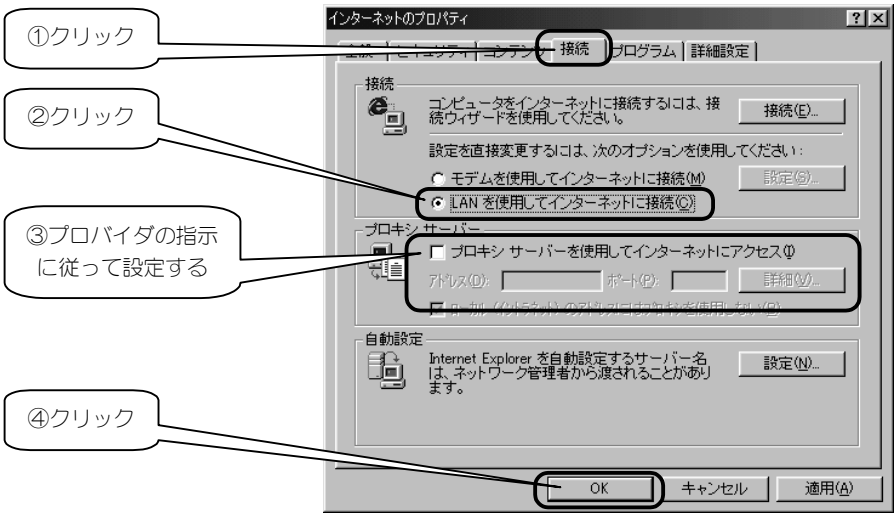


5 [ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

6 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

参考

Internet Explorer のバージョンによっては、4の手順の時に以下の画面となる場合があります。
その場合は、[接続]タブで[LAN を使用してインターネットに接続]をチェックします。
その後、以下の手順を行います。
・プロバイダからプロキシに関する設定の指示がない場合
[プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。
・プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合
[プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]をチェックし、[アドレス]と[ポート]を入力後、[詳細]ボタンをクリックします。
[プロキシの設定]画面での設定は、前ページを参照してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



確認・設定後、【6. 本製品のみをパソコンに接続する】(47 ページ)へお進みください。

Mac OS での Web ブラウザの設定

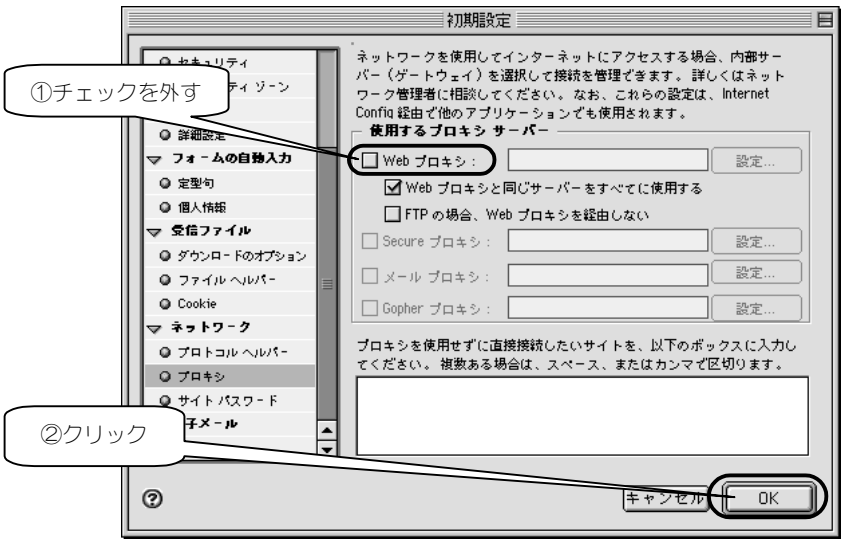
1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集]→[初期設定...]を選択します。

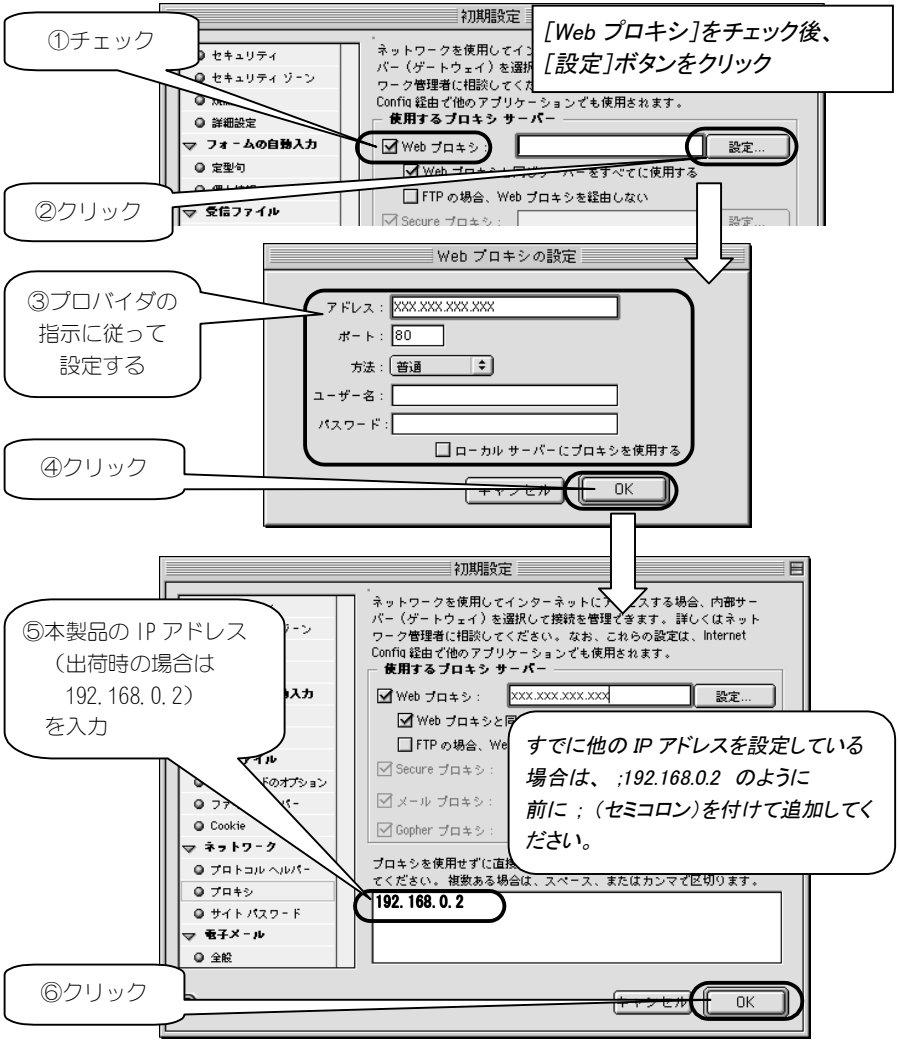
3 [▽ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合



●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合



確認・設定後、【6. 本製品のみをパソコンに接続する】(次ページ)へお進みください。

6. 本製品のみをパソコンに接続する

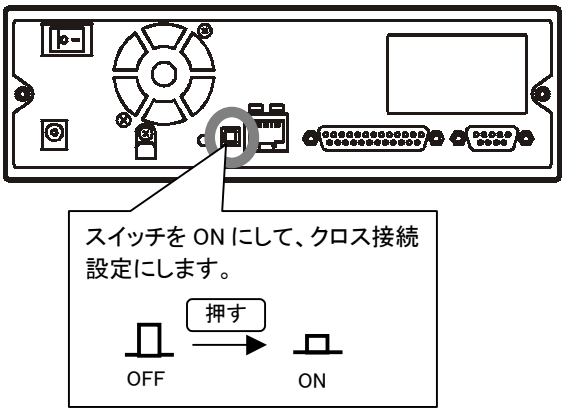
パソコンに本製品を接続します。

ここでは、本製品のみをパソコンに接続します。
（ハブやモデム・TA、プリンタの接続は、本製品の設定が終了した後で行います。）

1 パソコンの電源を切ります。

2 本製品背面の[デイジーチェーン]スイッチをONにして「クロス接続用」に切り替えます。

※パソコンと本製品を直接接続する場合は、クロス接続する必要があります。
本製品では、［デイジーチェーン］スイッチをONにすることで、［クロス接続］に切り替わりますので、そのまま添付のLANケーブル（ストレート）を接続してください。



3 LANケーブルを接続します。

本製品背面の LAN コネクタに接続してください。（以下の①）

もう一方を、直接パソコンのLANコネクタに接続します。（以下の②）

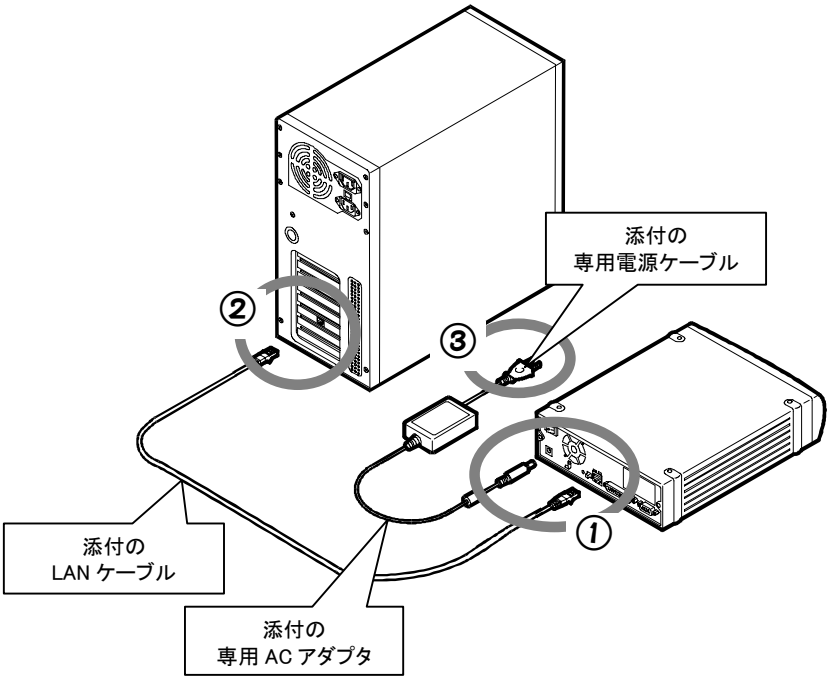
添付の専用ACアダプタ、電源ケーブルを本製品に接続し、コンセントに接続します。

AC アダプタと電源ケーブルを接続後、本製品に接続します。（以下の①）

電源コンセントに接続してください。（以下の③）

※必ず、ACアダプタのケーブルは、フックに固定しておいてください。
（次ページの【注意】参照）

・直接パソコンに接続する

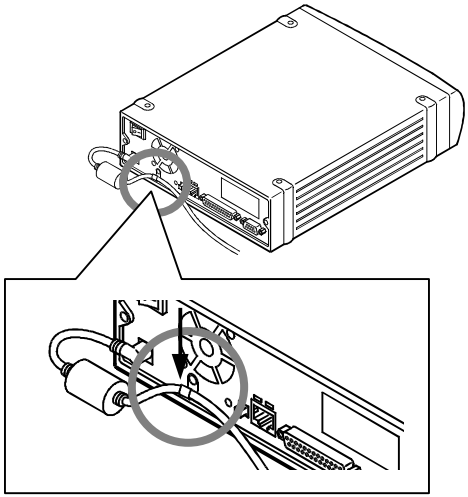


接続のヒント

・コネクタは差し込む向きが決まっています。入りにくいときは無理に差し込まず、コネクタの向きをご確認ください。

注意！

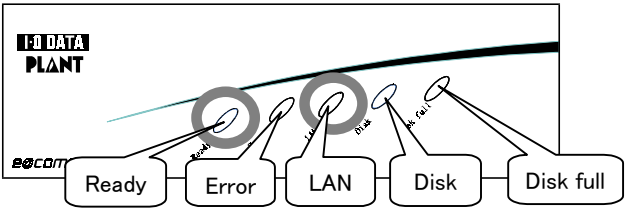
本製品の電源を切る手順(【11. 本製品の電源を切る】113 ページ参照)を行わずに、ケーブルが不意に外れた場合は、本製品のシステムが破損し、動作しなくなる場合があります。
接続時には、AC アダプタのケーブルを必ずフックに固定して、本製品から不意に抜けてしまわないようにしてください。



7. 本製品のみの電源を入れる

接続が終了したら、本製品のみの電源を入れます。
※パソコンの電源は、本製品が正常に起動した後に入れてください。

1 本製品背面の電源スイッチ(POWER SWITCH)を押して電源を入れます。
しばらくすると(約1分ほど)、[Ready]ランプが点灯し、[LAN]ランプが点滅します。
起動完了後、“ピッ”と音がします。確認してください。



参考

本製品電源投入後、各ランプは以下のステップの順に表示されていきます。

ステップ →	①	→ ②	→ ③	→ ④	→ ⑤	→ ⑥	→ ⑦
Ready	点灯	点灯	点灯	点滅	点滅	点灯	点灯
Error	点灯	—	—	—	—	—	—
LAN	点滅	点滅	点滅	点滅	点滅	点滅	点滅
Disk	—	—	点滅	点滅	点滅	点滅	—
Disk full	点灯	点灯	点灯	点滅	—	—	—

（表中の“—”は消灯を意味します。）

各ランプの点灯/点滅が
ステップ通りに
進まない場合は…

【困ったときには】P189
をご参照ください。

8. Web ブラウザから設定画面を起動する

本製品を使用するには、Web ブラウザから設定画面を起動して各種設定を行う必要があります。

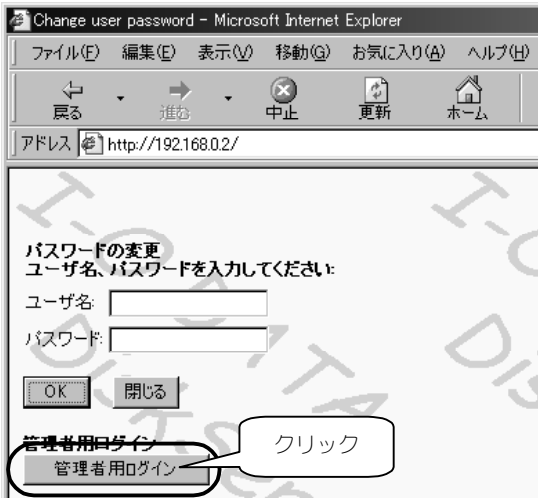
1 パソコンの電源を入れます。

2 Webブラウザを起動して以下のIPアドレスを開きます。
「192.168.0.2」

注意！

1)IWeb ブラウザは、【対応している機種と OS】(19 ページ)の【必要な Web ブラウザ】の項を参照して、必要なバージョンをご確認ください。
なお、本製品に Web ブラウザは添付しておりません。
Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。
2)上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。
LAN 経由で本製品が接続されていれば呼び出せます。(インターネットに接続されている必要はありません。)

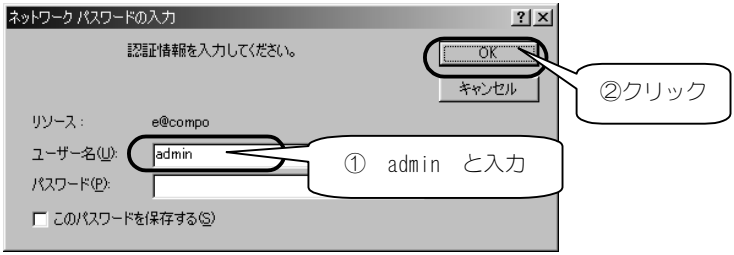
3 以下の画面が表示されます。
[管理者用ログイン]ボタンをクリックします。



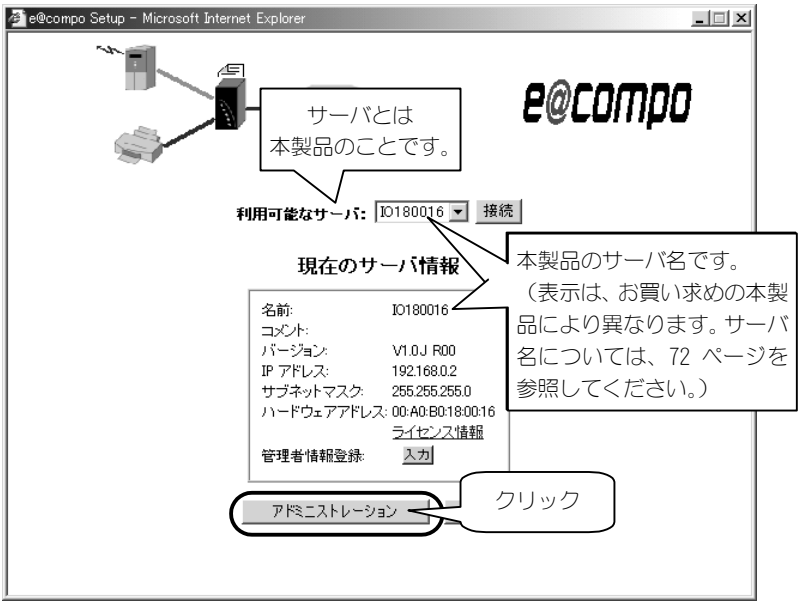
この設定画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の P185
をご参照ください。

4 以下の画面が表示されます。
[ユーザー名]に、 admin （小文字）と入力し、
[パスワード]は空欄のまま、[OK]ボタンをクリックします。



5 以下の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンをクリックします。



参考

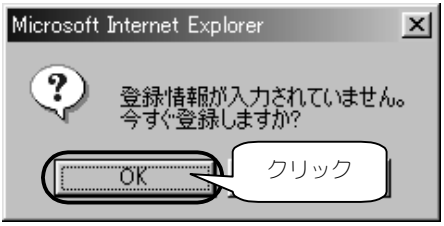
・サーバとは、本製品のことです。本製品のサーバ名は、以下のようになっています。（サーバ名については、72 ページ参照）

> **IOxxxxxx**
> **（xxxxxxには、本製品の MAC アドレス下6桁が入ります。お買い求めの本製品により MAC アドレスは異なります。）**

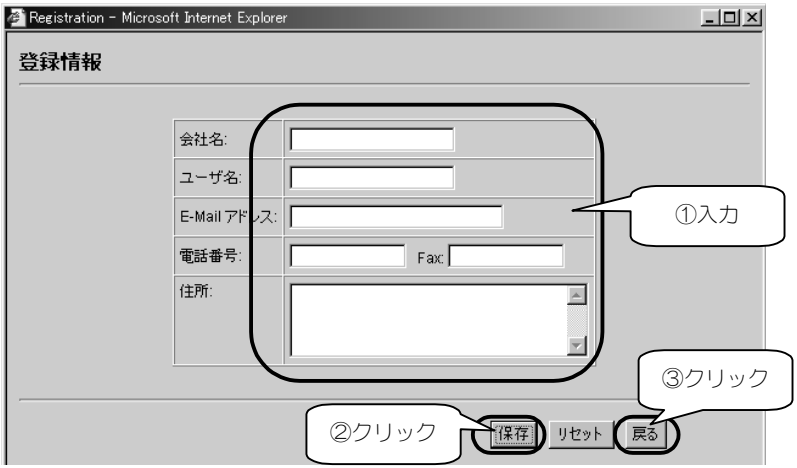
・本製品は、Linux を OS としています。
[現在のサーバ情報]内の[ライセンス情報]をクリックすれば、Linux のライセンスについて確認することができます。

6 以下の画面で、[OK]をクリックします。

手順 **7**で登録情報を保存した場合、次回からこの画面は表示されません。（手順**5**の［アドミニストレーション］ボタンをクリックすると、手順**9**に移ります。）



7 管理者の登録情報を入力します。
入力後、[保存]をクリックし、[戻る]をクリックします。

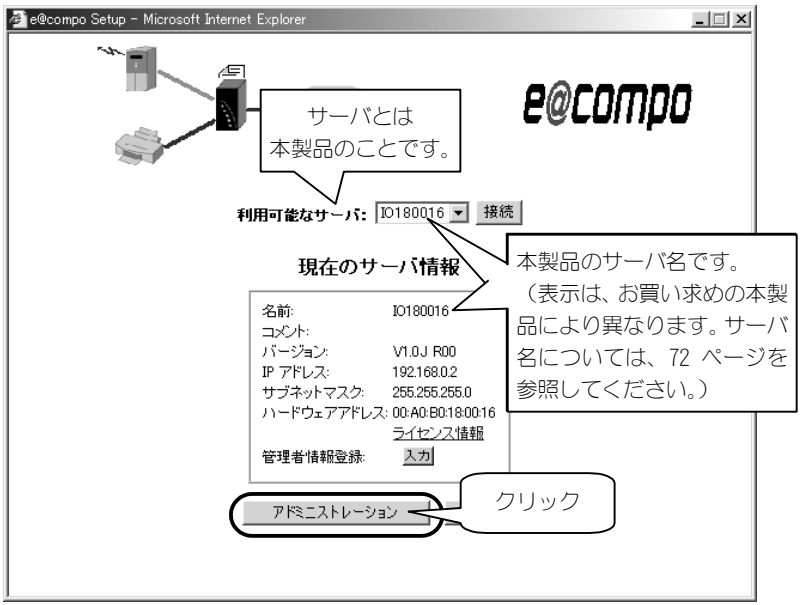


※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

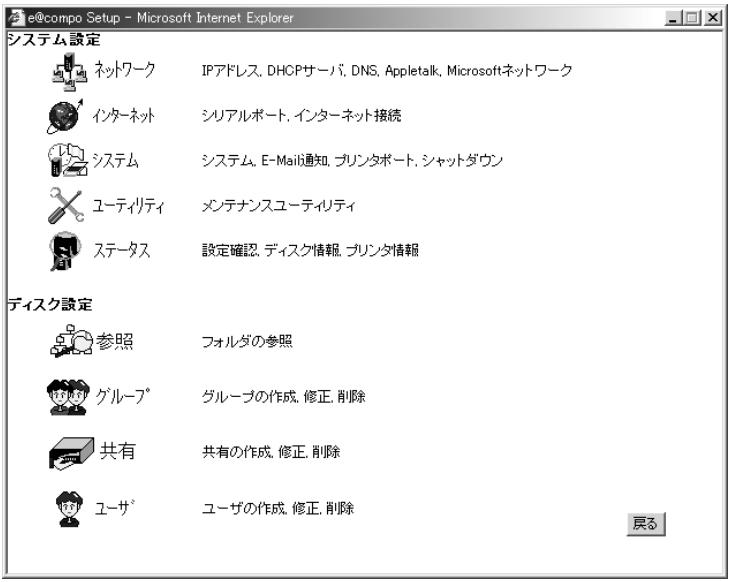
参考

管理者情報を登録しておけば、ネットワーク上に本製品を複数設置したときに、区別しやすくなります。
この画面で、データを入力しなくても、動作上は、特に問題ありませんが、[アドミニストレーション]ボタンをクリックする度に、手順6の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンですぐに設定に移りたい場合（手順9の画面を表示したい場合）は、上記画面の入力後、[保存]、続けて[戻る]をクリックしてください。

8 再度、以下の画面が表示されます。
[アドミニストレーション]ボタンをクリックします。



9 設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。



9. 本製品に最初に設定すること

本製品を使用するには、管理者は以下の設定が必要です。

ステップ１：　本製品の IP アドレスを設定する
ステップ２：　本製品を DHCP サーバとして使用する場合（必要時）
ステップ３：　インターネットを使用する場合（必要時）
ステップ４：　AppleTalk を有効にする（Mac OS ユーザ用：必要時）
ステップ５：　ワークグループ名を設定する（Windows ユーザ用：必要時）

参考

本製品を使用するには、IP アドレス、DHCP などのネットワークの知識が必要です。お分かりにならない場合は、【付録3　TCP/IP の基礎知識】(233 ページ)を参照してください。

上記の各ステップは、設定画面の［ネットワーク］の項目で設定します。

1　設定画面の[ネットワーク]をクリックします。

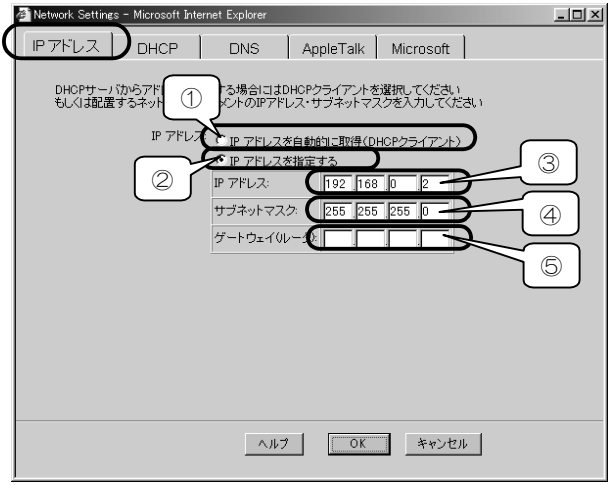
それでは、順に設定しましょう。

ステップ1：本製品の IP アドレスを設定する

本製品を使用するには、［IPアドレス］タブで、本製品のIPアドレスの設定が必要です。

IPアドレスの値は、実際にネットワーク上で使用するお使いのパソコンのIPアドレスと同じクラスで、かつネットワーク上で使用していないIPアドレスに設定します。設定後、［OK］ボタンをクリックします。

（IPアドレスは、ネットワーク上のDHCPサーバから取得することもできます。）



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	IP アドレスを自動的に取得（DHCP クライアント）	ネットワーク上に DHCP サーバがある場合には選択できます。DHCP サーバはパソコンやその他の機器が起動する際に IP アドレスを提供します。 ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合は、「IP アドレスを指定する」（次ページの②）を選択し、IP アドレスを入力（次ページの③）してください。 **注意** ネットワーク上に DHCP サーバが無い状態で、本製品を DHCP クライアントに設定した場合、本製品の再起動後に、DHCP サーバを検出できないために、しばらくすると、初期値の［IP アドレスを指定する］の設定に戻ります。

②	IP アドレスを指定する	ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合にはこちらを選択して値を入力してください。
③	IP アドレス	初期値：192. 168. 0. 2 ネットワークに適した IP アドレスを入力します。
④	サブネットマスク	初期値：255. 255. 255. 0 パソコンやネットワーク上の機器と同じサブネットマスクを使用します。
⑤	ゲートウェイ（ルータ）	初期値：空白 ネットワーク上にルータやゲートウェイが存在する場合には、その IP アドレスを入力します。 ルータやゲートウェイが存在しない場合には、空白または 0. 0. 0. 0 に設定します。

DHCPをご利用になる場合の注意

[DHCP]項目を[有効]に設定して、IP アドレスを DHCP サーバ（例：Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど）から取得する設定にした場合は、DHCP サーバの設定時に本製品の IP アドレスを予約するようお薦めします。

DHCP を使用すると IP アドレスの管理が簡単になりますが、本製品を含め各 DHCP クライアントが使用する IP アドレスが固定でなくなります。
DHCP サーバの中には IP アドレスの予約ができるようになっているもの（例：Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど）がありますので、予約ができる場合は、DHCP サーバの設定時に本製品の IP アドレスを予約してください。

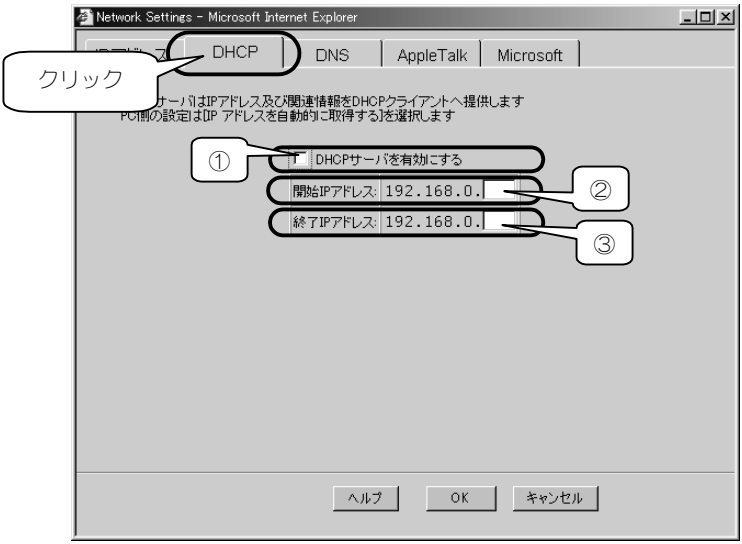
注意！

ネットワーク上に WINS サーバが存在し、WINS による名前解決を行える環境で、以下の場合は IP アドレスの予約を行う必要はありません。
・[SMB]の設定で[WINS]項目を[有効]にしている
・[TCP/IP]の設定で[DHCP]項目を[有効]にしている

ステップ2：本製品を DHCP サーバとして使用する場合（必要時）

本製品をDHCPサーバとして使用する場合は、［DHCP］タブをクリックして、各項目を設定後、［OK］ボタンをクリックします。

・最初（出荷時）、本製品は DHCP サーバには設定されていません。（[DHCP サーバを有効にする]にはチェックは入っていません。）
DHCP サーバとして利用する場合は、[DHCP サーバを有効にする]にチェックを入れてください。
・はじめて LAN を接続する場合や、TCP/IP で IP アドレスを指定して、ネットワークを構築したことがない場合には、「DHCP サーバを有効にする」の設定でのご利用をおすすめ致します。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	DHCP サーバを有効にする	DHCP サーバを有効/無効にします。他に DHCP サーバがある場合には、有効にしないでください。
②	開始 IP アドレス	DHCP サーバが提供する開始 IP アドレスを指定します。この数値は 1～254 の間でなければなりません。
③	終了 IP アドレス	DHCP サーバが提供する最後の IP アドレスを指定します。

注意！

前ページ「② 開始 IP アドレス」と「③ 終了 IP アドレス」の値は、本製品の IP アドレスが含まれない値にする必要があります。
例えば、本製品の IP アドレスを出荷時「192.168.0.2」のまま使用する場合は、
「② 開始 IP アドレス」の値～「③ 終了 IP アドレス」内に「192.168.0.2」を含まないように設定する必要があります。

●DHCP サーバを有効にすると・・・・
各パソコン側の IP アドレスが自動的に割り当てられます。

●DHCP サーバを無効にすると・・・・
各パソコン側の IP アドレスを手動で入力する必要があります。

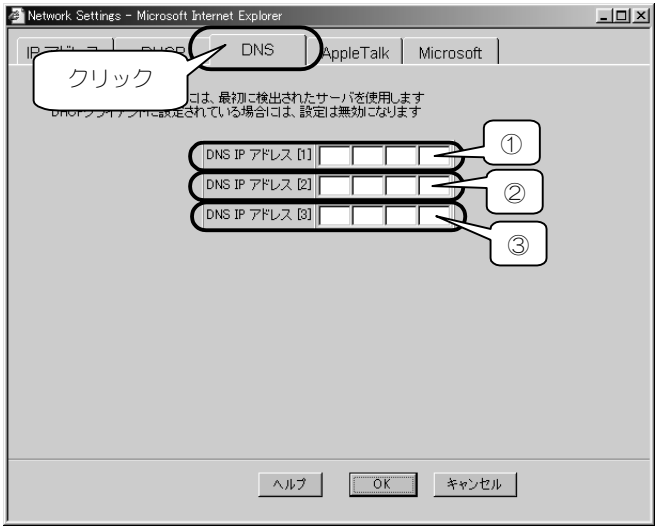
参考

DHCP サーバを有効にした場合、管理者を含め、本製品と同一のネットワーク上のすべてのパソコンを、「DHCP クライアント」として設定します。(Windows の場合、[IP アドレスを自動的に取得]、Mac OS の場合、[DHCP サーバを参照]に設定します。)
DHCP クライアントの設定は、本製品のすべての設定終了後に行います。
(管理者の場合は【12. すべての設定が終了したら】(114 ページ)で、ユーザの場合は、【ユーザ側で最初に設定すること】(131 ページ)にて行います。)

ステップ3:インターネットを使用する場合（必要時）

本製品に接続するモデム・TAを使用して、インターネットに接続する場合は、［DNS］タブをクリックして、プロバイダから案内されているDNS IPアドレスを設定します。

設定後、［OK］ボタンをクリックします。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	DNS IP アドレス（1）	１つ目の DNS サーバの IP アドレス
②	DNS IP アドレス（2）	１つ目の DNS サーバがシステムダウンなどにより、検出できない場合にアクセスする DNS サーバの IP アドレス
③	DNS IP アドレス（3）	２つ目の DNS サーバがシステムダウンなどにより、検出できない場合にアクセスする DNS サーバの IP アドレス

注意！

1)本製品では、DNS サーバの指定を DNS サーバの IP アドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。
2)「E-Mail 通知機能」（213 ページ参照）を使用する場合には、ここでネットワーク内の DNS サーバの IP アドレスの設定を行う必要があります。

参考

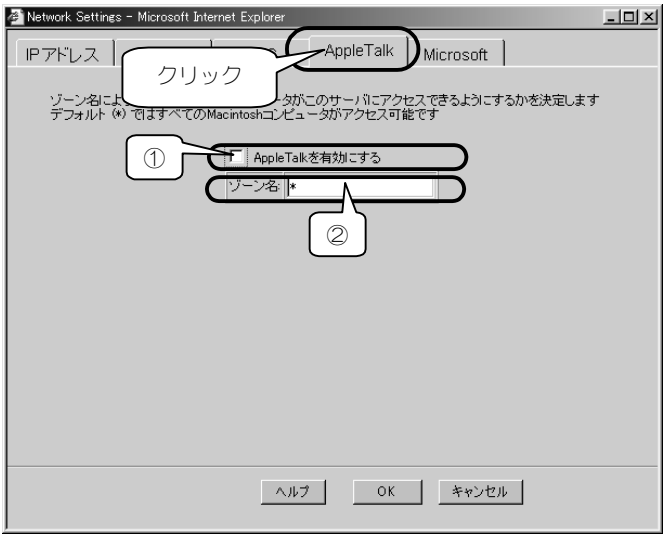
DNS（Domain Name System）はインターネットアドレス(例: www.iodata.jp などの文字列のアドレス）を、数字で構成された IP アドレスに変換します。
この値は、プロバイダから案内されている値を使用してください。
通常、「プライマリ DNS」、「セカンダリ DNS」のように2つの DNS IP アドレスがプロバイダより案内されています。
複数登録されている場合には最初に検出されたサーバが使用されます。

ステップ4：AppleTalk を有効にする（Mac OS ユーザ用：必要時）

本製品を使用するMac OSユーザが、ファイル共有する際のプロトコルとしてAppleTalkをお使いの場合は、以下のAppleTalkの設定を有効にしておく必要があります。

Mac OSユーザが、本製品に接続するプリンタをお使いになる場合は、必ず有効に設定してください。

設定後、［OK］ボタンをクリックします。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	AppleTalk を有効にする	有効になっていない場合は、Mac OS ユーザは AppleTalk で本製品にアクセスできません。
②	ゾーン名	初期値（出荷時）″*″ は、すべての Mac OS ユーザが本製品にアクセスできる設定です。 特定のゾーンだけにアクセスするようにする場合にはゾーン名を入力してください。

ステップ5：ワークグループ名を設定する（Windows ユーザ用：必要時）

ネットワーク上に、Windowsユーザが存在する場合は、以下のMicrosoftネットワークの設定を有効にしてワークグループ名を設定する必要があります。
設定後、［OK］ボタンをクリックします。

※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

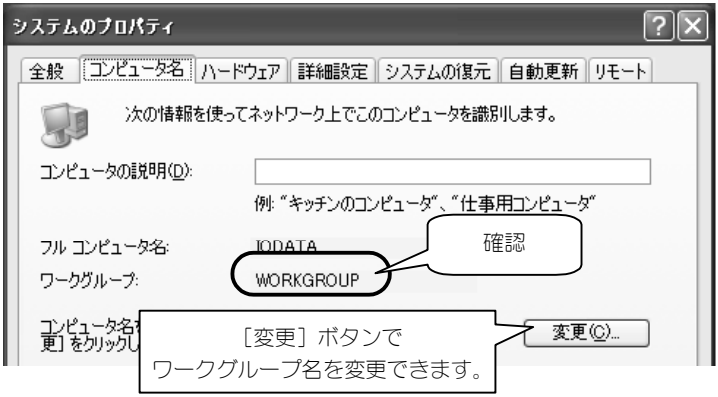
①	**Microsoft ネットワークを有効にする**	無効にした場合には Windows ユーザは、本製品にアクセスできません。
②	**ワークグループ名**	″ワークグループ名″ はパソコンのワークグループ名と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名の確認方法は、次ページ参照） ワークグループ名が一致していない場合にも本製品のハードディスクにアクセスすることは可能ですが、ネットワークを参照した場合には表示されません。
③	**言語コード**	［日本語］を選択します。
④	**WINS を有効にする**	WINS サーバを使用している場合に有効にします 有効になっている場合、WINS サーバに登録されます。この場合、ルータを経由するユーザもネットワークコンピュータで参照できます。（ネットワークコンピュータで同一の LAN セグメントのみを検索する場合を除く）

⑤	WINS サーバ IP アドレス	WINS サーバの IP アドレスを入力します。 通常 Windows NT サーバです。

●パソコンのワークグループ名の確認方法

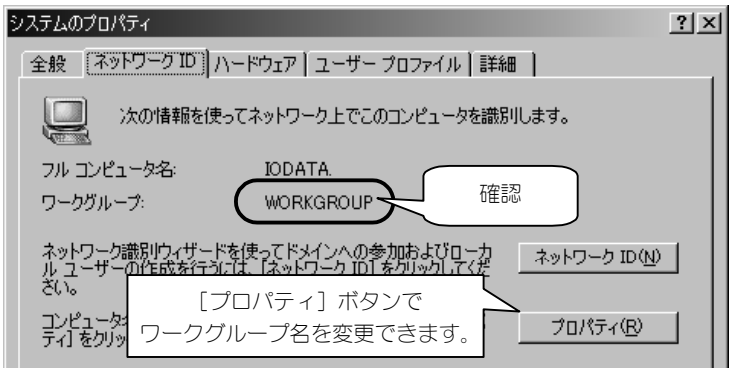
・*Windows XP の場合*

1. ［マイ コンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。
2. ［システムのプロパティ］画面で［コンピュータ名］タブをクリックすれば確認できます。



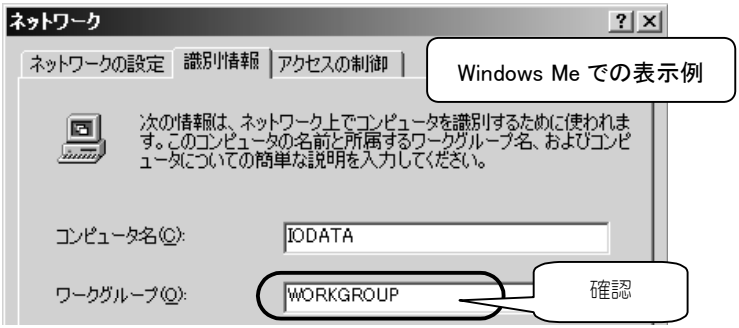
・*Windows 2000 の場合*

1. ［マイ コンピュータ］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。
2. ［システムのプロパティ］画面で［ネットワーク ID］タブをクリックすれば確認できます。



・*Windows Me/98/95 および Windows NT 4.0 の場合*

1. ［マイ ネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。
2. ［ネットワーク］画面で、［識別情報］（または［識別］や［ユーザー情報］）タブをクリックすれば確認できます。



基本的な設定を終了したら

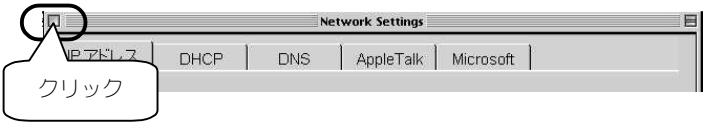
前ページまでの設定がすべて終了したら、[ネットワーク]項目の画面を閉じます。

・Windows での画面の閉じ方

画面の右上の［×］ボタンをクリックして画面を閉じます。

・Mac OS での画面の閉じ方

画面の左上のボタンをクリックして画面を閉じます。



この後、以下の必要な個所へお進みください。

- ハードディスクを共有させる場合
  【①ハードディスクを共有させる場合】（次ページ～）
- インターネット接続を共有させる場合
  【②インターネット接続を共有させる場合】（103ページ～）
- プリンタを共有させる場合
  【③プリンタを共有させる場合】（111ページ～）

10. 機器別の設定
（①ハードディスクを共有させる場合）

ユーザは、ネットワーク経由で本製品にアクセスすれば、本製品のハードディスクを使用することができます。
ここでは管理者は、ユーザにハードディスクを共有させるための設定を行います。

注意！

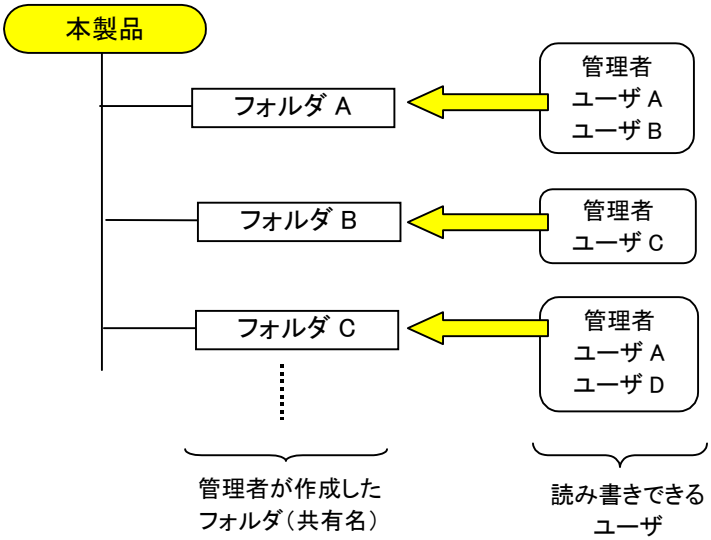
弊社修理窓口では、本製品が故障した場合のデータ復旧サービスは行っておりません。こまめにデータをバックアップするようにしてください。

注意！

本製品のハードディスクの全容量の内、管理者およびユーザが利用可能な容量は、107.4G バイトとなります。（残りは、システムが使用します。）

ハードディスク共有の基本的な考え方

本製品の管理者は、本製品のハードディスク内にフォルダ（共有名）を作成し、ユーザに共有させることができます。
共有は、フォルダ（共有名）単位で、かつ、ユーザ単位で行うことができます。
ユーザは、管理者が作成したフォルダ（共有名）にネットワーク上（［マイネットワーク］あるいは［ネットワークコンピュータ］など）から読み書きできるようになります。



参考

・管理者はすべてのフォルダを読み書きできます。
・フォルダ（共有名）は、「読み書き可」と［読み込みのみ可］の設定ができます。
・複数のフォルダに１人のユーザが読み書きできるようにすることもできます。
（上記例は、ユーザ A は［フォルダ A］と［フォルダ C］に読み書きすることができる例です。）

出荷時のハードディスクの設定を確認する

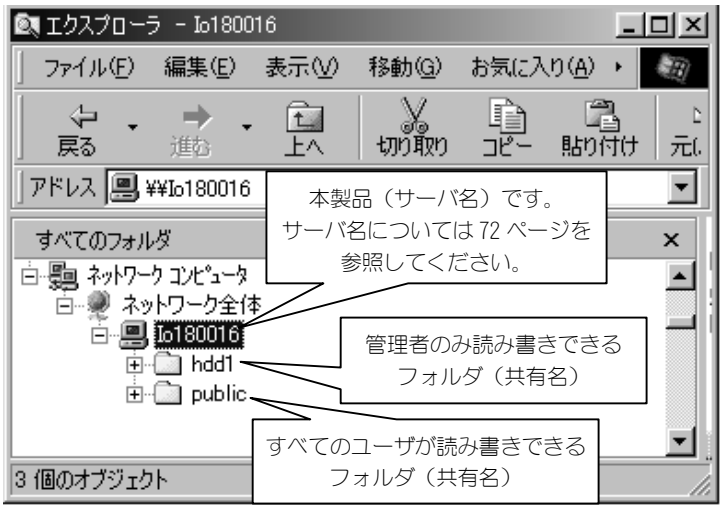
本製品の出荷時の設定を確認しておきましょう。

1. 出荷時のフォルダ（共有名）

出荷時、本製品（本製品のサーバ名の下）にはすでに２つのフォルダが作成されています。

HDD1	管理者のみ読み書きできるフォルダ（共有名）
public	すべてのユーザが読み書きできるフォルダ（共有名）

《Windowsの［ネットワークコンピュータ］から本製品を表示させた例》



参考

サーバ名とは、ネットワーク上で表示される本製品名のことです。（サーバ名については、72 ページを参照してください。）
作成した共有フォルダは、ネットワーク上のサーバ名の下に表示されます。

2. ユーザ名、パスワード

ネットワーク上（［マイネットワーク］あるいは［ネットワークコンピュータ］など）から、本製品のフォルダ（共有名）にアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要です。
管理者は、新しいフォルダ作成時、ユーザ単位に［ユーザ名］と［パスワード］を設定することができます。

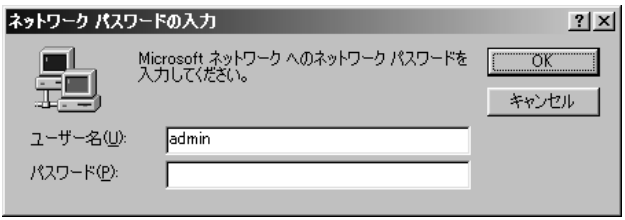
出荷時に作成されている２つのフォルダ（HDD1とpublic）は、以下の［ユーザ名］と［パスワード］でアクセスできるように設定されています。

	ユーザ名	パスワード	備考
HDD1	admin	なし（空欄）	管理者のみ読み書きできるフォルダ（共有名）
public	guest	なし（空欄）	すべてのユーザが読み書きできるフォルダ（共有名）

注意！

本製品（のハードディスク）にアクセスする際の［ユーザ名］と［パスワード］は、Windows や Mac OS でログオンする際の［ユーザ名］（または［名前］）と［パスワード］と一致している必要があります。
例えば、管理者（administrator グループ）が、上記の HDD1 フォルダにアクセスするには、ネットワークのログオン時に、admin でログオン（すべて小文字で入力）する必要があります。

《Windows での管理者のログオン時の入力例》



すでに別の名前でネットワークにログオンしている場合は、admin でログオンし直すか、あるいは、【*新しいフォルダ（共有名）の作成手順②*:ユーザの登録】(88 ページ)以降で、現在使用しているユーザ名とパスワードを administrator グループとして登録してください。

参考

出荷時の状態でのpublicフォルダには、管理者やユーザは、ネットワークにログオンするだけで、自由に読み書きできます。（ユーザ名、パスワードは不要です。また、管理者がユーザ登録を行う必要もありません。）

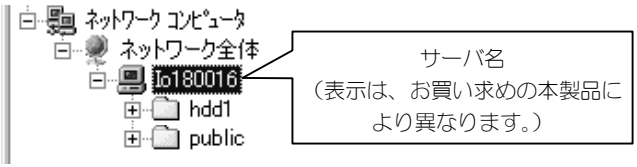
3. サーバ名

ネットワーク上（［マイネットワーク］あるいは［ネットワークコンピュータ］など）から、本製品にアクセスするには、サーバ名※をユーザに知らせる必要があります。次ページの手順で、確認しておいてください。

※ネットワーク上で表示される本製品名。
共有フォルダを作成した場合、サーバ名の下に表示されます。

本製品のサーバ名※	lsxxxxxx （xxxxxx は、お買い求めの本製品により異なります。） 次ページの【サーバ名・日付・時刻の確認】の手順で確認してください。

《Windowsの［ネットワークコンピュータ］から本製品を表示させた例》



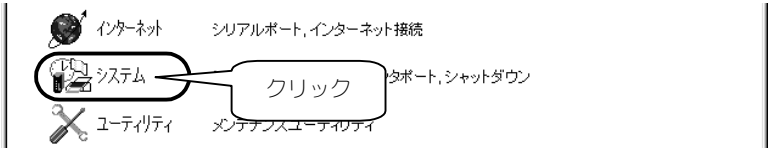
4. 日付・時刻

本製品のシステムで設定されている日付・時刻が正しいことも次ページの手順で、確認しておいてください。

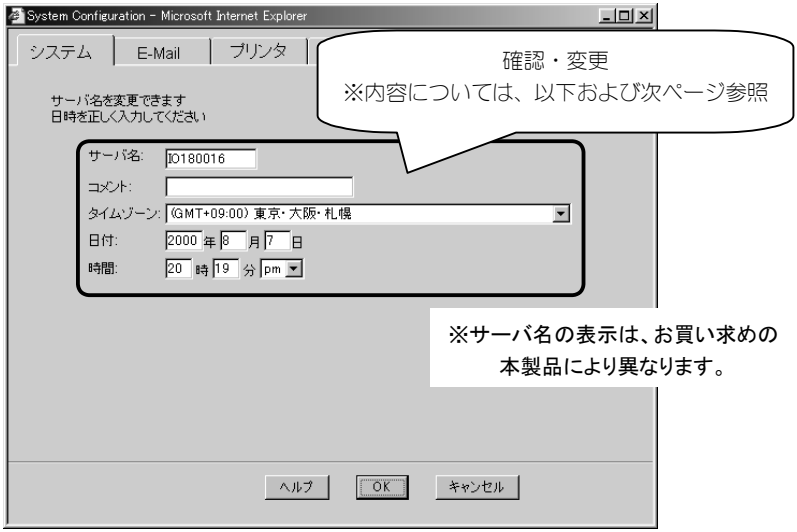
●サーバ名・日付・時刻の確認方法

1 設定画面の[システム]をクリックします。

※設定画面の起動方法は、【8. Webブラウザから設定画面を起動する】（51ページ）参照



2 [サーバ名]でサーバ名を確認・変更できます。
[日付][時間]も間違っていないか確認してください。
変更した場合は、[OK]ボタンをクリックすれば変更されます。



※入力時には、入力個所をクリックしてから入力します。

サーバ名	本製品のサーバ名を変更することができます。 句読点や特殊文字（例　＊／｜￥）および2バイト文字（日本語など）、半角カタカナは使用できません。 共有名として使用されていますので、稼動後は、頻繁には変更しないでください。

コメント	コメントを入力できます。 句読点や特殊文字（例　＊／｜￥）および2バイト文字（日本語など）、半角カタカナは使用できません。 **参考** このコメントは、Windows のネットワークのプロパティ中にある「コンピュータの説明」と同様に、[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]を詳細表示させた際のコメント欄に表示される文字列となります。
タイムゾーン	正しいタイムゾーンを選択します。
日付	現在の日付を入力します。
時間	現在の時刻を入力します。 ［OK］ボタンをクリックすると設定されます。

以上で、出荷時のハードディスクの設定の確認は終了です。
本製品を出荷時のままご使用になる場合は、以下の個所へお進みください。
ユーザ別の詳細な設定を行う場合は次ページへお進みください。

●インターネット接続を共有させる場合
【②インターネット接続を共有させる場合】（103 ページ～）
●プリンタを共有させる場合
【③プリンタを共有させる場合】（111 ページ～）

注意！

単に、ハードディスクを共有ディスクとして使用したい場合は、特に設定の必要はありません。
ただし、管理者以外の各ユーザも public フォルダに簡単にアクセスでき、ハードディスクにファイルを自由に書きこんだり、消去したりすることができるため、重要なファイルの管理には不向きです。
ユーザ別の詳細な設定を行いたい場合は、次ページ以降を参照してください。

ハードディスクに新しいフォルダ（共有）を作成する場合

本製品出荷時には、すでに以下の２つのフォルダ（共有名）が登録されています。

	フォルダ	グループ※	アクセス権限	内容
HDD1	/（ルート）	administrator	Read-Write（読み書き可）	管理者のみ読み書きできる共有
public	/public	everyone	Read-Write（読み書き可）	すべてのユーザが読み書きできる共有

※ユーザは、グループという単位のメンバとして登録されます。グループ毎にアクセス権限が設定され、また、フォルダ（共有名）は1つのグループにのみ関連づけられます。

管理者は上記以外に、以下のようなフォルダ（共有名）を作成することができます。

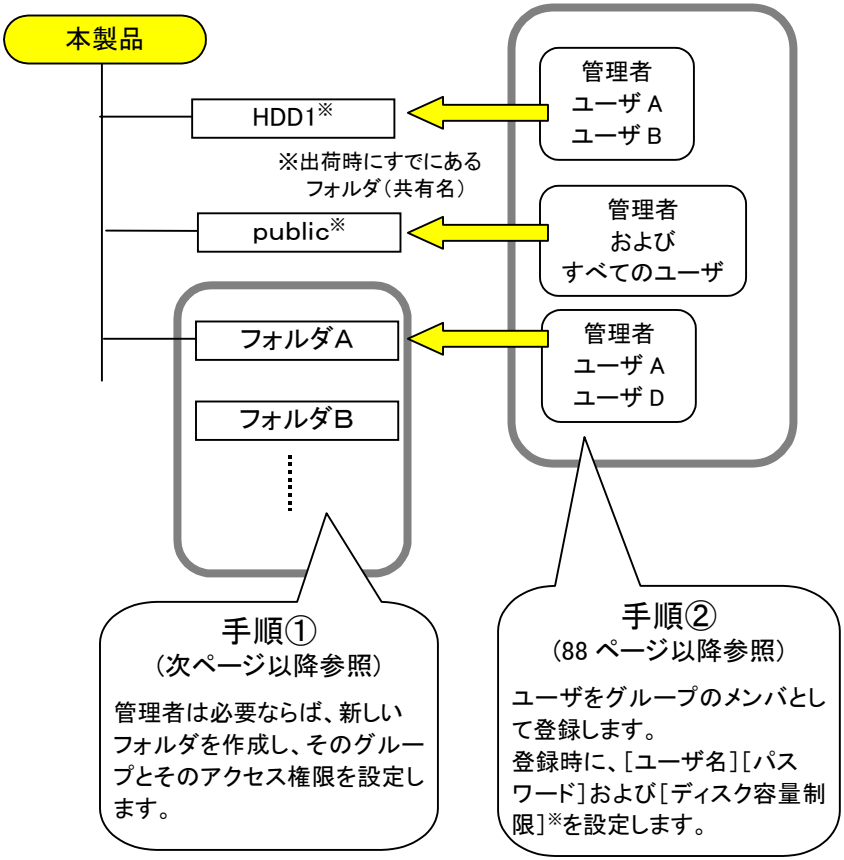
- ユーザ別に、アクセスできるフォルダ（共有名）を指定する
- ユーザ別に、アクセスできるフォルダ（共有名）に「読み込みのみ可」「読み書き可」の属性を設定する
- ユーザ別に、使用できるディスクの容量を制限する

次ページを参照して新しい共有を作成してください。

手順の概要

手順①：新しいフォルダを作成し、そのグループとそのアクセス権限を設定します。

手順②：［手順①］で作成したグループに、ユーザをグループのメンバとして登録します。
登録時に、［ユーザ名］［パスワード］および［ディスク容量制限］を設定します。



※[ディスク容量制限]とは、
ユーザが使用できるディスク
容量の最大サイズの設定のこと
です。

新しいフォルダ（共有名）の作成手順①:共有の設定

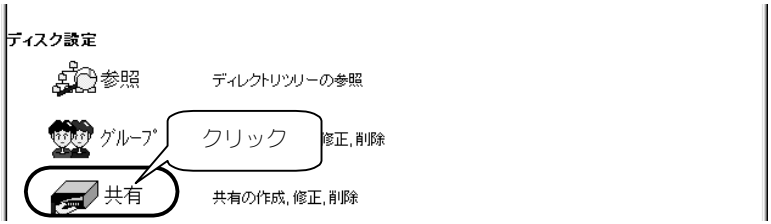
新しいフォルダ（共有名）を作成します。
以下の手順では、新しいフォルダは［共有］という名前で作成します。
［共有］は、ユーザが［読み書き可］あるいは［読み込みのみ可」として設定できるフォルダ(ディレクトリ)です。

注意！

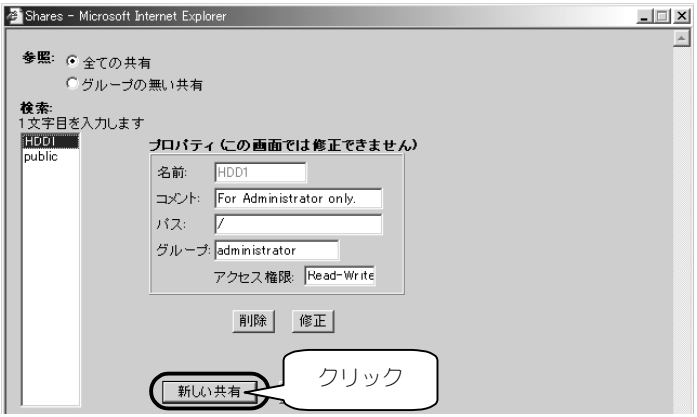
1)共有(フォルダ)は、管理者(admin)だけが作成することができます。
ユーザは、その共有(フォルダ)内にフォルダやファイルを作成することができます。
2)共有(フォルダ)はユーザグループ単位で、アクセスの設定を行います。
ユーザによって、複数の共有フォルダへアクセスさせることも可能です。
3)共有フォルダ内に共有フォルダが存在する場合、外側の共有フォルダへのアクセス権を持つユーザは内部の共有フォルダへ同じ権限でアクセスすることができます。

新しく共有を作成する場合

1 設定画面の[共有]をクリックします。
※設定画面の起動方法は、【8. Webブラウザから設定画面を起動する】（51ページ） 参照



2 [新しい共有]ボタンをクリックします。



注意！

1）"HDD1" と"public" の2つの共有は常に存在し、設定画面から、削除することはできません。

2）"HDD1"の設定は変更できません。

3 画面の入力欄をクリックし、入力します。

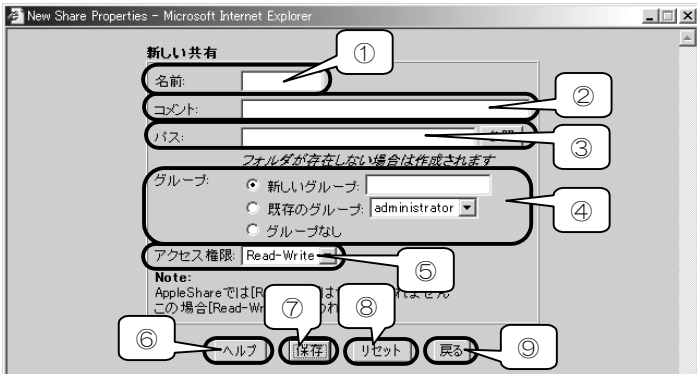
※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

入力後、[保存]ボタンをクリックします。

※入力した名前が消えたら登録終了です。

複数登録する場合は、入力→[保存]を繰り返します。

登録後、[戻る]ボタンをクリックします。



①	**名前**	共有フォルダの名前を入力します。 句読点、特殊文字(例　＊／｜￥)、半角カタカナ、２バイト文字(日本語など)は使用できません。 また、以下の名前は使用できません。 homes global printers
②	**コメント (オプション)**	必要であればコメントを入力します。 句読点、特殊文字(例　＊／｜￥)、半角カタカナ、２バイト文字(日本語など)は使用できません。
③	**パス**	共有フォルダへのパスを入力します。 名前を入力するか、〝参照〟をクリックして選択します。 ユーザからは、この名前のフォルダにネットワーク上からアクセスできるようになります。
④	**グループ**	共有は１つのグループにのみ関連づけられます。 ユーザ登録時には、このグループのメンバとしてユーザを登録します。 **新しいグループ**: 共有に関連付ける新しいグループを作成します。 最初（初期値）に共有名がそのままグループ名として表示されます。 変更する場合には句読点や特殊文字(例　＊／｜￥)および２バイト文字(日本語など)，半角カタカナは使用できません。 **既存のグループ**: 共有を既存のグループに関連付けます。 ドロップダウンリストに既存のすべてのグループ名が表示されます。（次ページの【●参考】参照） **グループなし**: 共有にグループを関連付けません。 この場合ユーザは、この共有名にはアクセスできません。
⑤	**アクセス 権限**	アクセス権限を変更する場合に使用します。 アクセス権限をドロップダウンリストから選択します。 **・Read-Write・・・・・読み書き可能** **・Read-only・・・・・・読み込みのみ可能**
⑥	**ヘルプ**	ヘルプ画面を表示します。

⑦	保存	設定した内容を保存します。 内容に問題があれば、メッセージが表示されます。保存されると、次の入力のためのブランク画面が表示されます。
⑧	リセット	変更した内容をクリアします。
⑨	戻る	手順**2**(78 ページ)の画面に戻ります。

注意！

Windows ⇔ Mac OS間では名前が2バイト文字のファイル/フォルダを共有できません。半角英数文字で設定してください。

●参考：出荷時にすでにある「既存のグループ」

administrator	すべての共有フォルダへ読み書きが可能です。
everyone	常にすべてのユーザに割り当てられます。 （すべてのユーザは、”everyone”グループとなります。） 設定されている内容（参照する共有フォルダなど）を変更することもできます。

注意！

・”everyone” と”administrator” の2つのグループは常に存在し、設定画面から、削除することはできません。
・”everyone” と”administrator” グループは名前を変更できません。

4 ［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じます。

この後、ユーザの登録を行います。
【*新しいフォルダ(共有名)の作成手順②*:ユーザの登録】(88ページ)へお進みください。

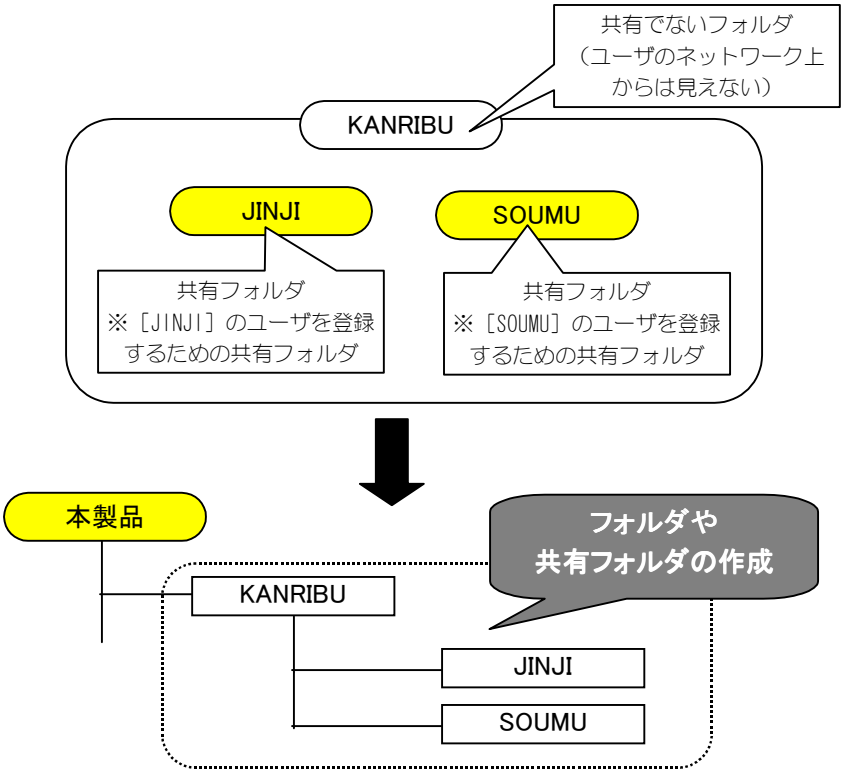
参考1： 深い階層に共有を作成する場合

管理者は、部署や、課、クラス、グループなどの単位でユーザを管理したいときなどに、いくつかの共有フォルダを１つのフォルダ下にまとめて作成することにより、より管理しやすくすることもできます。

参考

ここでは、[JINJI]と[SOUMU]の2つの共有フォルダを、[KANRIBU]という共有でないフォルダ下に作成する手順について説明します。
ユーザはネットワーク上から、共有フォルダのみ参照でき、共有でないフォルダ（[KANRIBU]）は見えません。

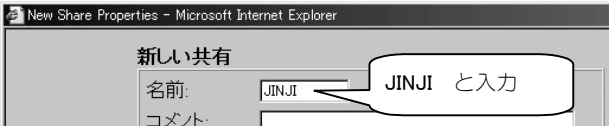
ここでは、以下の例のように、[JINJI]と[SOUMU]の２つの共有フォルダを[KANRIBU]というフォルダ（共有でないフォルダ：共有でないためユーザからは見えません）の下に作成する手順について説明します。



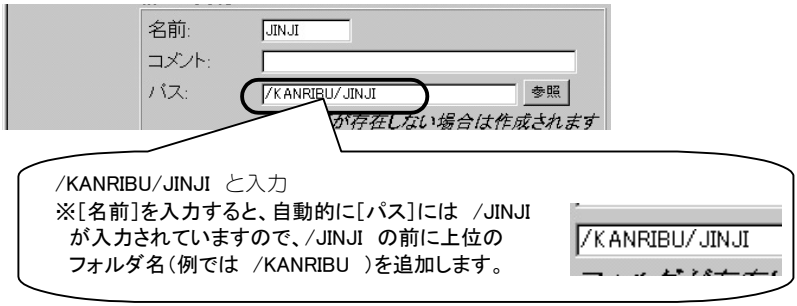
●設定内容

	フォルダ	グループ	アクセス権限
JINJI	/KANRIBU/JINJI	JINJI	Read-Write（読み書き可）
SOUMU	/KANRIBU/SOUMU	SOUMU	Read-Write（読み書き可）

1 [新しい共有]ボタンをクリック後、
共有フォルダ（例では[JINJI]）を作成するために、
[名前]に[JINJI]と入力します。



2 [パス]を入力します。
[パス]には、以下を入力します。
/KANRIBU/JINJI



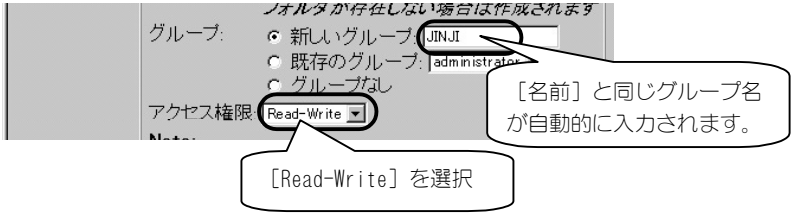
注意！

・必ず、上位のフォルダ名とともに入力してください。
例えば、/JINJI のみにした場合は、HDD1 下に JINJI という共有フォルダが作成されてしまいます。
・上位のフォルダと下位のフォルダの間は、必ず / （スラッシュ）で区切る必要があります。

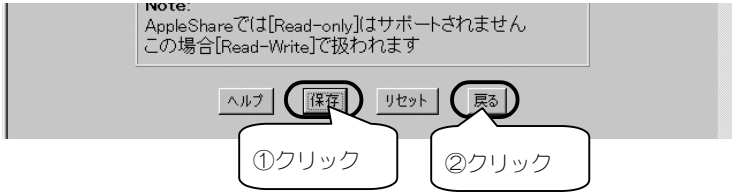
参考

前ページのように、パスに[/KANRIBU/JINJI]と設定すれば、一度で共有でないフォルダ[KANRIBU]と、その下の共有フォルダ[JINJI]を作成することができます。

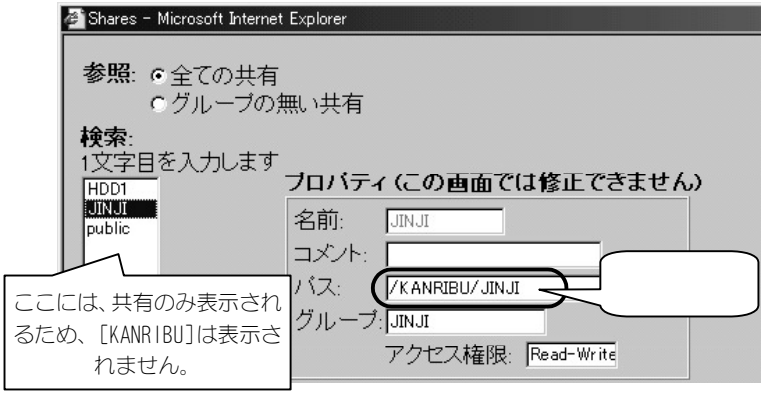
3 [グループ]および[アクセス権限]を確認します。



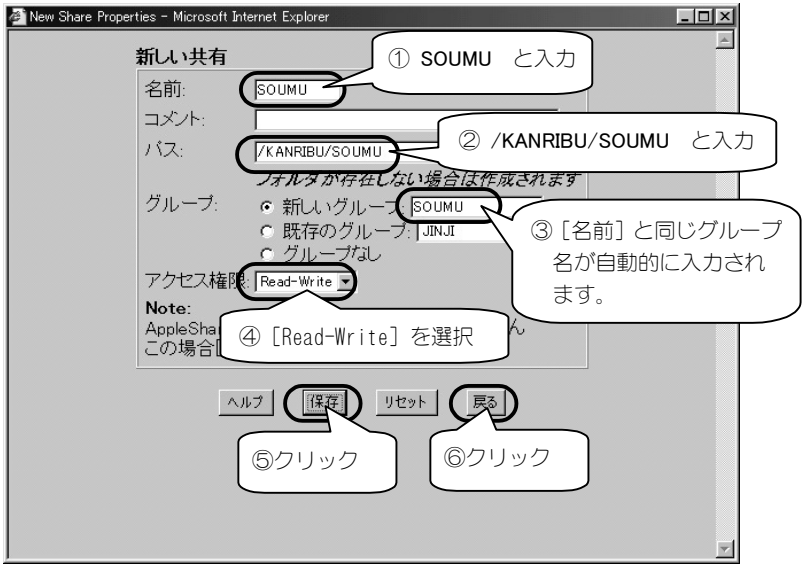
4 [保存]ボタンをクリック後、[戻る]ボタンをクリックすれば共有が作成されます。



5 以下のように[KANRIBU]フォルダ下に[JINJI]が作成されたことが確認できます。



6 同様に、[KANRIBU]フォルダ下に[SOUMU]を作成します。



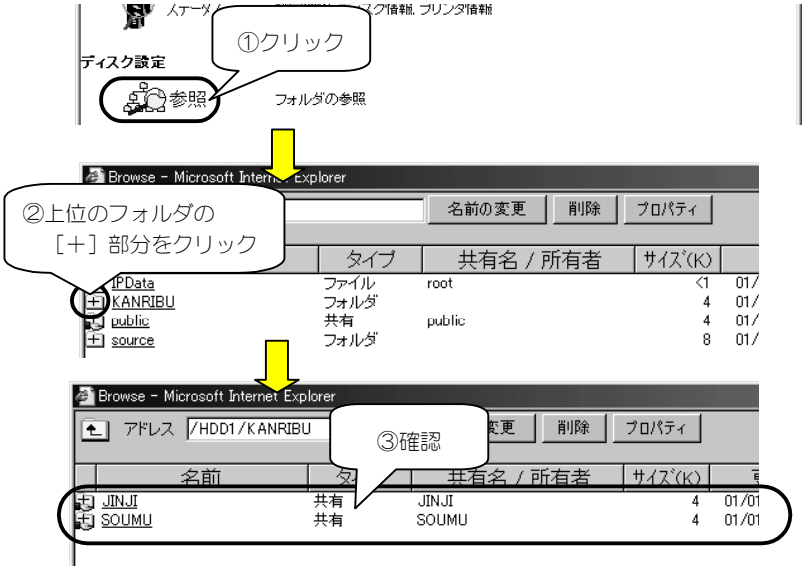
以上で共有の作成は終了です。

この後、ユーザの登録を行います。
【*新しいフォルダ（共有名）の作成手順②*:ユーザの登録】（88ページ）へお進みください。

参考2： 作成したフォルダを確認するには

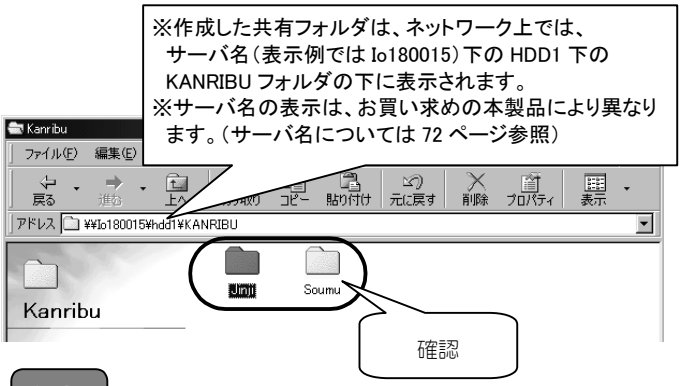
・設定画面の［参照］での表示の確認

設定画面の［参照］をクリックして作成した共有を確認できます。



・管理者から見たネットワーク上での表示の確認

作成した共有は、管理者からは以下のように見えます。

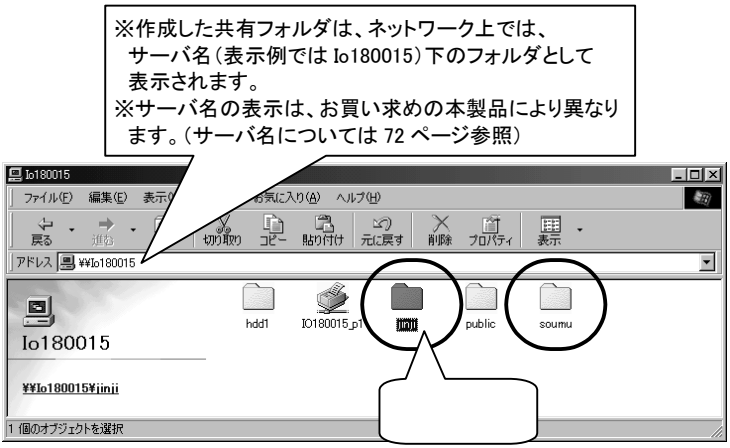


参考

共有は、すべてサーバ名の下の[hdd1]の下に作成されます。

・ユーザから見たネットワーク上での表示の確認

作成した共有に 88 ページ以降で管理者がユーザおよびグループを登録すれば、ユーザからは、ネットワーク上に以下のように見ることができます。



参考

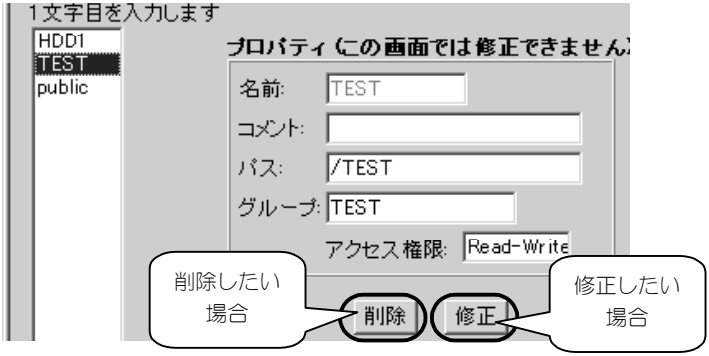
すべての共有フォルダが表示されますが、hdd1 および、新規に作成した共有フォルダには、管理者以外には、88 ページ以降で管理者が登録したユーザのみしかアクセスできません。
（public フォルダにはすべてのユーザがアクセスできます。）

このような登録方法を行うことにより、共有フォルダが複数存在しても管理者は、1つのフォルダ下で共有フォルダを管理することができるようになります。

設定した共有を修正・削除する場合

1 ［検索］欄から修正・削除したい共有名をクリックします。

2 修正したい場合は、［修正］ボタンをクリックすると修正画面が表示されますので、修正してください。
削除したい場合は、［削除］ボタンをクリックして削除できます。



注意！

- **"HDD1" と"public" の2つの共有は常に存在し、設定画面から、削除することはできません。**
- **"HDD1"の設定は変更できません。**
- **共有を削除しても、実際に作成されたフォルダ（画面例の［TEST］）は削除されません。フォルダも削除したい場合は、［設定］画面の［参照］での［削除］ボタンを使って削除してください。（225 ページ参照）**

新しいフォルダ（共有名）の作成手順②:ユーザの登録

共有を作成したら、次にユーザの登録を行います。
ユーザ登録すれば設定完了です。
ユーザ登録は、ユーザをグループのメンバとして登録して行います。

例えば、ユーザAを管理者と同じ権限でアクセスできるようにしたい場合は、
ユーザAを［administrator］グループのメンバとして登録します。
ユーザBを新規で作成した共有フォルダに読み書きできるようにしたい場合は、
“共有フォルダ作成時に同時に登録したグループ”のメンバとして登録します。

本製品出荷時には、すでに以下の２つのユーザが登録されています。
次ページ以降を参照して新しいユーザを登録してください。

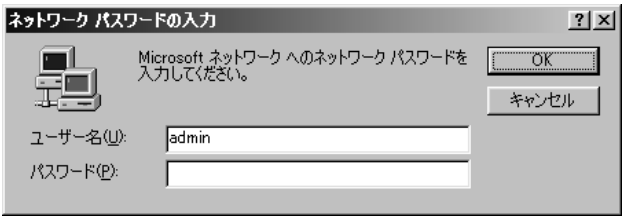
	パスワード	ディスク容量制限	所属するグループ※1	
admin	なし	なし	administrator everyone	管理者用
guest	なし	なし	everyone	ユーザ用

※1 【参考:出荷時にすでにある「既存のグループ」】(80 ページ)参照

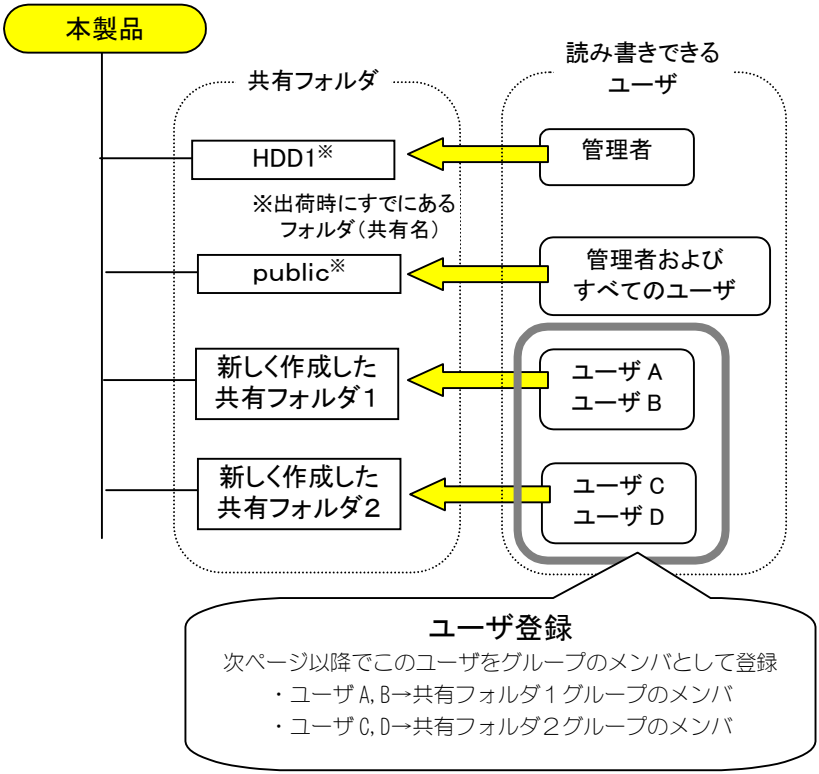
注意！

本製品（のハードディスク）にアクセスする際の[ユーザ名]と[パスワード]は、Windows や Mac OS でログオンする際の[ユーザ名]と[パスワード]に一致している必要があります。
例えば、管理者（administrator グループ）が、HDD1 フォルダにアクセスするには、ネットワークのログオン時に、admin でログオン（すべて小文字で入力）する必要があります。

《Windows での管理者のログオン時の入力例》



管理者が、すでに別の名前でネットワークにログオンしている場合は、admin でログオンし直すか、あるいは、90 ページ以降の手順で、現在使用しているユーザ名とパスワードを administrator グループとして登録してください。



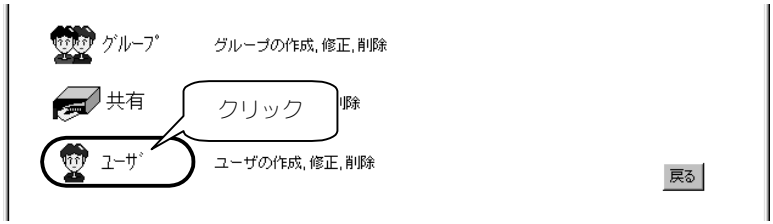
グループのメンバでない限り、フォルダにアクセスできません。
（上記例のユーザ A,B は、共有フォルダ２のデータを読み書きできません。ユーザ C,D は、共有フォルダ１のデータを読み書きできません。）
ただし、管理者はすべてのフォルダにアクセスできます。
また、public フォルダは、ユーザ登録を行わなくても、すべてのユーザがアクセスできます。

参考

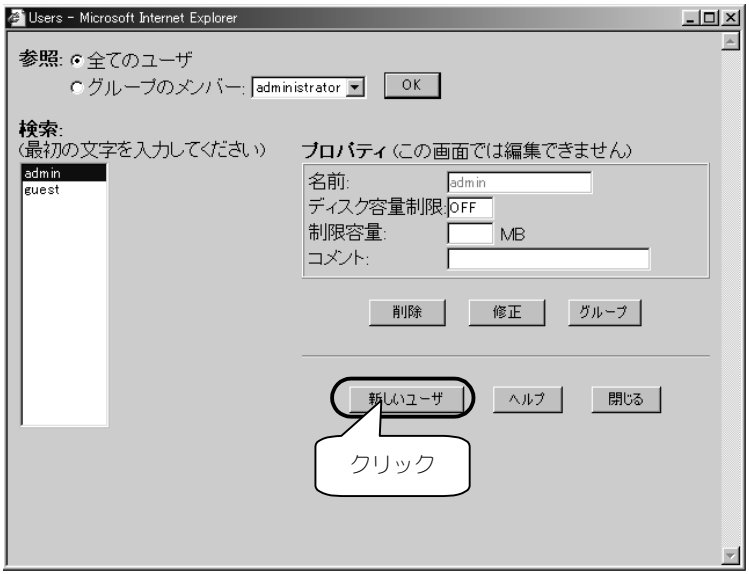
- **本製品（ハードディスク）内のユーザ用publicフォルダには、管理者やユーザからは、ネットワークにログオンするだけで、自由に読み書きできます。（ユーザ名、パスワードは不要です。また、管理者がユーザ登録を行う必要もありません。）**
- **"admin"と"guest"の2つのユーザの設定を変更したい場合は、次ページ手順*2* の[修正]ボタンをクリックして変更できます。**
- **"guest"は最初（出荷時）にディスク容量制限が[OFF]となっており、無制限にファイルを保存できてしまいます。必要な場合は、ディスク容量制限を[ON]にして、制限容量を設定してご使用ください。**

新しくユーザを登録する場合

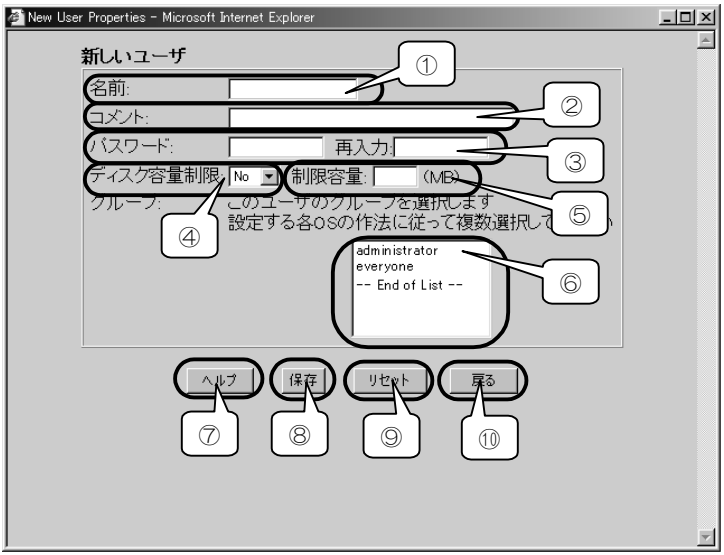
1 設定画面の[ユーザ]をクリックします。
※設定画面の起動方法は、34ページ参照



2 [新しいユーザ]をクリックします。



3 画面の入力欄をクリックし、入力します。
※入力は、入力個所をクリックしてから行います。
入力後、[保存]をクリックします。
※入力した名前が消えたら登録終了です。
複数登録する場合は、入力→[保存]を繰り返します。
登録後、[戻る]をクリックします。



①	名前	ユーザ名を入力します。（次ページ【注意】参照） 20 文字までの ASCII 文字（小文字のみ）を入力できます。 ・以下の文字は使用できません。 ¥ / " [ ] < > . : ; , | = + * ? ' ` 2バイト文字(日本語など) 半角カタカナ
②	コメント (オプション)	必要であればコメントを入力します。 句読点や特殊文字(例　＊ / ｜ ¥) および2バイト文字(日本語など)、半角カタカナは使用できません。
③	パスワード	このユーザのパスワードを入力します。（次ページ【注意】参照） ［再入力］の項にも同じ値を入力します。

④	ディスク 容量制限	Yes か No を選択します。 ［Yes］を選択した場合には、ユーザのディスク使用量の制限値を［⑤ 制限容量］に入力します。
⑤	制限容量 (ディスク使用量)	この項は［④ ディスク使用量制限］で［Yes］がチェックされていない場合には無効になります。有効な場合には、このユーザが使用可能なディスク容量の制限値を表示します。
⑥	グループ	このユーザが所属するグループを選択します。 複数のグループを選択する場合には、ご使用の OS の作法にしたがって、複数を選択してください。
⑦	ヘルプ	ヘルプ画面を表示します。
⑧	保存	このユーザのデータを保存します。 入力されたデータに問題があれば、エラーメッセージが表示されます。それ以外では次のユーザを入力するための新しい画面が表示されます。
⑨	リセット	フォームをリセットします。 入力したデータは消去されます。
⑩	戻る	手順 ***2*** (90 ページ) の画面に戻ります。

注意！

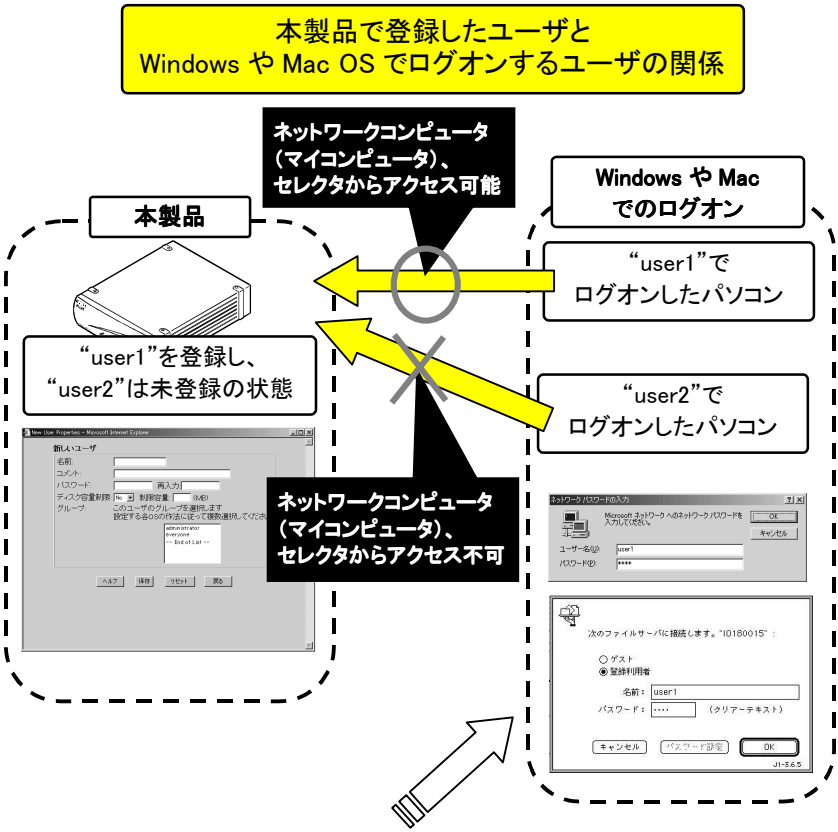
本製品（のハードディスク）にアクセスする際の［ユーザ名］と［パスワード］は、Windows や Mac OS でログオンする際の［ユーザ名］と［パスワード］に一致している必要があります。
すでにネットワークにログオン時の［ユーザ名］と［パスワード］がある場合は、前ページ画面の［名前］にその［ユーザ名］を、［パスワード］にその［パスワード］を入力してください。
ネットワークにログオン時の［ユーザ名］と［パスワード］がない場合は、ここで登録した［ユーザ名］と［パスワード］でネットワークにログオンしてください。
次ページの【参考】も参照してください。

4 ［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じます。

以上でユーザの登録は終了です。

参考： 登録したユーザで各 OS からアクセスするには

本製品（のハードディスク）にアクセスする際の［ユーザ名］と［パスワード］は、Windows や Mac OS でログオンする際の［ユーザ名］（あるいは［名前］）と［パスワード］に一致している必要があります。



ここでは、Windows や Mac OS での［ユーザ名］と［パスワード］の登録およびログオンについて説明します。

- ・Windows XP の場合 → 次ページを参照
- ・Windows 2000 の場合 → 97 ページを参照
- ・Windows Me/98/95 の場合 → 100 ページを参照
- ・Windows NT 4.0 の場合 → 100 ページを参照
- ・Mac OS の場合 → 100 ページを参照

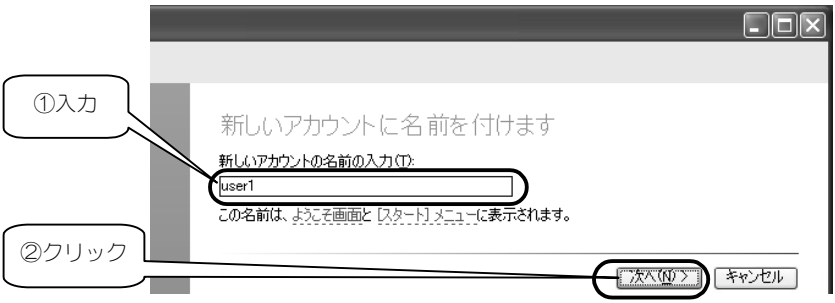
●Windows XP での［ユーザ名］と［パスワード］

Windows XP の場合、Windows XP へのユーザ登録が必要となります。
すでに Windows XP へのユーザ登録を終了している場合は、その［ユーザ名］と［パスワード］で本製品に登録してください。
Windows XP へのユーザ登録を終了していない場合は、本製品に登録した［ユーザ名］と［パスワード］を、以下の手順で Windows XP に登録してください。
（以下の手順は、Windows XP に［user1］でユーザ登録する例です。）

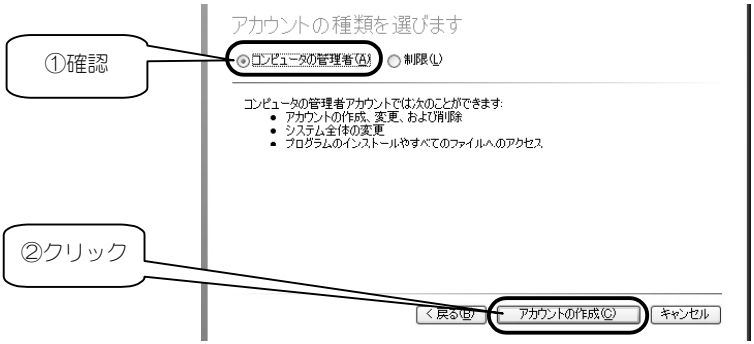
1 ［スタート］→［コントロールパネル］を順にクリックし、［ユーザーアカウント］アイコンをダブルクリックします。

2 ［新しいアカウントを作成する］をクリックします。

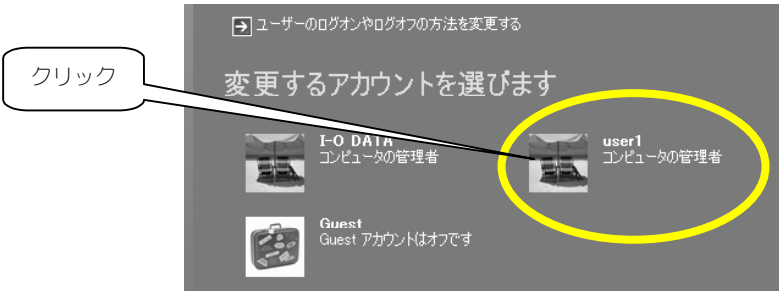
3 “user1”を入力後、［次へ］ボタンをクリックします。



4 [コンピュータの管理者]が選択されていることを確認後、
[アカウントの作成]ボタンをクリックします。
→アカウントが作成されます。

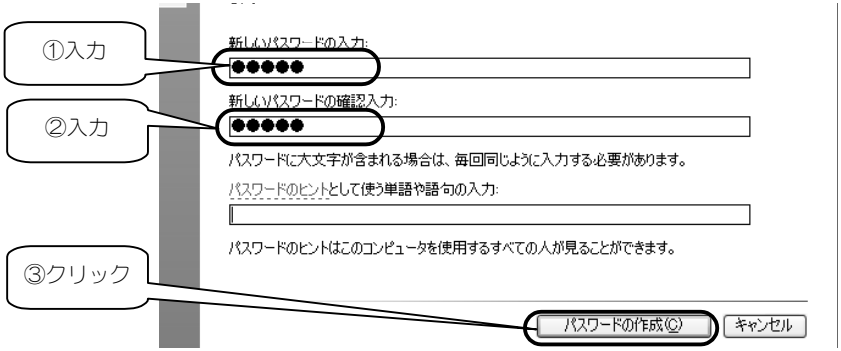


5 パスワードを設定します。
作成したアカウントをクリックします。



6 ［パスワードを作成する］をクリックします。

7 本製品で登録した［パスワード］を入力後、［新しいパスワードの確認入力］にも同じ［パスワード］を入力します。
入力後、［パスワードの作成］ボタンをクリックします。



注意！

パスワードは、「●●●●●」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字・小文字などを間違えないように注意してください。

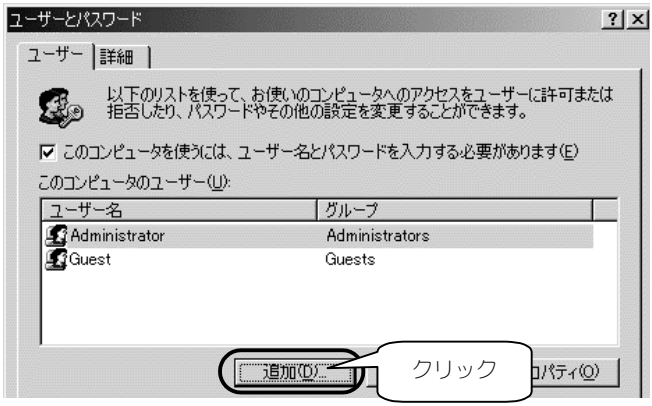
以上で終了です。

●*Windows 2000 での［ユーザ名］と［パスワード］*

Windows 2000 の場合、Windows 2000 へのユーザ登録が必要となります。
すでに Windows 2000 へのユーザ登録を終了している場合は、その［ユーザ名］と［パスワード］で本製品に登録してください。
Windows 2000 へのユーザ登録を終了していない場合は、本製品に登録した［ユーザ名］と［パスワード］を、以下の手順で Windows 2000 に登録してください。
（以下の手順は、Windows 2000 に［user1］でユーザ登録する例です。）

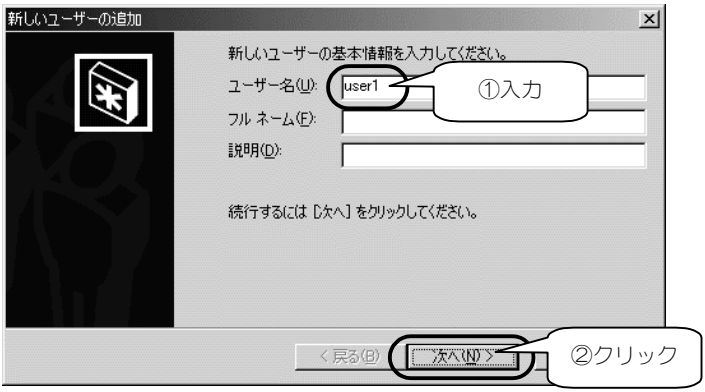
1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックし、［ユーザーとパスワード］アイコンをダブルクリックします。

2 ［追加］ボタンをクリックします。



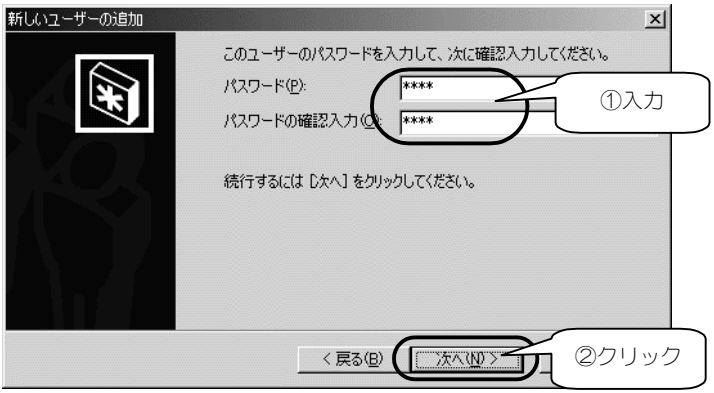
3 本製品で登録した[ユーザ名]を入力（小文字で入力）後、[次へ]ボタンをクリックします。

※以下は、[user1]というユーザ名でログオンするユーザの入力例です。



4 本製品で登録した[パスワード]を入力後、[パスワードの確認入力]にも同じ[パスワード]を入力します。

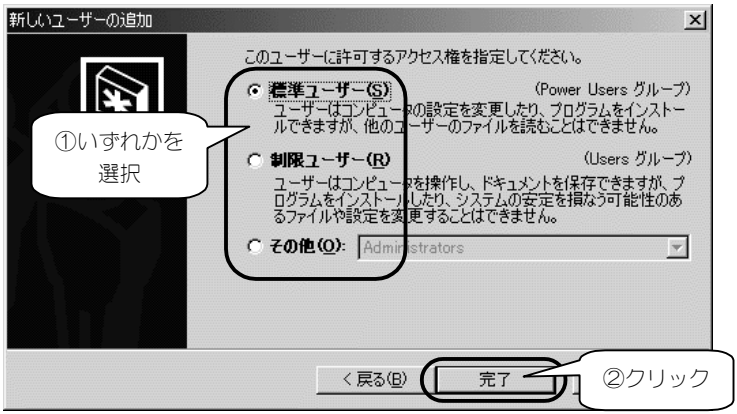
入力後、[次へ]ボタンをクリックします。



注意！

パスワードは、「**」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字・小文字などを間違えないように注意してください。**

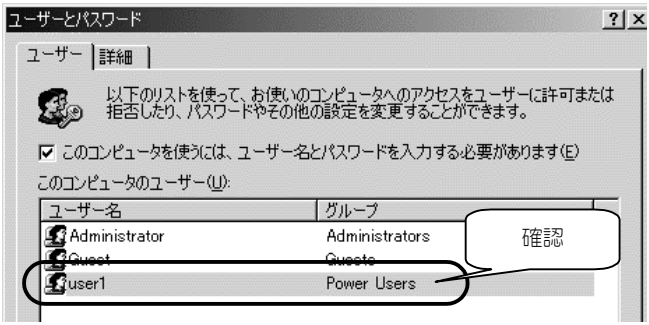
5 Windows 2000でのアクセス権を指定し、
[完了]ボタンをクリックします。



参考

ここで指定するアクセス権は、Windows 上でのものであり、本製品のアクセス権とは無関係となります。例えば、Windows 2000 にて Administrator 権限を持っているが、本製品の Administrator 権限を持っていないといった設定もできます。

6 本製品で登録したユーザ名が、
Windows 2000でも登録されていることを確認します。

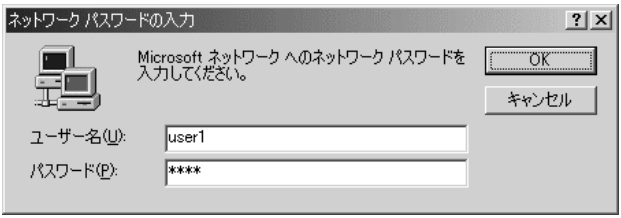


上記のようなユーザ名[user1]でWindowsにログオンしたユーザは、
[マイネットワーク]上から、本製品に[user1]で登録した権限で本製品にアクセスできます。

●Windows Me/98/95 での［ユーザ名］と［パスワード］

本製品（のハードディスク）にアクセスするには、Windows 起動時の［ネットワークパスワードの入力］画面で、本製品に登録した［ユーザ名］と［パスワード］を入力する必要があります。

Windows 起動後、本製品に登録した権限で、［マイネットワーク］（または［マイコンピュータ］）上から本製品にアクセスできます。



●Windows NT 4.0 での［ユーザ名］と［パスワード］

Windows NT 4.0 の場合、Windows NT 4.0 へのユーザ登録が必要となります。すでに Windows NT 4.0 へのユーザ登録を終了している場合は、その［ユーザ名］と［パスワード］で本製品に登録してください。

Windows NT 4.0 へのユーザ登録を終了していない場合は、本製品に登録した［ユーザ名］と［パスワード］を、［スタート］→［プログラム］→［管理ツール］→［（ドメイン）ユーザマネージャ］からユーザ登録してください。

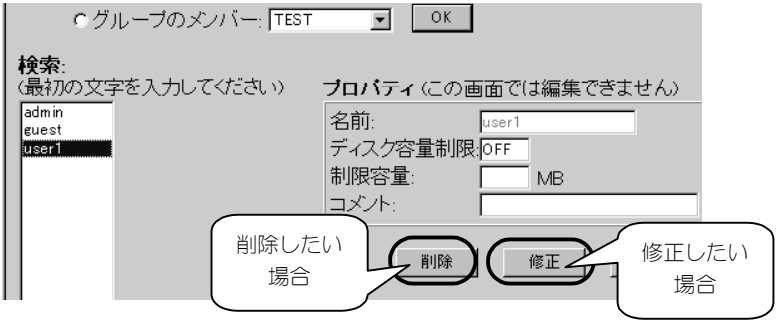
●Mac OS での［名前］と［パスワード］

Mac OS 8.0～9.2.2 の場合は、［アップルメニュー］→［セレクタ］→［AppleShare］→［loxxxxxx］→を選択し、［接続］ボタンをクリックした際に、以下の画面が表示されます。ここでは、［登録利用者］を選択し、［名前］と［パスワード］に本製品に登録した［ユーザ名］と［パスワード］を入力すれば、本製品にアクセスできるようになります。

設定したユーザを修正・削除する場合

1 ［検索］欄から修正・削除したいユーザ名をクリックします。

2 修正したい場合は、［修正］ボタンをクリックすると修正画面が表示されますので、修正してください。
削除したい場合は、［削除］ボタンをクリックして削除できます。



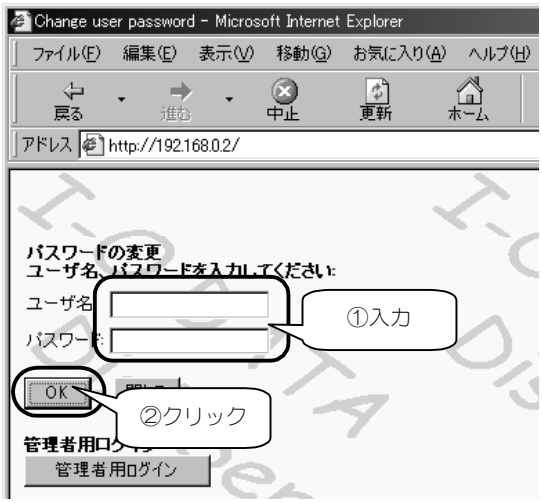
注意！

1) "admin" と"guest" の2つのユーザの設定を変更したい場合は、上記の手順 2 の［修正］ボタンをクリックして変更できます。
また、"admin" と"guest" の2つのユーザは常に存在し、設定画面から削除することはできません。

2)修正画面では、グループを変更できません。
［グループ］項目の［メンバー］ボタンで変更してください。(227 ページ参照)

参考

登録したユーザのパスワードを変更したい場合は、以下の画面（52 ページの手順 3 の画面）上からでも変更できます。
すでに登録済みの[ユーザ名]を入力し、変更したい[パスワード]を入力後、[OK]ボタンをクリックすれば変更できます。



10. 機器別の設定 （②インターネット接続を共有させる場合）

ユーザは、ネットワーク経由で本製品に接続したモデム・TAを使って、インターネットにアクセスすることができます。
ここでは管理者は、モデム・TA の設定およびインターネットに関する設定を行います。

参考

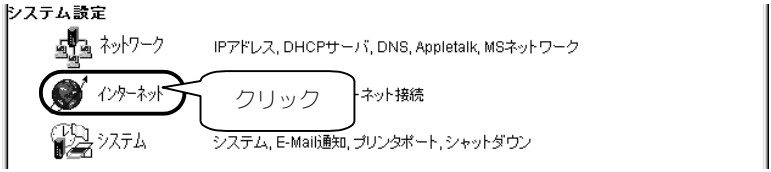
本製品にモデム・TA を接続しなくても、本製品でのモデム・TA の設定ができます。
実際の接続は、【12. すべての設定が終了したら】(114 ページ)にて行います。

ステップ 1 :プロバイダと契約する

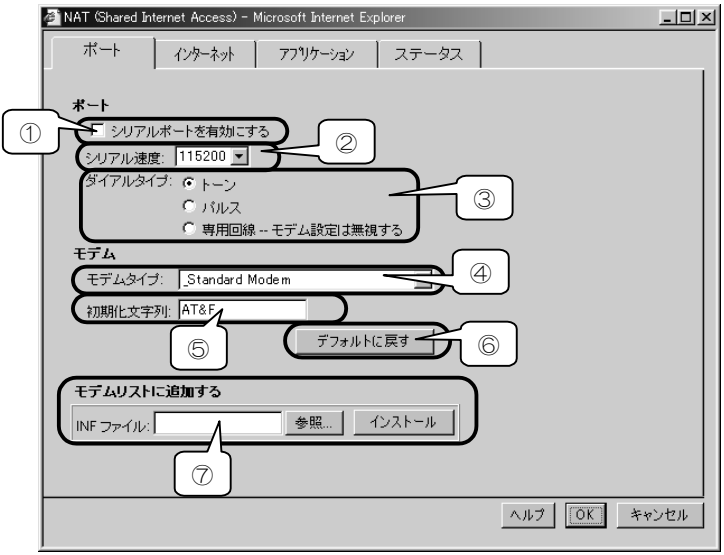
すでにインターネットに接続したことがある場合は、プロバイダからの資料を用意し、次ページ【ステップ2】へお進みください。
インターネットに接続したことがない場合は、インターネット接続サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップIP接続の契約を行ってください。
契約後、接続のためのユーザー名、パスワード、接続先の電話番号などをプロバイダから教えてもらいます。プロバイダからの資料を用意し、次ページ【ステップ2】へお進みください。

ステップ2：モデム・TA を設定する

1 設定画面の[インターネット]をクリックします。



2 [ポート]タブの項目を設定します。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

参考

アナログモデムを使用する場合、ほとんどの場合には最初（出荷時）の設定で動作します。
リストにのっていないモデム/TA を使用する場合、そのモデムの Windows 98/95 用の INF ファイル（Windows 98/95 用モデムドライバ）を持っていればモデムリストに追加することもできます。

①	シリアルポートを有効にする	シリアルポートを経由したインターネットアクセスの有効/無効を設定します。
②	シリアル速度	使用するモデム・TA がサポートする最高速度を選択します。ここでの値は、シリアルポートでの速度であって、電話回線の速度ではないことに注意してください。専用回線を使用する場合は、使用する専用回線の速度を選択してください。（通常は、115200bps を選択してください。）
③	ダイアルタイプ	モデム・TA に接続した回線の種類を選択します。 専用回線など常時接続の場合は、「専用回線」を選択します。「④ モデムタイプ」設定の内容は無視されます。 **注意:「シリアル速度」は専用回線の速度に一致していなければなりません。**
④	モデムタイプ	リストから使用するモデム・TA を選択します。 ・"_Standard Modem" を選択し、動作を確認します。（多くのモデムは、この設定で動作可能です。） ・"Other"を選択し、適切な初期化文字列（AT コマンド）を入力します。この初期化文字列が、モデム・TA の回線速度、ダイアル方法を設定します。 **※サポートする AT コマンドについてはモデム･TA の取扱説明書を参照してください。** ・使用するモデム・TA の Windows 98/95 用 INF ファイルがある場合、そのモデム･ TA をモデムリストに追加できます。（手順については次ページ参照）
⑤	初期化文字列	プロバイダに接続を行う前に、モデム・TA に対して行う設定用の AT コマンドです。「Other」以外のモデム・TA については設定を変更することはできません。 「Other」を選択する場合、サポートするコマンドについてはモデム・TA の取扱説明書を参照してください。
⑥	デフォルトに戻す	画面表示されている値を初期値（出荷時設定値）に戻します。
⑦	モデムリストに追加する	使用するモデム・TA をリストに追加するための INF ファイルの指定を行います。 INF ファイルは、Windows 98/95 用のみ対応です。 （手順については、次ページ参照）

●モデムリストへの追加手順

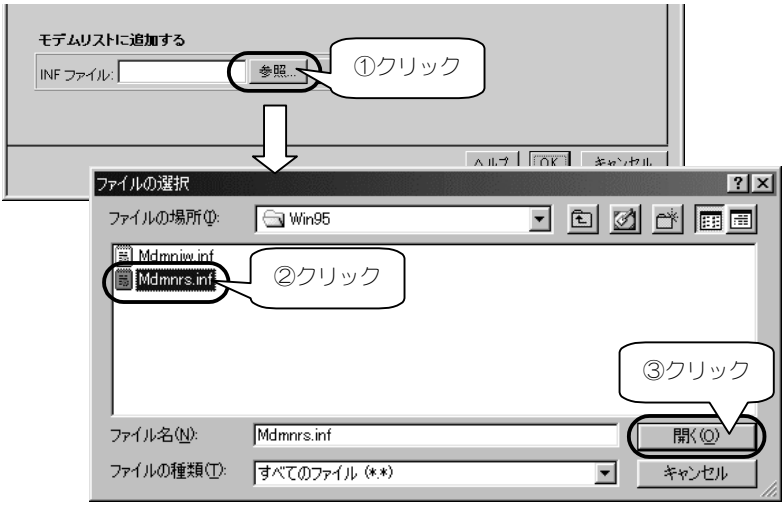
注意！

モデムリストに追加する INF ファイルは、管理用パソコンに、Windows XP、Windows 2000,Windows Me,Windows NT 4.0 や Mac OS をお使いの場合でも、Windows 98 または Windows 95 用の INF ファイルをご使用ください。
（Windows XP,Windows 2000,Windows Me,Windows NT 4.0 の INF ファイルおよび Mac OS 用モデム定義ファイル[CCL ファイル]には、対応しておりません。）

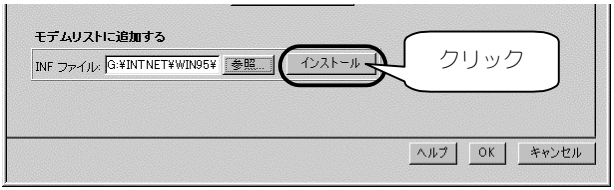
以下は、NEC Aterm RS20 を追加する場合の例です。

1 INFファイル（Windows 98/95用モデムドライバ）のあるディスクをセットします。

2 [参照]ボタンをクリックし、INFファイルのある場所を指定します。

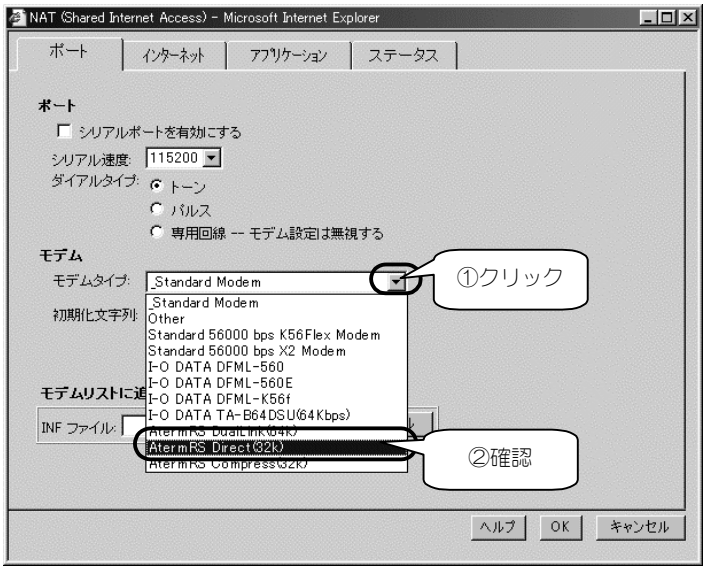


3 [インストール]ボタンをクリックします。



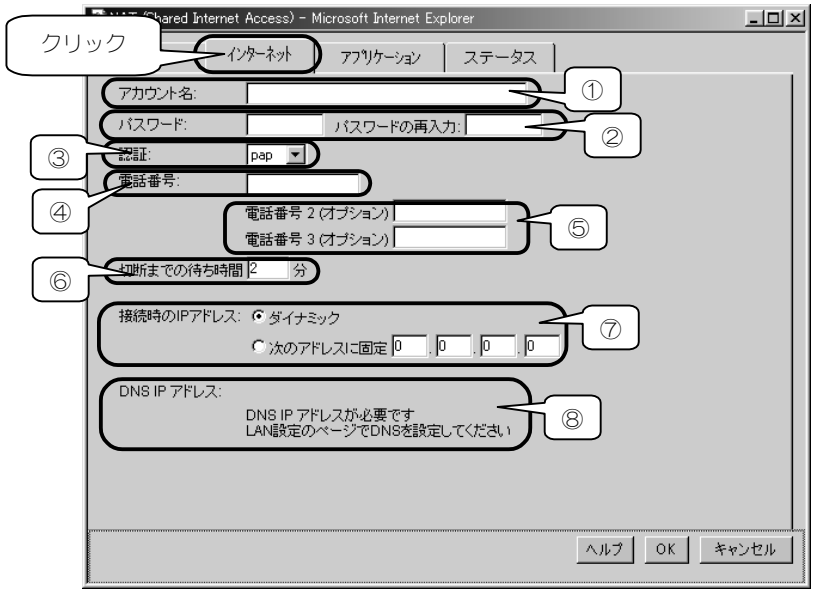
4 登録が完了すると、以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。

5 モデムリストへ追加されたことを確認してください。



ステップ3：インターネット関連を設定する

1 [インターネット]タブをクリックし、プロバイダの案内に応じて、各項目を入力してください。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	アカウント名	プロバイダで指定されたインターネットアカウント名を入力します。プロバイダによっては「ユーザ名」と呼んでいるところもあります。	
②	パスワード	上記のアカウント名のパスワードを入力します。 「パスワードの再入力」欄にもう一度パスワードを入力して、このパスワードが正しいかどうか確認します。	
③	認証	プロバイダの案内に応じて以下のいずれかを設定します。	
		CHAP	PPPなどにおけるユーザー認証方法の１つ。 PAP と違って、ユーザー名やパスワード情報をそのまま渡さない（流さない）ため、安全性が高い。
		PAP	PPPにおけるユーザー認証方法の１つ。 PPPにおける最も簡単な認証方式ですが、 通信回線をモニタされるとユーザー名とパスワード情報が盗まれる可能性があります。

④	電話番号	プロバイダに接続するための電話番号（アクセス番号）を入力します。数字(0～9)とコンマ(,)のみ使用できます。 専用線を使用する場合には、空白のままにしてください。
⑤	電話番号 2 & 3	これらはオプションです。 入力しておけば、最初の電話番号が利用できないとき、順番にこれらの番号にダイアルします。
⑥	切断までの 待ち時間	入力した時間の間、データ通信が行われていなければ自動的に切断します。 アナログ回線を使用している場合には、再接続に必要な時間の遅延を避けるために長めに設定（例 20 分）することができます。 ISDN を使用している場合には、接続の遅延は短く、1 分程度に設定しておけば良いと思われます。 専用回線を使用する場合には、ここでの設定は関係ありません。
⑦	接続時の IP アドレス	プロバイダに接続したときに IP アドレスが割り振られる場合は、「ダイナミック」を選んでください。（出荷時設定） 接続したときに割り振られるのではなく、すでに IP アドレスを提供されている場合には、「次のアドレスに固定」を選択し、そのアドレスを記入してください。 詳細は、プロバイダにご確認ください。
⑧	DNS IP アドレス	プロバイダに接続するには、少なくとも 1 つの DNS IP アドレスが必要です。 「ネットワーク」項目の「DNS」タブで設定します。 （61 ページ参照）

注意！

本製品では、DNS サーバの指定を DNS サーバの IP アドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。

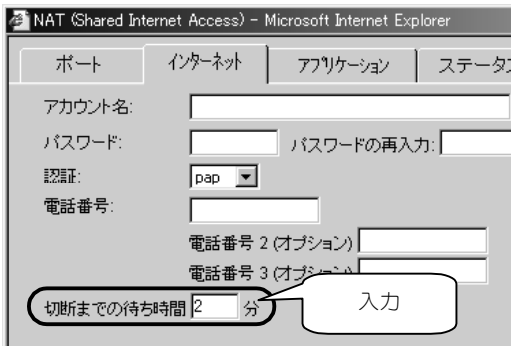
以上でモデム・TA の共有設定は終了です。

補足：インターネットを切断するには

ユーザが、インターネットにブラウザでアクセス後、ブラウザを終了しても、接続は終了していません。
切断する場合は、以下の２通りがあります。

方法１：

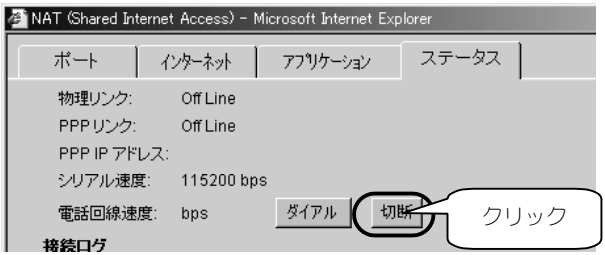
［インターネット］タブでの［切断までの待ち時間］で切断までの待ち時間を設定します。



設定画面の［インターネット］をクリックし、
［インターネット］タブをクリックした画面

方法２：

［ステータス］タブ画面で、［切断］ボタンをクリックします。



設定画面の［インターネット］をクリックし、
［ステータス］タブをクリックした画面

10. 機器別の設定
（③プリンタを共有させる場合）

ユーザは、ネットワーク経由で本製品に接続したプリンタを、ネットワークプリンタとして使用することができます。
ここでは管理者は、ユーザがプリンタ設定する際の共有名などを設定します。

本製品出荷時には、すでに以下の設定が登録されています。

プリンタの共有名	ユーザはこの名前でネットワークプリンタとして登録できます。 設定値： xxxxxxx_p1 （xxxxxxx には、本製品のデバイス名が入ります。）
Mac OS 用の プリンタタイプ	設定値： LaserWriter または互換のポストスクリプトプリンタ

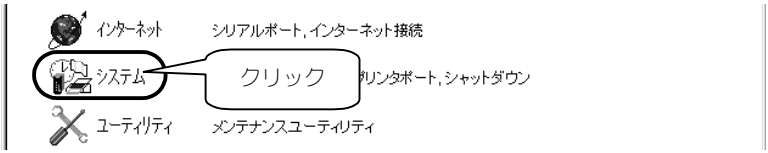
注意！

- **Mac OS から印刷する場合、本製品に接続できるプリンタは、LaserWriter 互換プリンタのみです。**
- **WPS(Windows Printing System)プリンタは、その仕様上本製品に接続して利用できません。**
- **プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムには対応していない場合があります。**

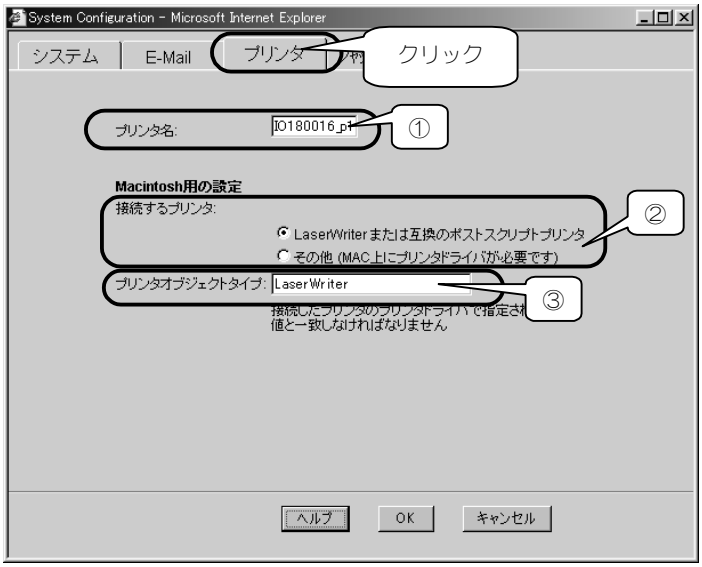
設定を確認・変更する場合は、以下の手順にて行えます。

1 Mac OS上からプリンタを使用するユーザがいる場合は、【ステップ4】(63ページ)を参照して、設定画面のAppleTalkの設定を有効にしてください。

2 設定画面の[システム]をクリックします。



3 [プリンタ]タブをクリックします。
必要な項目を設定後、[OK]ボタンをクリックします。



※入力は、入力個所をクリックしてから行います。

①	プリンタ名	プリンタ名を入力します。 プリンタ名は、プリンタをネットワークプリンタとしてインストールする場合に参照されます。

●Macintosh 用の設定

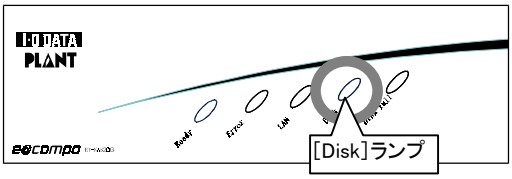
②	接続するプリンタ	プリンタタイプを選択します。 "その他"を選択した場合には、Mac OS ユーザは、そのプリンタのネットワーク対応プリンタドライバをインストールする必要があります。
③	プリンタオブジェクトタイプ	ここに入力する名前は、接続したプリンタのプリンタドライバで指定される「オブジェクトタイプ」と一致しなければなりません。 「オブジェクトタイプ」指定が正しくない場合には、Mac OS 上でプリンタが検出されません。 「オブジェクトタイプ」を確認するにはプリンタの取扱説明書を参照してください。

11. 本製品の電源を切る

本製品の電源を切ります。

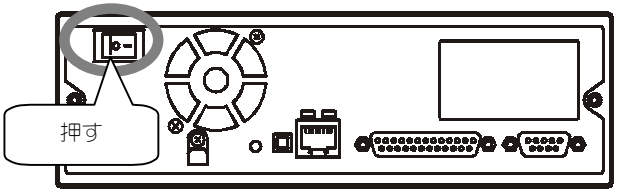
注意！

・[Disk]ランプが点灯・点滅中は、電源を切らないでください。
本製品の電源を切る場合は、必ず[Disk]ランプが消灯していることを確認後、電源を切ってください。
・本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、あらかじめ本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。



1 本製品の電源スイッチ(POWER SWITCH)を押して、電源を切ります。

※スイッチを押した後、電源が切れるまでに数分かかる場合があります。



参考

設定画面の[システム]項目の[シャットダウン]タブの[直ちにシャットダウン]ボタンをクリックしても、本製品の電源を切ることができます。

12. すべての設定が終了したら

前ページまでで、本製品のすべての設定は終了です。
後は、管理者のパソコンの IP アドレスを確認した後、本製品、ハブ、モデム・TA およびプリンタとパソコンを接続します。

ステップ1：本製品の電源を切る

本製品の電源を切ります。
手順については、前ページ【本製品の電源を切る】を参照してください。

ステップ2：パソコンの IP アドレスを確認する

ハブとの接続前に、管理用パソコンのIPアドレスを確認します。

※【4. パソコンのIPアドレスを設定する】(29ページ)で一時的にIPアドレスを変更した場合は、ネットワーク環境に合わせて再度設定し直してください。

1 **ネットワーク環境に応じて、管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。**

※IPアドレスの確認・設定の手順については、【4. パソコンのIPアドレスを設定する】(29ページ)を参照してください。

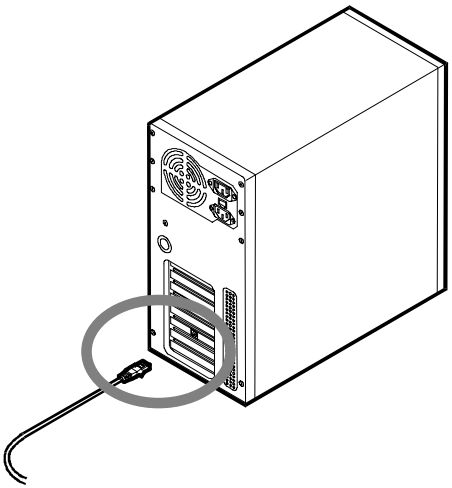
ステップ3：パソコンの電源を切る

パソコンの電源を切ります。

1 **パソコンの電源を切ります。**

WindowsおよびMac OSを終了（シャットダウン）し、パソコンの電源を切ります。

2 **パソコンに接続していたLANケーブルを取り外します。**

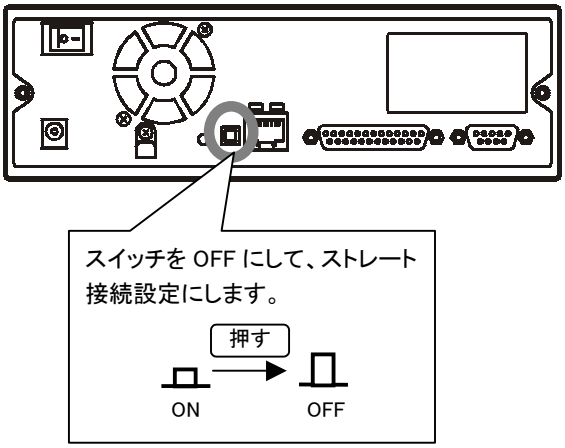


ステップ4：ハブやモデム・TA およびプリンタを接続する

ここでは、ハブを介してネットワークを構成する例を説明します。
まず、本製品とハブを接続し、その後、本製品にモデム・TAやプリンタを接続します。

1 本製品をハブに接続するために、本製品背面の[デイジーチェーン]スイッチをOFFにして「ストレート接続用」に切り替えます。

※ハブと本製品を直接接続する場合は、ストレート接続する必要があります。
本製品では、［デイジーチェーン］ボタンを押すことで、［ストレート接続］に切り替わりますので、そのまま添付のLANケーブル（ストレート）を接続してください。



2 パソコンとハブを接続します。

パソコンのLANコネクタとハブのLANコネクタをLANケーブル（ストレート）で接続します。（以下の①、②）

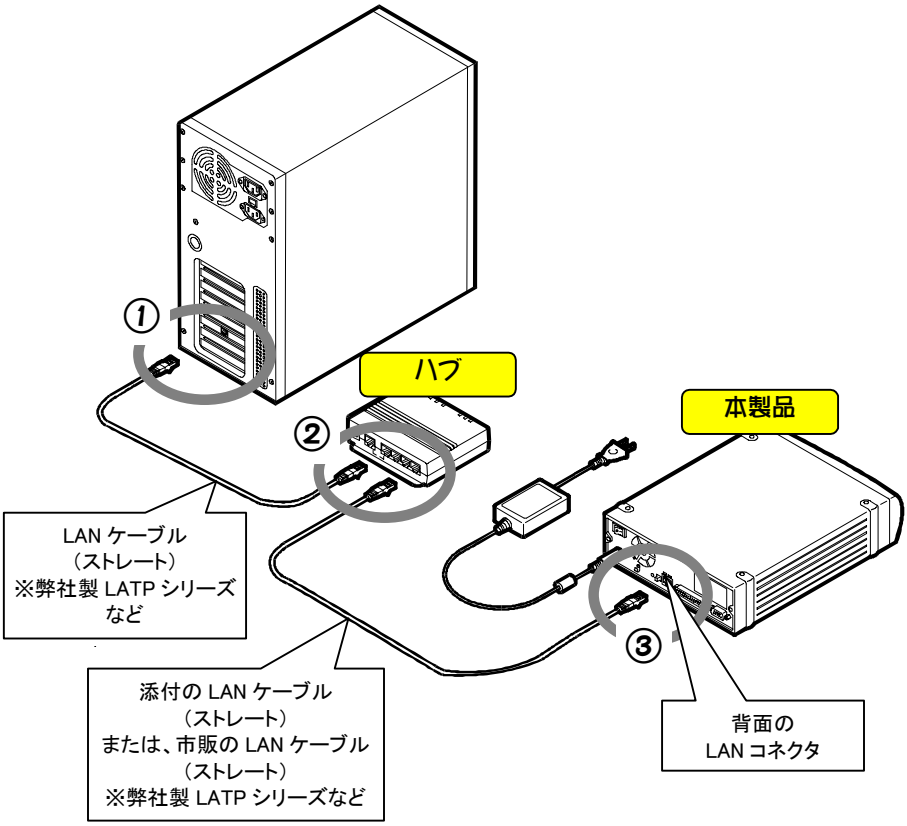
本製品とハブを接続します。

ハブのLANコネクタと本製品のLANコネクタを添付のLANケーブル（ストレート）または市販のLANケーブル（ストレート）で接続します。

（以下の②、③）

※必ず、ACアダプタのケーブルは、フックに固定しておいてください。
（次ページの【注意】参照）

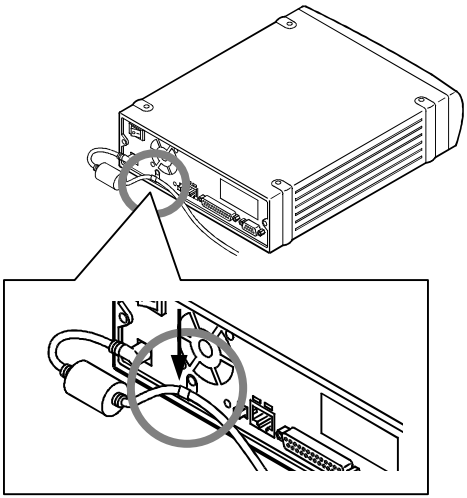
・ハブに接続する



注意！

・ハブとパソコンおよびハブと本製品との接続は、ハブの取扱説明書を参照してください。

・本製品の電源を切る手順（【11. 本製品の電源を切る】(113 ページ)参照）を行わずに、ケーブルが不意に外れた場合は、本製品のシステムが破損し、動作しなくなる場合があります。
接続時には、AC アダプタのケーブルを必ずフックに固定して、本製品から不意に抜けてしまわないようにしてください。



3 ・本製品にモデムや TA を接続する場合

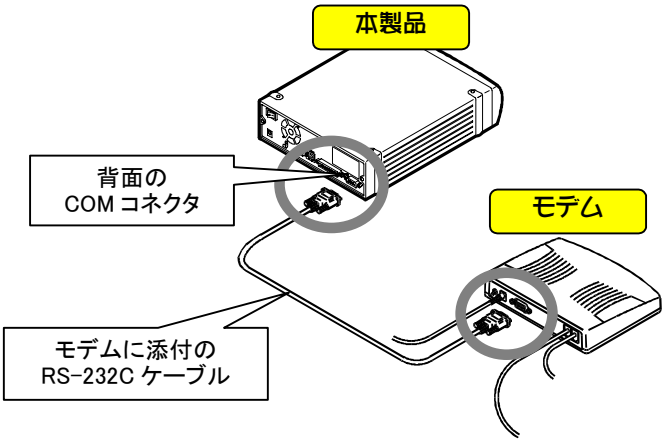
以下を参照して本製品とモデムや TA を接続します。

・本製品にプリンタを接続する場合

次ページを参照して本製品とプリンタを接続します。

・モデムや TA を接続する場合

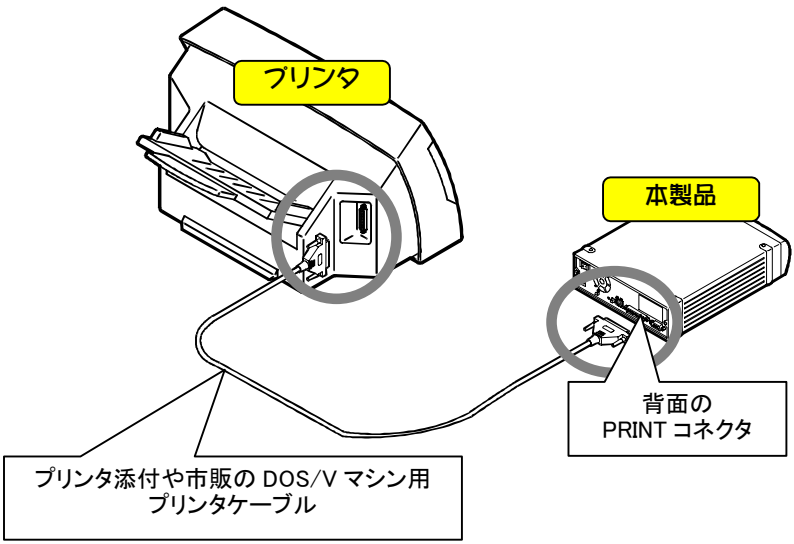
（モデムを接続する例）



注意！

モデムや TA との接続には、モデムおよび TA の取扱説明書も参照してください。

・プリンタを接続する場合



注意！

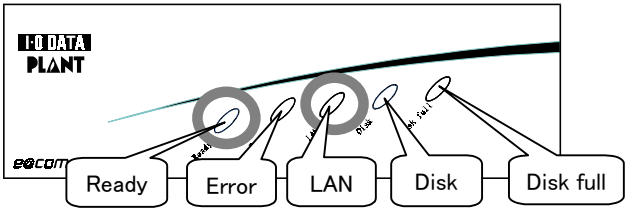
プリンタとの接続には、プリンタの取扱説明書も参照してください。

ステップ5:すべての機器の電源を入れる

すべての接続が終了したら、すべての機器とパソコンの電源を入れましょう。

1 ハブやモデム・TAおよびプリンタの電源を入れます。

2 本製品背面の電源スイッチ(POWER SWITCH)を押して電源を入れます。
しばらくすると(約1分ほど)、[Ready]ランプが点灯し、[LAN]ランプが点滅します。
起動完了後、“ピッ”と音がします。確認してください。



3 本製品が完全に起動したことを確認後、パソコンの電源を入れます。

以上で本製品での設定および接続は終了です。
管理者は、次ページ【13. ハードディスクのデータの保守】～【14. その他の管理上の注意】(128 ページ)を確認の上、【第 3 章 使ってみよう(ユーザ側の設定)】(129 ページ)を参照して、ユーザ側パソコンの設定を行ってください。

注意！

本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、あらかじめ本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。

13. ハードディスクのデータの保守

本製品のハードディスクのデータは、万一に備えて、定期的にバックアップすることをおすすめします。万一、本製品が故障した場合、データを復旧することができません。

データのバックアップはネットワーク経由でバックアップ用のハードディスクなどにバックアップしてください。
次ページ以降に、Windows および Mac OS でのデータのバックアップ方法を記載しております。参考としてご覧ください。

弊社修理係では、データ復旧サービスは行っておりません。
※故障した場合、データの復旧はできなくなります。
万一に備えて、こまめにデータをバックアップするようにしてください。

本製品を修理係に送付された場合、ハードディスク内のデータはすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

参考１：Windows でバッチファイルを使ってバックアップする方法

ここでは、Windows 上から本製品の PUBLIC フォルダ以下の内容をパソコンのハードディスク上にある BACKUP というフォルダにバックアップする方法を例として説明します。

注意！

・共有フォルダが複数ある場合は、共有フォルダごとにドライブ割り当てを行う必要があります。
・保存先のハードディスクの空き容量を事前にチェックしてからバックアップしてください。

1 管理者権限(admin)でネットワーク コンピュータ(またはマイ ネットワーク)を開き、本製品のサーバ名(出荷時:Ioxxxxxx)の下のpublicフォルダを表示させます。
(サーバ名については72ページ参照)

2 publicフォルダを右クリックし、ドライブ割り当てを行います。
(例としてNドライブを割り当てることにします。)

3 以下のようなバッチファイル (例:BACKUP.BAT)を作成します。
(BACKUP.BAT ファイルの内容)

```
XCOPY N: C:¥BACKUP /E
```

/Eはサブディレクトリが空であってもコピーするというオプションです。

4 MS-DOSプロンプトまたはコマンドプロンプトから実行します。
以下の例ではCドライブのルートにBACKUP.BATがあることにしています。

例)　C:¥>backup

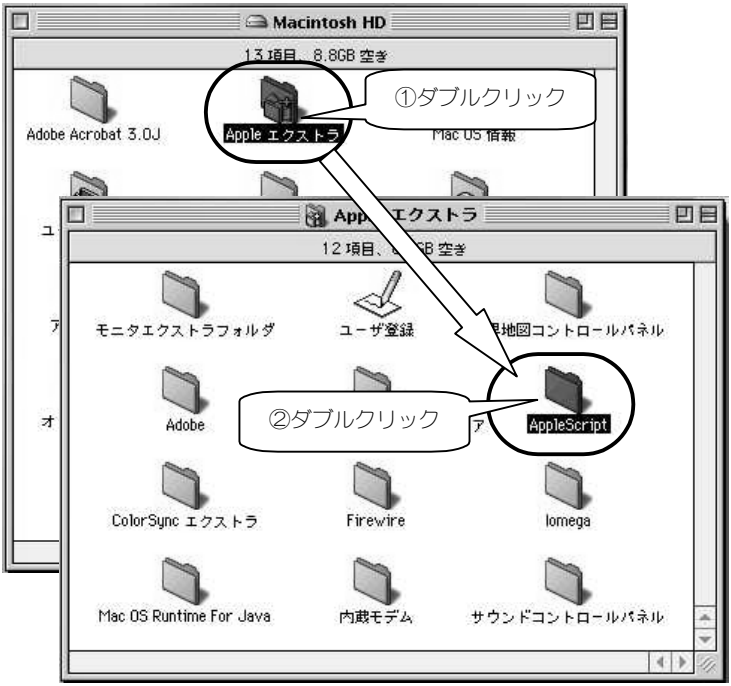
参考2：Mac OS で AppleScript を使ってバックアップする方法

ここでは、Mac OS 上から本製品の PUBLIC フォルダ以下の内容をパソコンの "Macintosh HD"という名称のローカルハードディスクへバックアップ（コピー）する方法を例として説明します。

注意！

・以下の例では Macintosh HD に public というフォルダがすでに存在する場合には、削除を行ってからコピーを開始する設定となっています。
毎日、別フォルダへバックアップし、過去1週間分のバックアップデータを残しておきたい場合などは個別にスクリプトファイルを用意するなどの工夫をして対処してください。
・以下の例の場合は、public がハードディスクとして、デスクトップ上にマウントされている必要があります。
・保存先のハードディスクの空き容量を事前にチェックしてからバックアップしてください。

1 [Macintosh HD]→[Apple エクストラ]→[AppleScript]を開きます。（Mac OS 9.1以降の場合は、[Macintosh HD]→[Application（Mac OS 9）]→[Apple エクストラ]→[AppleScript]を開きます。）



2 [スクリプト編集プログラム]を起動します。

3 以下のように入力します。

4 [構文確認]ボタンをクリックして
エラーが出ないことを確認します。

5 [ファイル]→[保存]を選択し、
任意の名称で保存します。

6 [ファイル]→[別名で保存]を選択します。

7 手順5 で付けた名前とは別の名称を入力し、

[フォーマット]（または[種類]）では[(classic)アプリケーション]を選択して保存します。

8 バックアップを行います。

実際のバックアップ作業では、手順 **7**で保存したスクリプトファイルを使用します。

作成したスクリプトファイルをダブルクリックすると実行するかどうか聞いてきますので、[実行]ボタンをクリックするとバックアップ（コピー）が始まります。

注意！

スクリプトファイルの変更の必要が生じた際は、手順 5 で保存したスクリプトファイルを使用します。

14. その他の管理上の注意

本製品をより快適にご使用いただくために、管理者は以下の事項をお守りください。

・管理者およびユーザのパスワードは本人以外に漏らさないようにしてください。

・管理者のみがユーザの追加・削除を行うようにしてください。

・本製品運用後に、本製品の電源を切ったり、接続の変更を行う場合は、本製品を使用しているユーザに、予め本製品の使用禁止を告知して、本製品にアクセスが無いことを確認した上で行ってください。

参考

本製品は、Linux を OS としています。
本製品を使用しているプログラムのソースコードについては、【本製品のソースコードに関して】(15 ページ)を参照してください。

第3章

使ってみよう（ユーザ側の設定）

～ ユーザ側パソコンでの必要な設定 ～

この章では、【第２章 設定する】(21ページ)で設定した本製品を、ユーザ側で使用する場合の設定について説明します。すべてのユーザ側のパソコンで行います。

ユーザ側での設定手順の流れ 130 ページ

ユーザ側で本製品を使用する上で必要な設定手順の流れについて確認します。

ユーザ側で最初に設定すること 131 ページ

本製品を使用する上で必要な最初の設定を行います。

《機器別の設定》①ハードディスクをみんなで使う場合 145 ページ

本製品のハードディスクにアクセスします。

《機器別の設定》②インターネットにみんなでアクセスする場合 155 ページ

本製品に接続したモデム・TA を使ってみんなでインターネットにアクセスします。

《機器別の設定》③プリンタをみんなで使う場合 172 ページ

本製品に接続したプリンタをみんなで使います。

ユーザ側での設定手順の流れ

最初の設定

ユーザ側では、最初にパソコンの TCP/IP および AppleTalk を設定します。

……【ユーザ側で最初に設定すること】(131 ページ)

機器別の設定

ユーザ側での使用する機器別の設定を行います。

①ハードディスクを使う場合

……【ハードディスクをみんなで使う場合】(145 ページ)

- Windows XP で使うには
- Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0 で使うには
- Mac OS で使うには

②インターネット接続を共有する場合

……【インターネットにみんなでアクセスする場合】(155 ページ)

- Windows での設定①：Web ブラウザの設定
- Windows での設定②：DNS とゲートウェイの設定
- Mac OS での設定①：Web ブラウザの設定
- Mac OS での設定②：TCP/IP の設定

③プリンタを共有する場合

……【プリンタをみんなで使う場合】(172 ページ)

- Windows XP で使うには
- Windows 2000/NT 4.0 で使うには
- Windows Me/98/95 で使うには
- Mac OS で使うには

ユーザ側で最初に設定すること

ユーザ側では、本製品を使用する前に、まず、パソコンをハブに接続し、パソコンの TCP/IP（IP アドレス）および AppleTalk の設定を行います。

ステップ 1：パソコンをハブに接続する

ユーザ側のパソコンをハブに接続します。

1 **パソコンの電源を切ります。**

WindowsおよびMac OSを終了（シャットダウン）し、パソコンの電源を切ります。

2 **パソコンとハブを接続します。**

パソコンのLANコネクタとハブのLANコネクタをストレートケーブルで接続します。

3 **ハブに接続したパソコンの電源を入れます。**

ステップ2：Windows ユーザ側の最初の設定

本製品を使用するWindowsユーザ側のパソコンでは、TCP/IPの設定が必要です。

	Windows ユーザの設定
ハードディスクを使用する場合	TCP/IP の設定が必要 （以下の個所を参照）
インターネットを使用する場合	
プリンタを使用する場合	

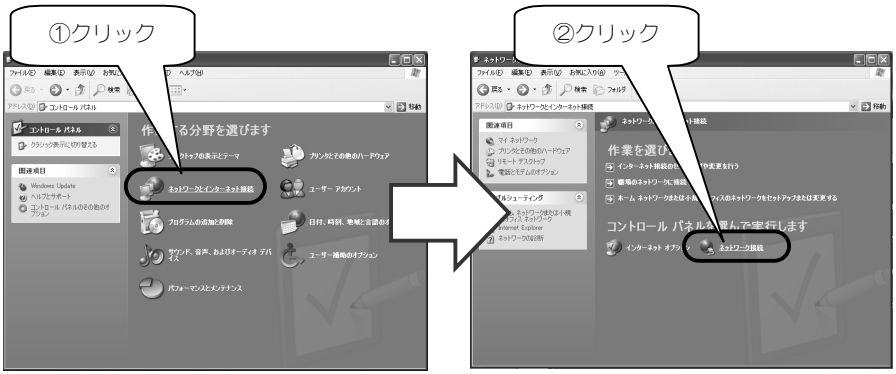
- Windows XP の場合 → 次ページを参照してください。
- Windows 2000 の場合 → 136 ページを参照してください。
- Windows Me/98/95 の場合 → 138 ページを参照してください。
- Windows NT 4.0 の場合 → 140 ページを参照してください。

Windows XP の場合

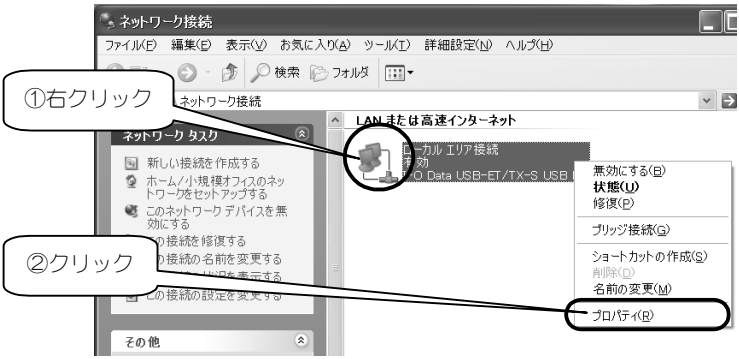
1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

2 [スタート]ボタンをクリックし、現れたスタートメニューの中にある[コントロール パネル]をクリックします。

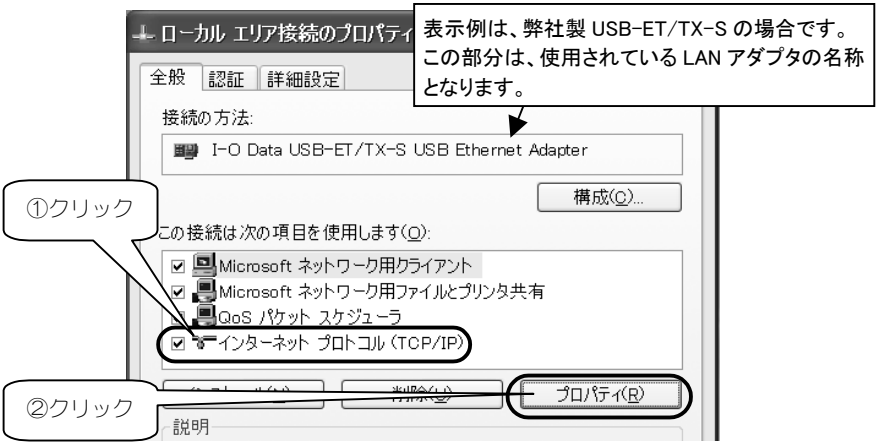
3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックし、開いたウィンドウの中にある[ネットワーク接続]をクリックします。



4 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



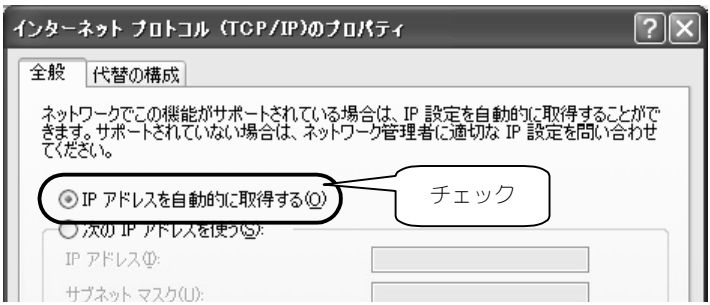
5 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



6 [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面でIPアドレスの設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

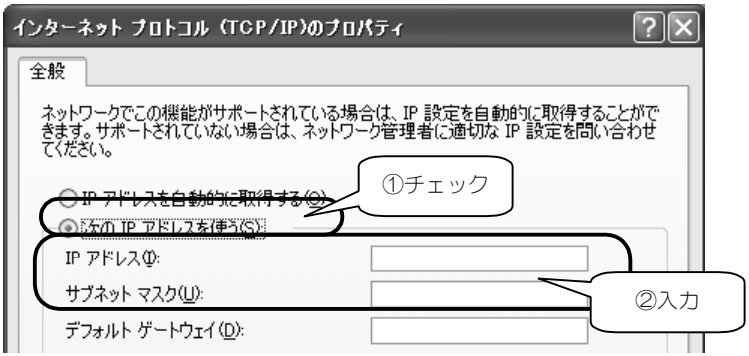
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合(本製品を DHCP サーバとしている場合も含む)

→ [IP アドレスを自動的に取得する]を設定します。



・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合(本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む)

→ IP アドレスを手動で入力します。

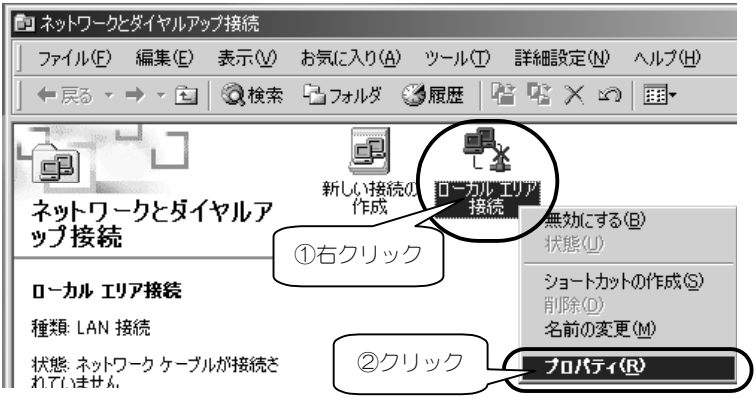


Windows 2000 の場合

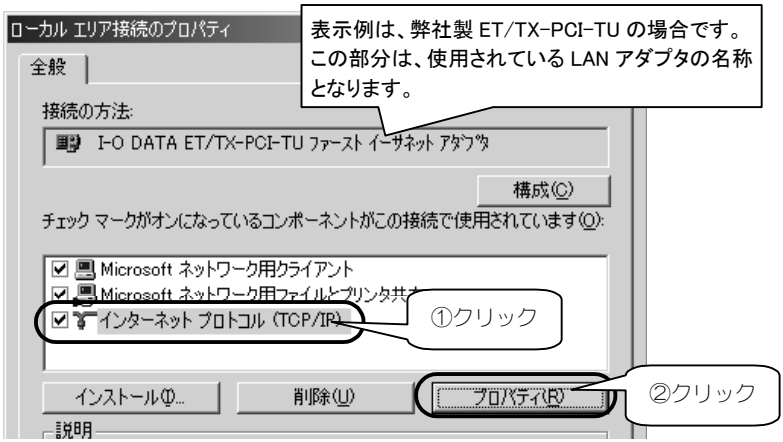
1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカル エリア接続]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



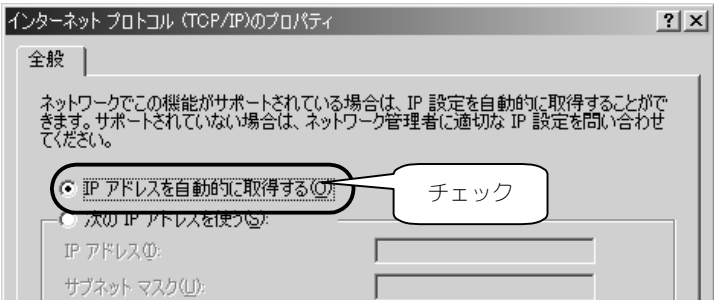
4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



5 [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面でIPアドレスの設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

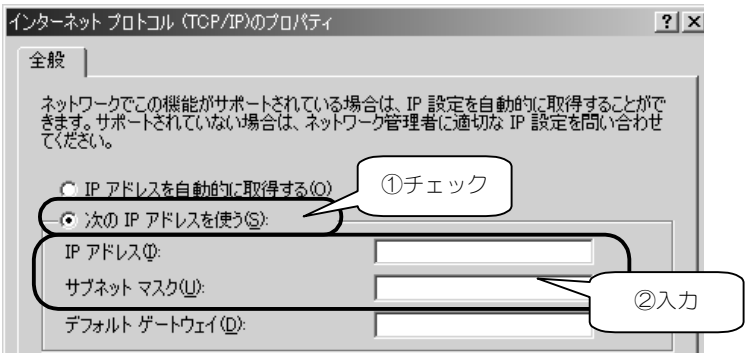
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合(本製品を DHCP サーバとしている場合も含む)

→ [IP アドレスを自動的に取得する]を設定します。



・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合(本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む)

→ IP アドレスを手動で入力します。

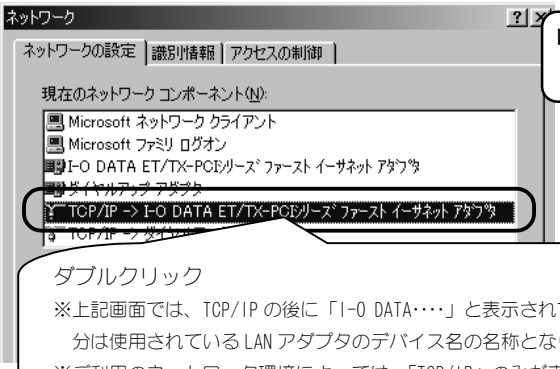


Windows Me/98/95 の場合

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [TCP/IP]をダブルクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、[TCP/IPー>xxxxxxxx]をダブルクリックします。(xxxxxxxxはLANアダプタのデバイス名の名称です。)



Windows 98 での表示例

ダブルクリック

※上記画面では、TCP/IP の後に「I-O DATA‥‥」と表示されていますが、この部分は使用されている LAN アダプタのデバイス名の名称となります。

※ご利用のネットワーク環境によっては、「TCP/IP」のみが表示される場合もあります。

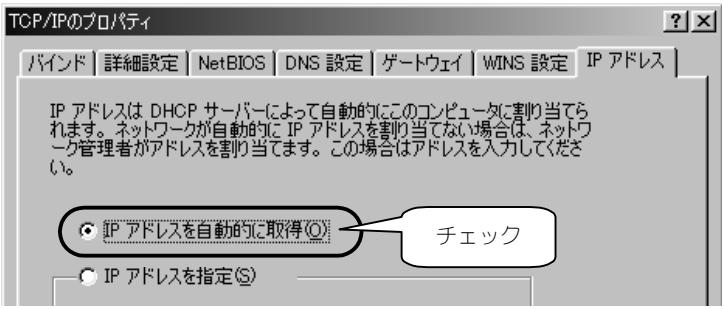
Windows Me/98/95 で TCP/IP が表示されていない場合は…

【困ったときには】の P187 をご参照ください。

3 [TCP/IPのプロパティ]画面の[IPアドレス]タブで
IPアドレスの設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。
設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

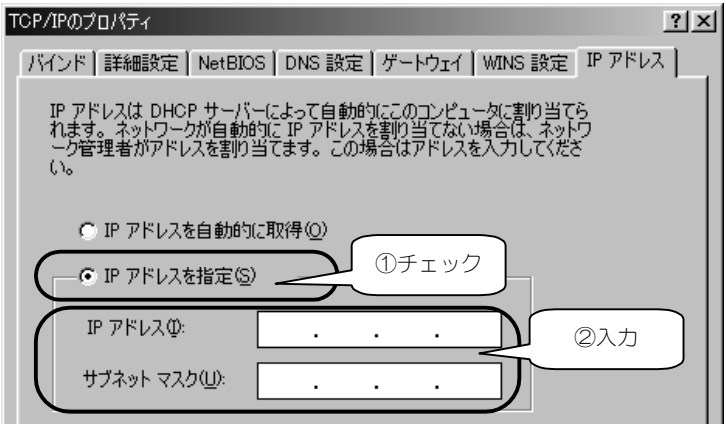
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

→ ［IP アドレスを自動的に取得］を設定します。



・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

→ IP アドレスを手動で入力します。



Windows NT 4.0 の場合

1 Administrator権限でWindows NT 4.0にログオンします。

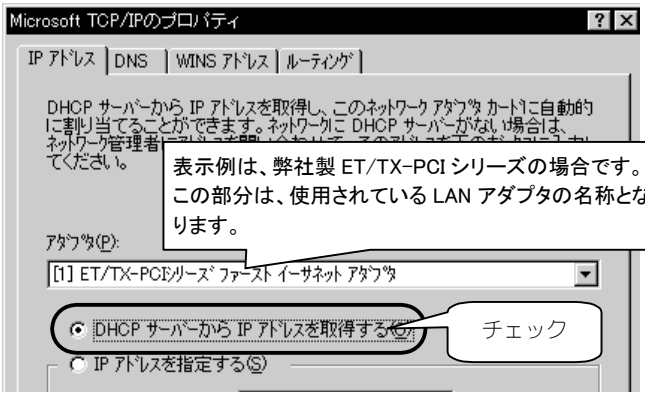
2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]内の
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

3 [TCP/IP プロトコル]をクリックし、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

4 [TCP/IPのプロパティ]画面の[IPアドレス]タブで IPアドレスの設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。 設定については、ネットワーク管理者にご確認ください。

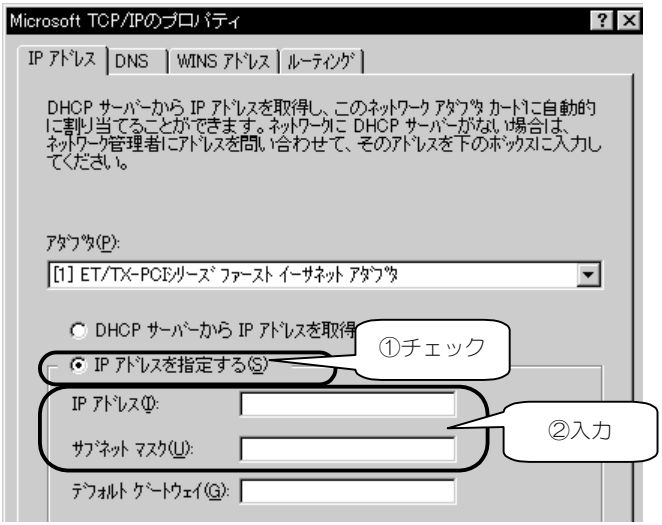
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

→ [DHCP サーバーから IP アドレスを取得する] を設定します。



・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

→ IP アドレスを手動で入力します。



ステップ3：Mac OS ユーザ側の最初の設定

本製品を使用するMac OSユーザ側のパソコンでは、使用する機器に応じて、TCP/IPまたはAppleTalkを有効にする必要があります。

	Mac OS ユーザの設定
ハードディスクを使用する場合	TCP/IP または AppleTalk のいずれかを有効にする設定が必要
インターネットを使用する場合	TCP/IP を有効にする設定が必要 （AppleTalk ではインターネットを利用できません。）
プリンタを使用する場合	AppleTalk を有効にする設定が必要 （TCP/IP ではプリンタを利用できません。）

※TCP/IP と AppleTalk の両方を使用する場合は、両方の設定が必要です。

- TCP/IP を有効にする場合 → 以下を参照してください。
- AppleTalk を有効にする場合 → 144 ページを参照してください。

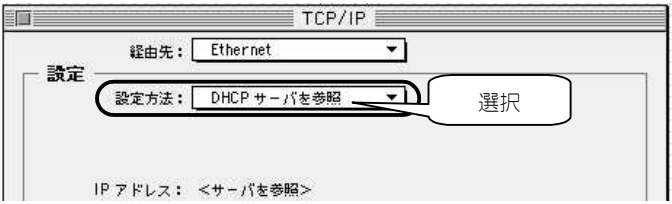
TCP/IP を有効にする場合

1 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[TCP/IP]アイコンをダブルクリックします。

2 [TCP/IP]画面のIPアドレスを設定します。

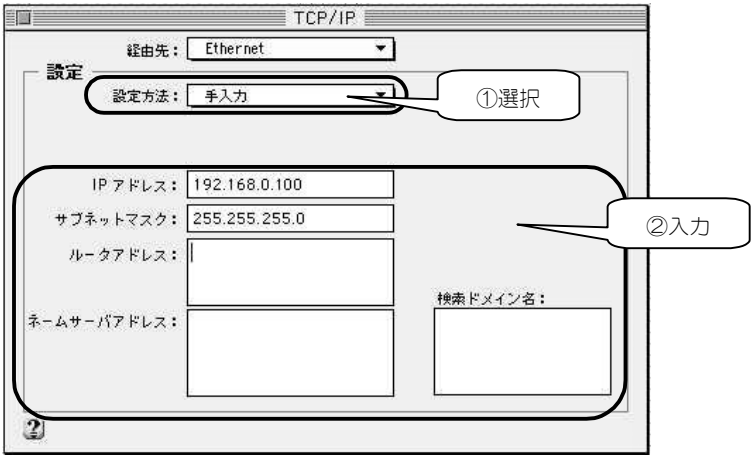
・ネットワーク上に DHCP サーバがある場合（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

→ 「DHCP サーバを参照」にします。



・ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合（本製品を DHCP サーバとしていない場合も含む）

→ ［IP アドレス］や［ルータアドレス］［ネームサーバアドレス］を手動で入力します。



IP アドレス サブネットマスク	ネットワーク環境に応じて設定してください。 詳細は、ネットワーク管理者にご確認ください。
ルータアドレス	本製品の IP アドレスを入力します。 詳細は、本製品の管理者にご確認ください。
ネームサーバ アドレス	インターネットに接続する場合は、プロバイダから案内されているプロバイダの IP アドレス（DNS アドレス）を入力します。
検索ドメイン名	インターネットに接続する場合は、プロバイダから案内されている、プロバイダのドメイン（DNS サーバ名）を入力します。

参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに既存のルータを用いて行う場合には、上記の［ルータアドレス］の値には、既存のルータの IP アドレスの値を入力してください。

3 [保存]ボタンをクリックして、画面を閉じます。

AppleTalk を有効にする場合

1 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]アイコンをダブルクリックします。

●すでに有効になっている場合

●有効になっていない場合

［はい］ボタンをクリックして有効にします。

《機器別の設定》
①ハードディスクをみんなで使う場合

ここでは、本製品のハードディスクにアクセスするためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、ユーザはハードディスクを使用できるようになります。

注意！

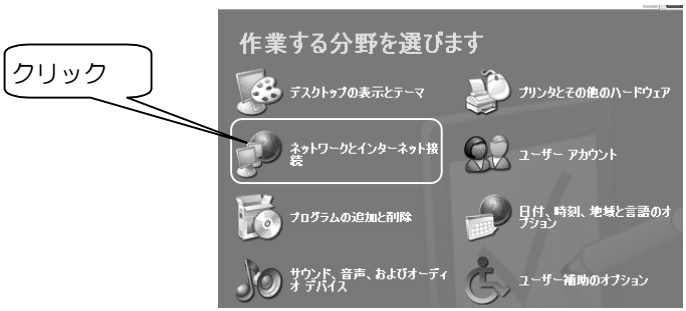
本製品（のハードディスク）にアクセスするには、[ユーザ名]（または[名前]）と[パスワード]が必要です。
ただし、[ユーザ名]と[パスワード]は、Windows や Mac OS でログオンする際の[ユーザ名]（または[名前]）と[パスワード]に一致している必要があります。

- Windows XP をお使いの場合 → 次ページを参照してください。
- Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0 以外をお使いの場合
  → 148 ページを参照してください。
- Mac OS をお使いの場合 → 150 ページを参照してください。

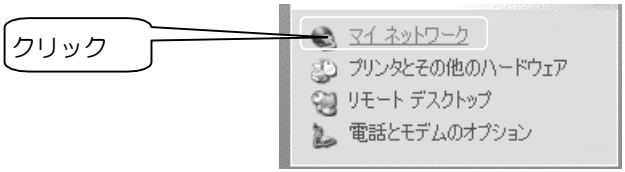
Windows XP で使うには

1　[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

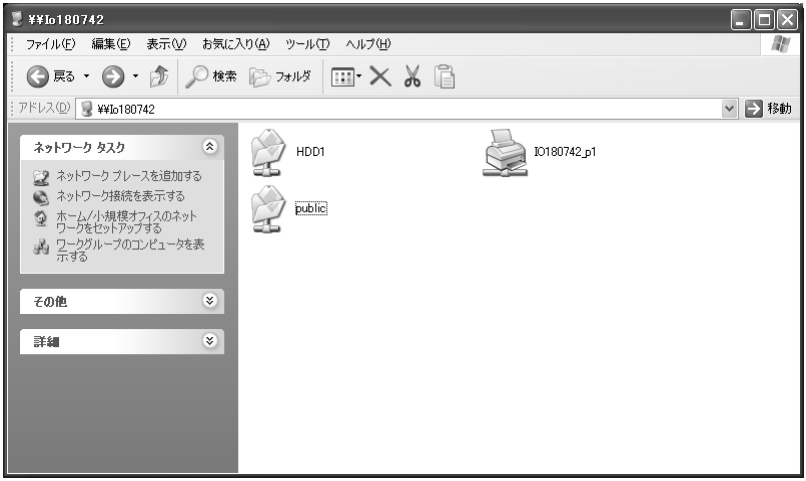
2　[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。



3　[マイネットワーク]をクリックします。



4 表示されている共有名にアクセスできます。



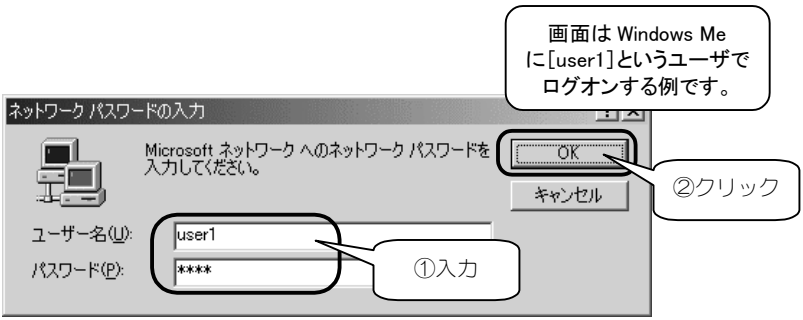
Windows 2000/Me/98/95/NT 4.0 で使うには

Windowsユーザが本製品のハードディスクを使用するには、［ネットワーク コンピュータ］アイコン（Windows 2000およびWindows Meでは、［マイ ネットワーク］）から、管理者が設定した共有フォルダにアクセスすれば使用できます。

1 パソコンを起動します。

2 Windowsログオン時には、
本製品に登録した[ユーザ名]と[パスワード]を入力します。

※[ユーザ名]と[パスワード]については、管理者にご確認ください。



注意！

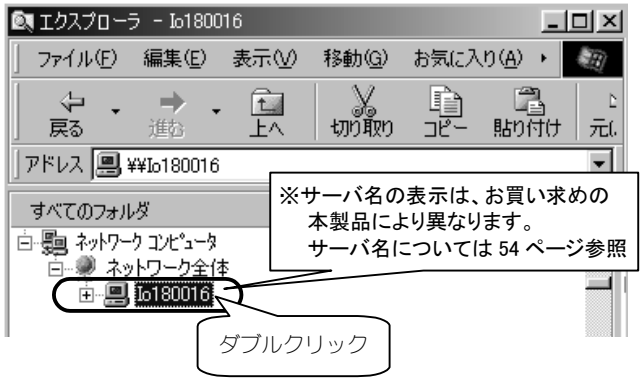
[ユーザー名]と[パスワード]に、本製品で登録した[ユーザ名]と[パスワード]を入力しないと本製品にアクセスできません。
管理者が【新しいフォルダの作成手順②:ユーザの登録】(88 ページ)で登録した[ユーザ名]と[パスワード]をご確認ください。

3 デスクトップ上の[ネットワーク コンピュータ]アイコン
（Windows MeおよびWindows 2000では、[マイ ネットワーク]）を
ダブルクリックします。

4 [ネットワーク全体]をダブルクリックします。

5 表示されている本製品のサーバ名をダブルクリックします。

※本製品のサーバ名については、54ページ参照



6 サーバ名の下に表示されている共有名にアクセスできます。

Mac OS で使うには

Mac OSユーザが本製品のハードディスクを使用するには、TCP/IPまたはAppleTalkのいずれかでハードディスクへのアクセスの設定が必要です。どちらの設定手順でも使用できます。（【Mac OSユーザ側の最初の設定】(142ページ)で一方のみを有効にした場合は、有効にした方で設定してください。）

● TCP/IP で設定する場合　→　次ページを参照してください。
● AppleTalk で設定する場合　→　153 ページを参照してください。

注意！

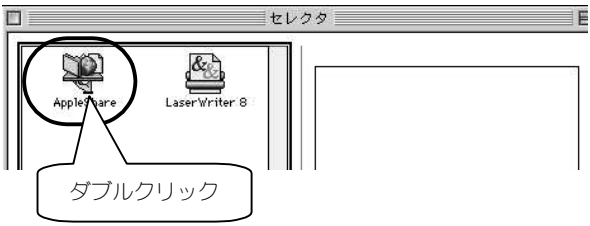
・インターネット接続とプリンタを同時に使用したい場合でのハードディスクの設定は、TCP/IP または AppleTalk のいずれかの設定でアクセスできます。両方の設定を行う必要はありません。（インターネット接続を行う場合は TCP/IP、プリンタを使用する場合は AppleTalk の設定が必要です。）

・本製品を DHCP クライアントに設定している場合は、153 ページの AppleTalk での設定でアクセスしてください。

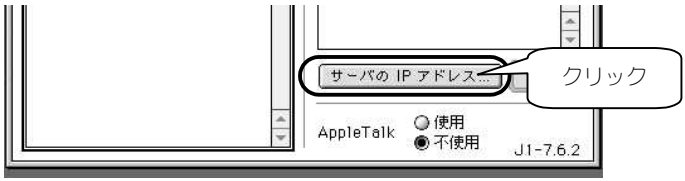
TCP/IP を使ってハードディスクにアクセスする場合

1 [アップルメニュー]→[セレクタ]を順にクリックします。

2 [セレクタ]画面の[AppleShare]アイコンをダブルクリックします。

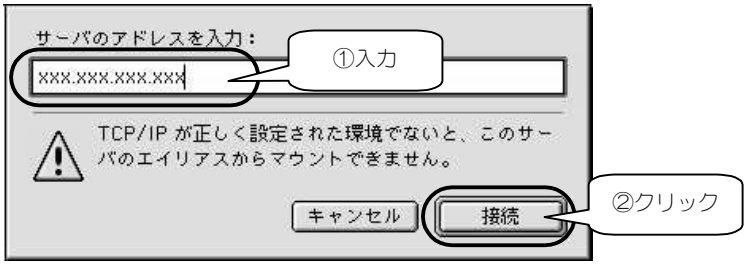


3 [サーバのIPアドレス]ボタンをクリックします。



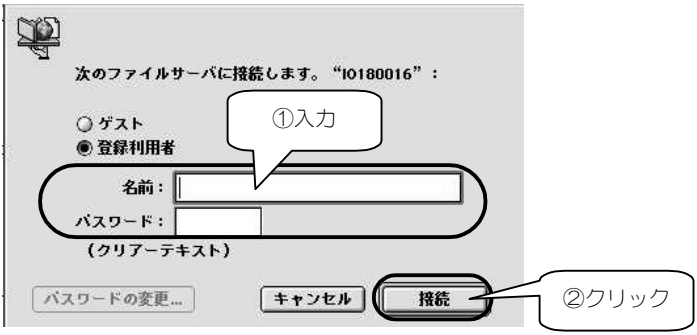
4 [サーバのアドレスを入力:]に本製品のIPアドレスを入力し、[接続]ボタンをクリックします。

※本製品のIPアドレスは管理者にご確認ください。
（本製品を出荷時設定のまま使用している場合は、「192.168.0.2」となります。）



5 以下の画面で、本製品で登録した[ユーザ名]と[パスワード]を[名前]と[パスワード]に入力後、[接続]ボタンをクリックします。

※[ユーザ名]と[パスワード]については、管理者にご確認ください。

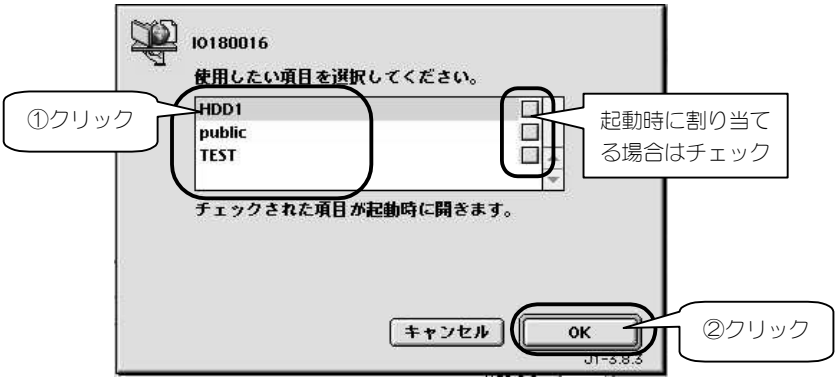


注意！

[名前]と[パスワード]に、本製品で登録した[ユーザ名]と[パスワード]を入力しないと本製品にアクセスできません。
管理者が【新しいフォルダの作成手順②:ユーザの登録】(88 ページ)で登録した[ユーザ名]と[パスワード]をご確認ください。

6 使用したい項目をクリックして、[OK]ボタンをクリックします。

（パソコン起動時に割り当てたい場合は、□にチェックを入れてください。）

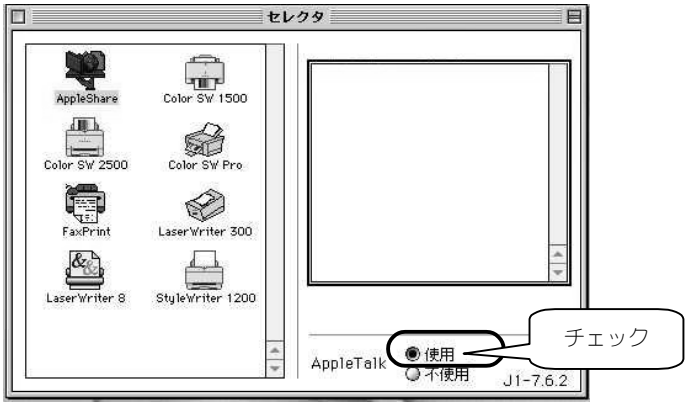


以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

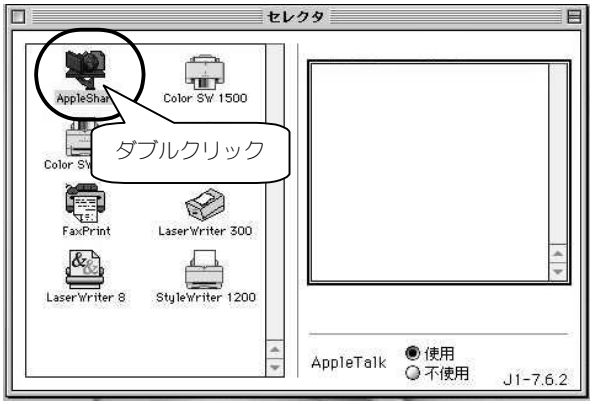
AppleTalk を使ってハードディスクにアクセスする場合

1 [アップルメニュー]→[セレクタ]を順にクリックします。

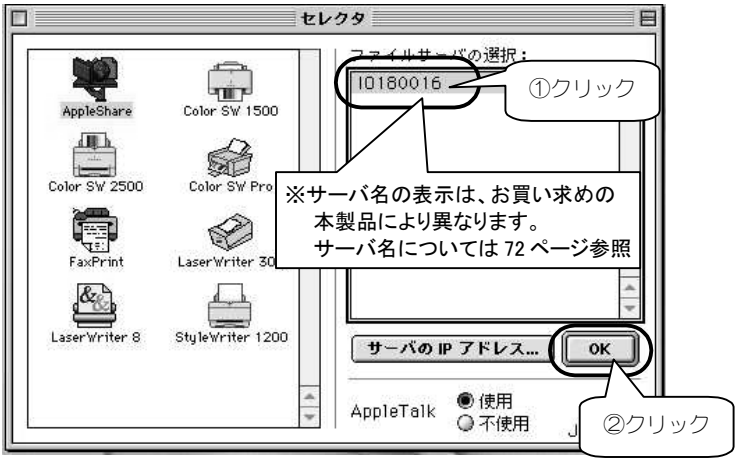
2 [セレクタ]画面の[AppleTalk]の[使用]をチェックします。



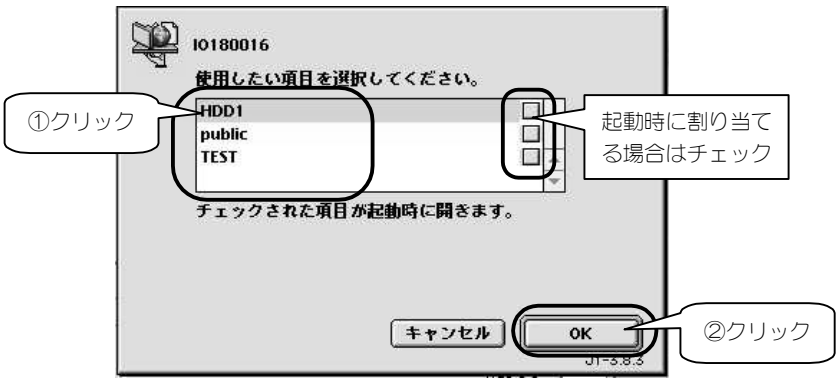
3 [AppleShare]アイコンをダブルクリックします。



4 [ファイルサーバの選択]項目で本製品のサーバ名をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



5 使用したい項目をクリックして、[OK]ボタンをクリックします。
（パソコン起動時に割り当てたい場合は、□にチェックを入れてください。）



以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

《機器別の設定》
②インターネットにみんなでアクセスする場合

ここでは、本製品に接続したモデム・TA を使ってインターネットにアクセスするためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、Web ブラウザを使用してインターネットにアクセスできます。

設定は、Web ブラウザの接続設定と DNS やゲートウェイの設定です。
下記２点に注意し設定してください。

①LAN を使用してインターネットに接続する。
②プロキシサーバーは使用しない。

参考

本製品を設定する際、あるいは、本製品を使用してインターネットに接続する際に、プロキシ経由で使用している場合は正常に設定やインターネット接続ができません。

●Windows での手順の流れ

Web ブラウザの設定 → 【Web ブラウザの設定】(次ページ)

⇩

DNS とゲートウェイの設定 → 【DNS とゲートウェイの設定】(160 ページ)

●Mac OS での手順の流れ

Web ブラウザの設定 → 【Web ブラウザの設定】(170 ページ)

⇩

TCP/IP の設定 → 【TCP/IP の設定】(171 ページ)

Windows での設定①： Web ブラウザの設定

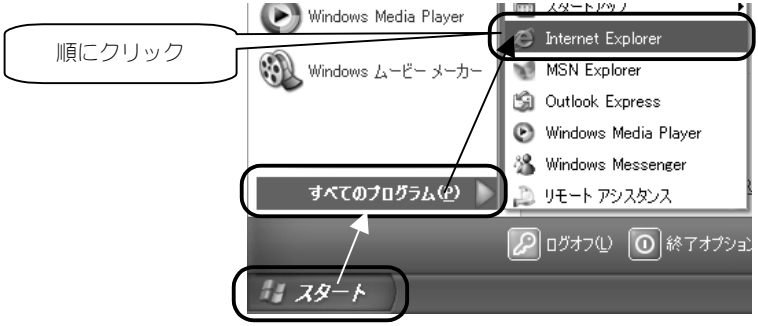
注意！

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。
まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

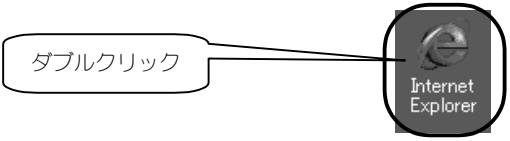
・*Windows XPの場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。



・*Windows 2000、Windows Me/98/95、Windows NT 4.0の場合*

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。



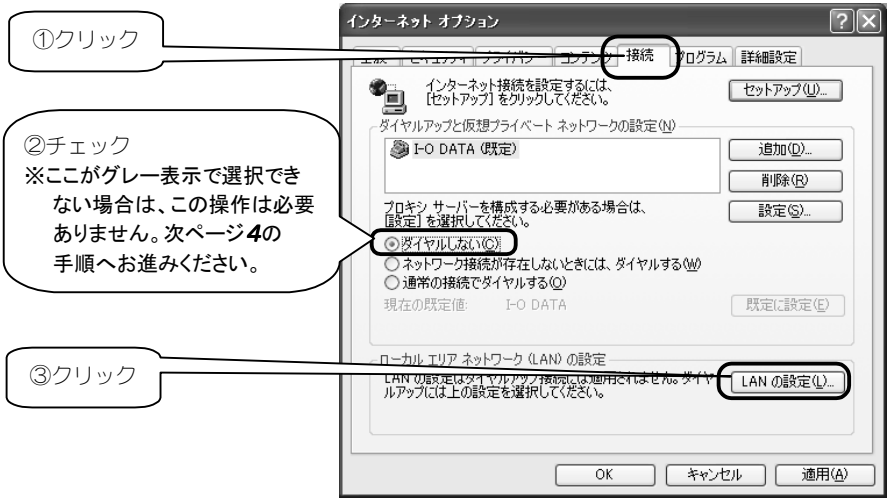
注意！

この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の
[ツール]メニューの[インターネット オプション]をクリックします。

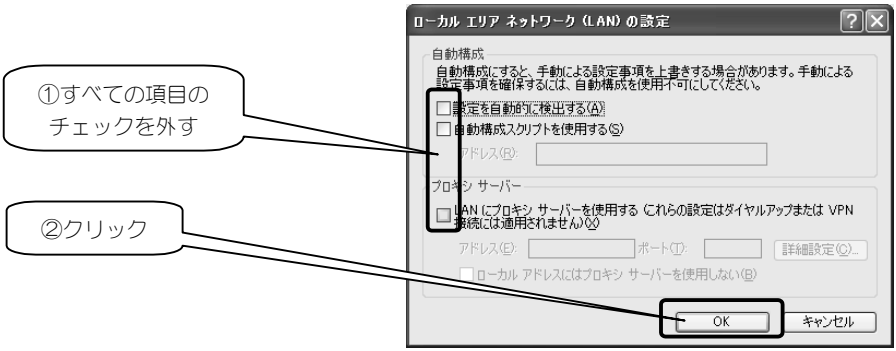
※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 [接続]タブをクリックし、
[ダイヤルしない]をチェックします。続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

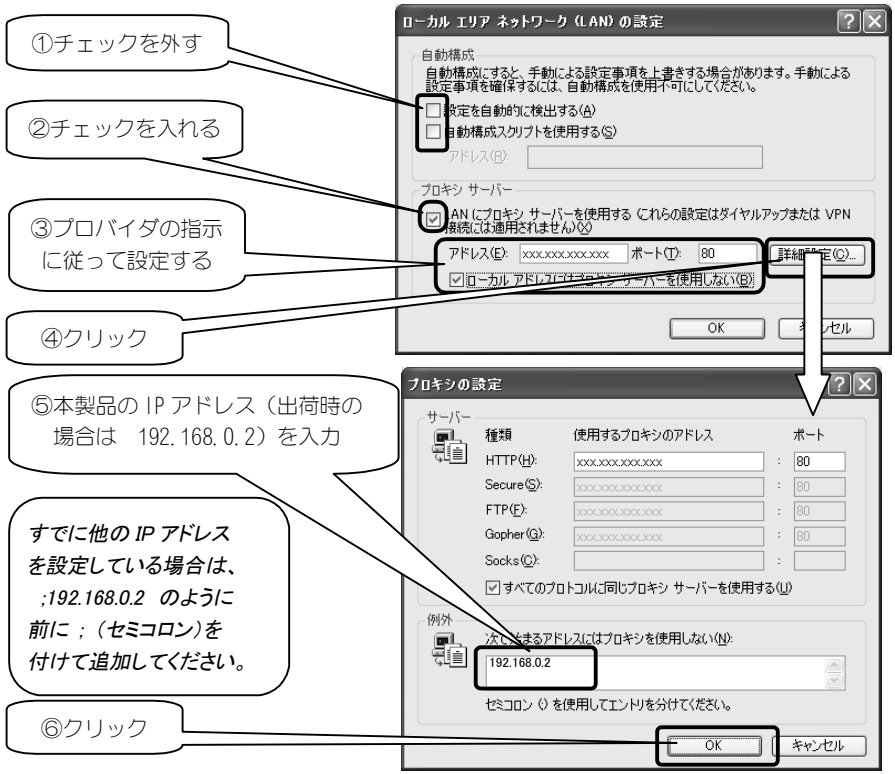


4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がない場合



・プロバイダから[プロキシ]に関する設定の指示がある場合



5 [ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

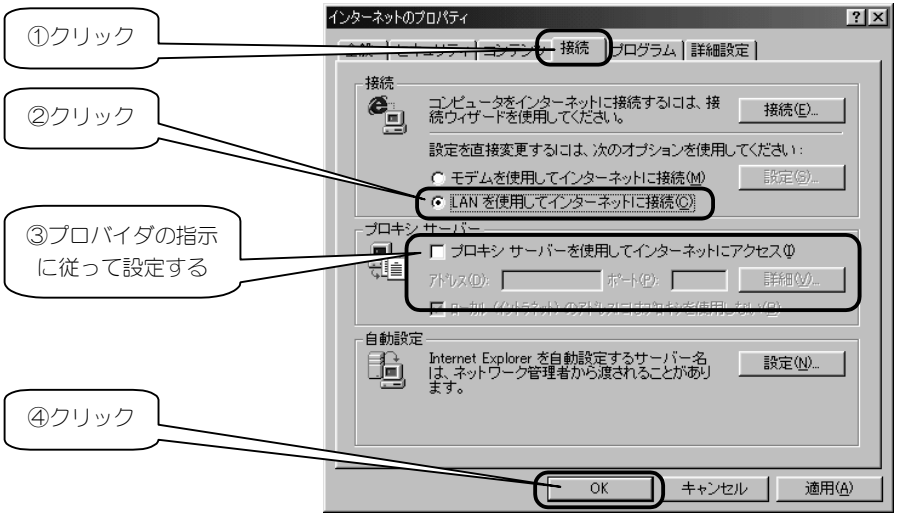
6 [インターネット オプション](または[インターネットのオプション])画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

設定後、【Windows での設定②:DNS とゲートウェイの設定】(次ページ)へお進みください。

参考

Internet Explorer のバージョンによっては、4の手順の時に以下の画面となる場合があります。
その場合は、[接続]タブで[LAN を使用してインターネットに接続]をチェックします。
その後、以下の手順を行います。

- **プロバイダからプロキシに関する設定の指示がない場合**
  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。
- **プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合**
  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]をチェックし、[アドレス]と[ポート]を入力後、[詳細]ボタンをクリックします。
  [プロキシの設定]画面での設定は、前ページを参照してください。
  設定後、[OK]ボタンをクリックします。



Windows での設定②: DNS とゲートウェイの設定

Windowsユーザがインターネットへアクセスするには、[DNS]や[ゲートウェイ]の設定が必要です。

・ネットワーク上にDHCPサーバがある場合 → 以下を参照してください。
・ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合
　Windows XPの場合 → 次ページを参照してください。
　Windows 2000の場合 → 164ページを参照してください。
　Windows Me/98/95の場合 → 166ページを参照してください。
　Windows NT 4.0 の場合 → 168 ページを参照してください。

DHCP サーバがある場合

（本製品を DHCP サーバとしている場合も含む）

ネットワーク上にDHCPサーバがある場合は、132ページ以降でのIPアドレスの設定で、[IPアドレスを自動的に取得する]に設定するだけでインターネットにアクセスできます。

参考

ネットワーク上に DHCP サーバがある場合、[ゲートウェイ]と[DNS]の IP アドレスの値は、DHCP サーバより取得します。そのため、ユーザ側のパソコンで特に設定する必要はありません。
（DHCP サーバ側で[ゲートウェイ]と[DNS]の設定が必要です。本製品の場合での[ゲートウェイ]の設定は 57 ページを、[DNS]の設定は 61 ページを参照してください。）

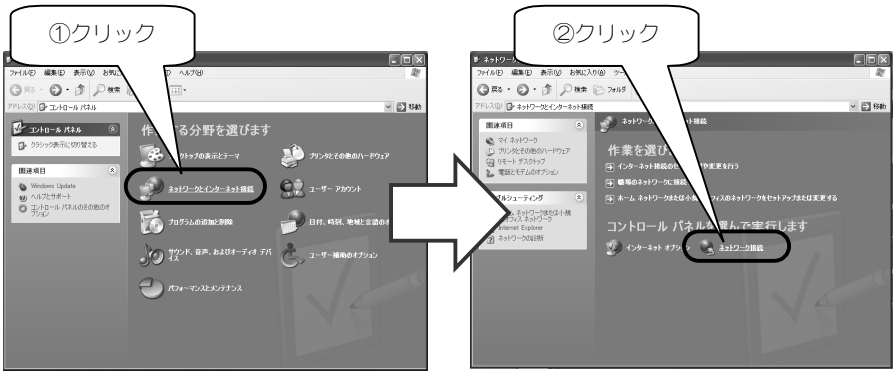
DHCP サーバが無い場合(Windows XP の手順)

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要があります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

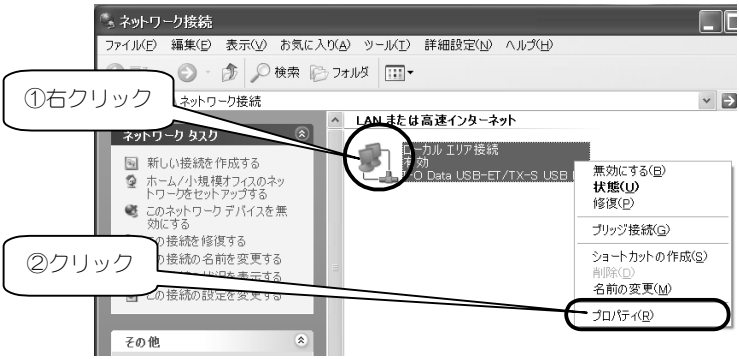
1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

2 [スタート]ボタンをクリックし、現れたスタートメニューの中にある[コントロール　パネル]をクリックします。

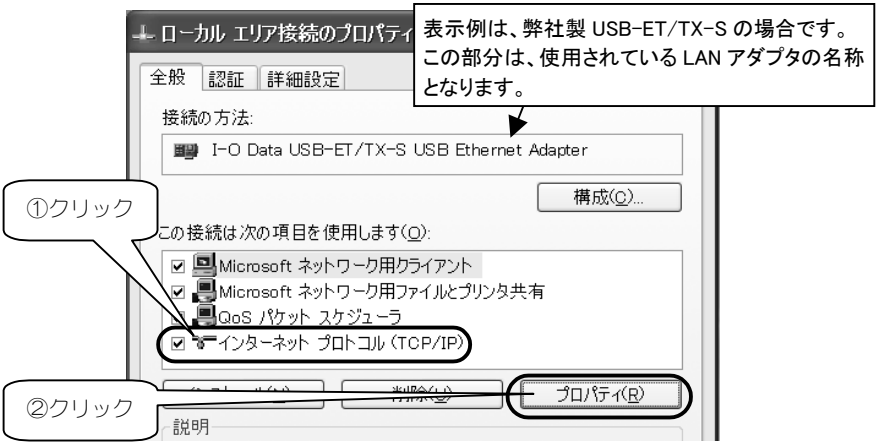
3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックし、開いたウィンドウの中にある[ネットワーク接続]をクリックします。



4 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

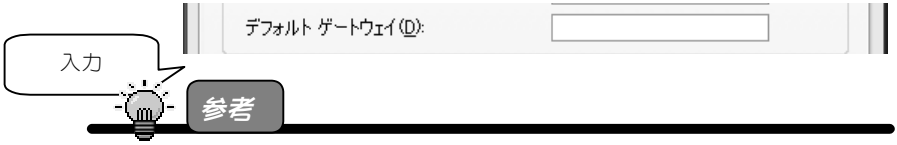


5 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



6 [デフォルトゲートウェイ]に本製品のIPアドレスを設定します。

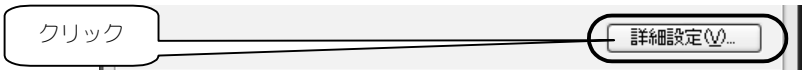
本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。



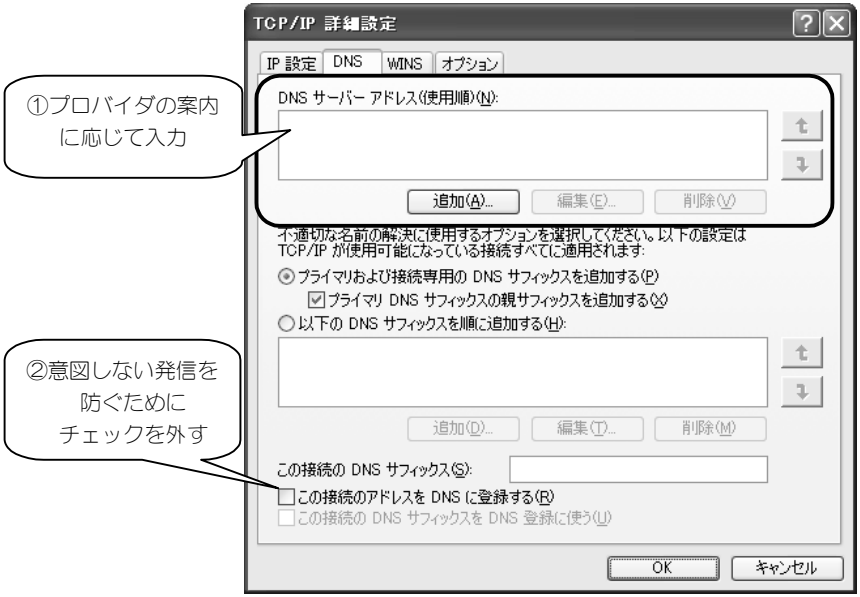
参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに既存のルータを用いて行う場合には、既存のルータの IP アドレスの値がゲートウェイの値となります。

7 [詳細設定]ボタンをクリックします。



8 [DNS]タブをクリックし、プロバイダの案内に応じて、DNSを設定します。また、[この接続のアドレスをDNSに・・・・]のチェックを外してください。



後は、お使いの Web ブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

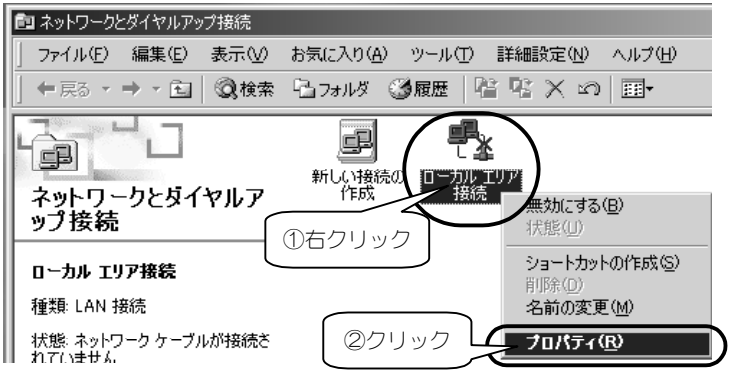
DHCP サーバが無い場合（Windows 2000 の手順）

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要があります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1 Administrator権限でWindows 2000にログオンします。

2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

3 [ローカル エリア接続]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



4 [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

5 [IPアドレス]タブで、[デフォルトゲートウェイ]に本製品のIPアドレスを設定してください。

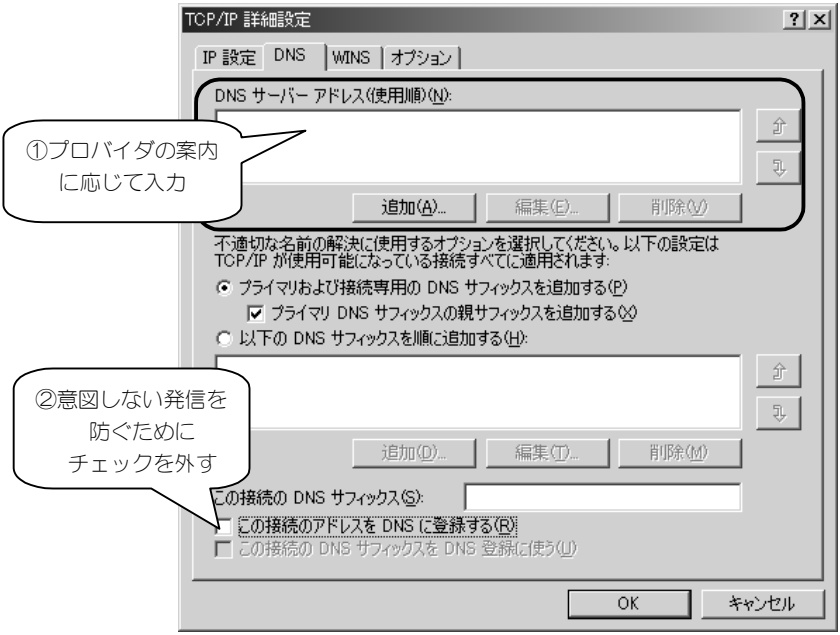
本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。

参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに既存のルータを用いて行う場合には、既存のルータの IP アドレスの値がゲートウェイの値となります。

6 [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面の[詳細設定]ボタンをクリックします。

7 [DNS]タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSの設定を行ってください。
また、[この接続のアドレスをDNSに・・・・]のチェックを外してください。



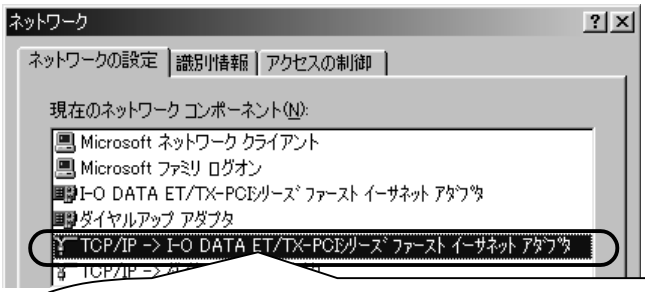
後は、お使いの Web ブラウザを設定すれば、インターネットにアクセスできます。

DHCP サーバが無い場合 (Windows Me/98/95 の手順)

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要があります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

2 ［TCP/IP］をダブルクリックします。

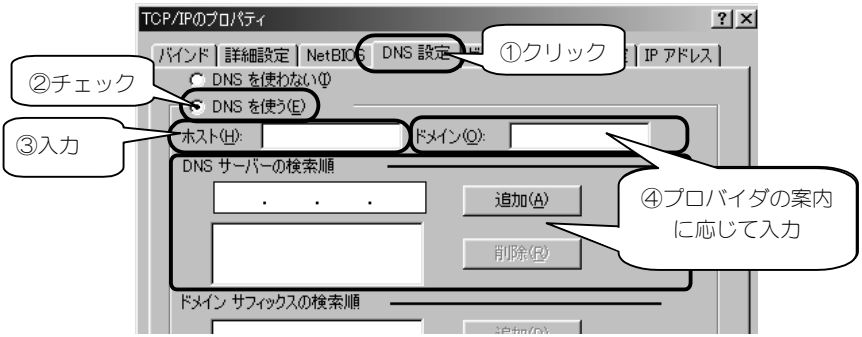


ダブルクリック

※上記画面では、TCP/IP の後に「I-O DATA‥‥」と表示されていますが、この部分は使用されている LAN アダプタのデバイス名の名称となります。

※ご利用のネットワーク環境によっては、「TCP/IP」のみが表示される場合もあります。

3 ［DNS設定］タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSを設定してください。

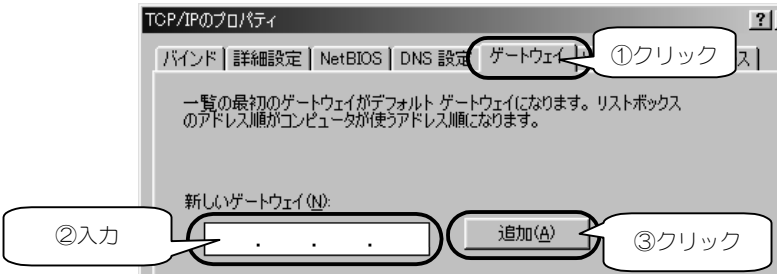


ホスト	他のコンピュータと重複しない任意の名前を入力してください。 通常は、コンピュータ名と同一の文字列を指定します。
ドメイン	プロバイダの案内に応じて入力してください。
DNS サーバーの検索順	

4 [ゲートウェイ]タブをクリックし、[新しいゲートウェイ]に本製品のIPアドレスを設定してください。

［新しいゲートウェイ］に本製品のIPアドレスを入力後、［追加］ボタンをクリックしてください。

（本製品のIPアドレスについては、57ページを参照してください。）



参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスがゲートウェイの値となります。

後は、お使いの Web ブラウザでインターネットにアクセスできます。

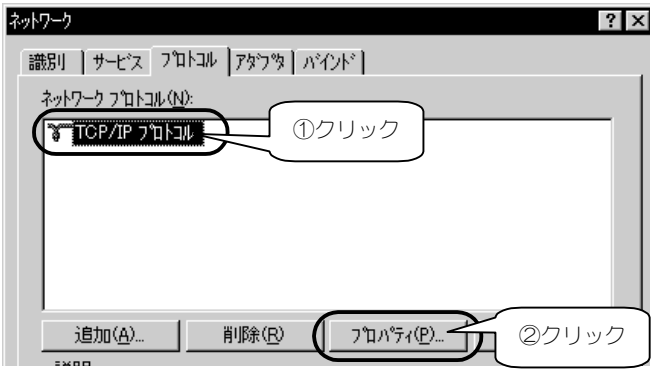
DHCP サーバが無い場合(Windows NT 4.0 の手順)

ネットワーク上にDHCPサーバが無い場合は、［DNS］や［ゲートウェイ］を手動で設定する必要があります。以下の手順で［DNS］と［ゲートウェイ］を設定してください。

1 Administrator権限でWindows NT 4.0にログオンします。

2 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］内の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3 ［TCP/IP プロトコル］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。



4 ［IPアドレス］タブで、［デフォルトゲートウェイ］に本製品のIPアドレスを設定してください。

本製品のIPアドレスについては、本製品の管理者にご確認ください。

参考

インターネット接続の共有を、本製品を使用せずに、既存のルータを用いる場合は、既存のルータの IP アドレスがゲートウェイの値となります。

5 [DNS]タブをクリックし、プロバイダの案内に応じてDNSを設定してください。

ホスト名	他のコンピュータと重複しない任意の名前を入力してください。 通常は、コンピュータ名と同一の文字列を指定します。
ドメイン	プロバイダの案内に応じて入力してください。
DNS サービスの検索順序	

後は、お使いの Web ブラウザでインターネットにアクセスできます。

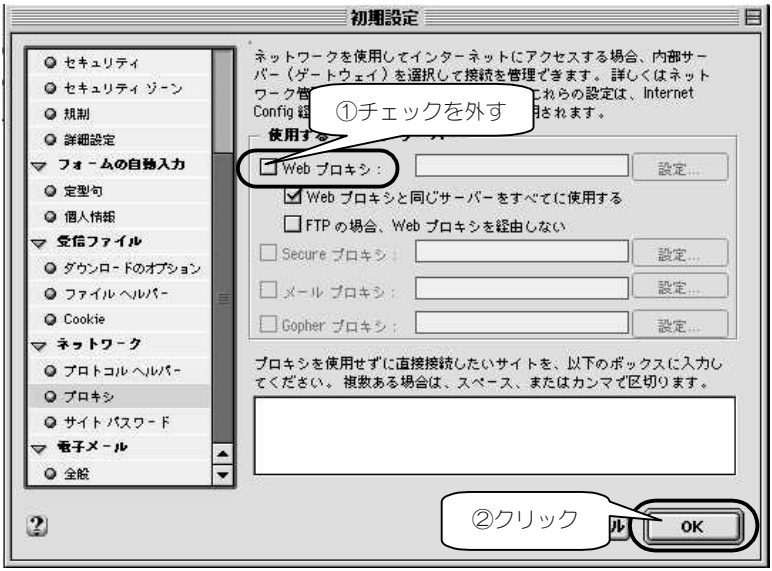
Mac OS での設定①:　Web ブラウザの設定

1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集]→[初期設定...]を選択します。

3 [▽ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

4 [Webプロキシ]にチェックが付いていないことを確認し、
[OK]ボタンをクリックします。
チェックが付いていた場合は、外してください。



設定後、【Mac OS での設定②:TCP/IP の設定】(171 ページ)へお進みください。

Mac OS での設定②:TCP/IP の設定

Mac OSユーザは、【Mac OSユーザ側の最初の設定】での【TCP/IPを有効にする場合】(142ページ)で［TCP/IP］を設定し、【Mac OSでの設定①】(前ページ)でWebブラウザを設定すれば、後は、お使いのWebブラウザでインターネットにアクセスできます。

《機器別の設定》
③プリンタをみんなで使う場合

ここでは、本製品に接続したプリンタを使用するためのユーザ側での設定手順について説明します。
設定後、ユーザはネットワークプリンタとして使用できるようになります。

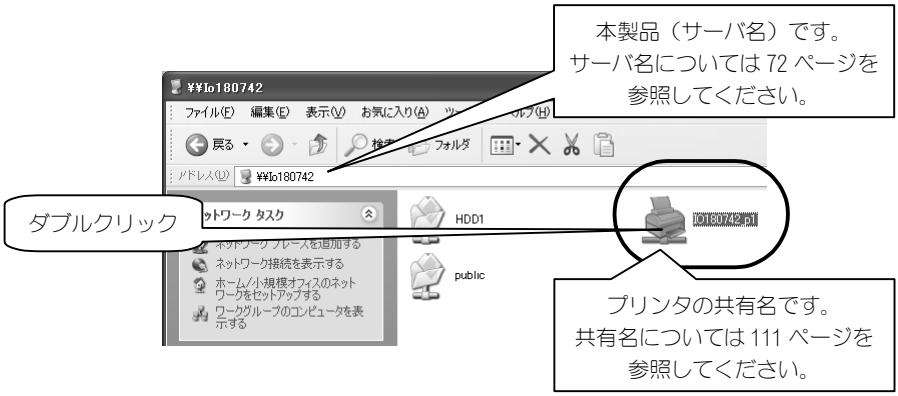
- Windows XP の場合 → 以下を参照してください。
- Windows 2000/NT 4.0 の場合 → 174 ページを参照してください。
- Windows Me/98/95 の場合 → 176 ページを参照してください。
- Mac OS の場合 → 180 ページを参照してください。

Windows XP で使うには

1 コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

2 [スタート]→[コントロールパネル]クリックし、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

3 [マイ ネットワーク]→[ワークグループのコンピュータを表示する]→"本製品のサーバ名"→"登録されているプリンタの共有名"を順にダブルクリックします。



4 以下の画面では、[OK]ボタンをクリックします。

5 プリンタのドライバをインストールしてください。

※プリンタのドライバのインストールについては、プリンタの取扱説明書を参照してください。

6 後は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストール後、プリンタが登録されます。

以上で Windows XP でのプリンタの登録は終了です。

Windows 2000/NT 4.0 で使うには

1 Administrator権限でWindows 2000およびWindows NT 4.0にログオンします。

2 [マイ ネットワーク](Windows NT 4.0では[ネットワークコンピュータ])→[ネットワーク全体]→"本製品のサーバ名"→"登録されているプリンタの共有名"を順にダブルクリックします。

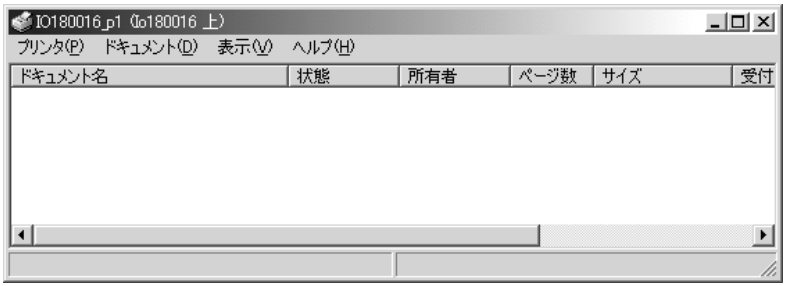
3 以下の画面では、[はい]ボタンをクリックします。

4 以下の画面では、[OK]ボタンをクリックします。

5 プリンタのドライバをインストールしてください。

※プリンタのドライバのインストールについては、プリンタの取扱説明書を参照してください。

6 後は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストール後、プリンタが登録されます。



以上で Windows 2000 および Windows NT 4.0 でのプリンタの登録は終了です。

Windows Me/98/95 で使うには

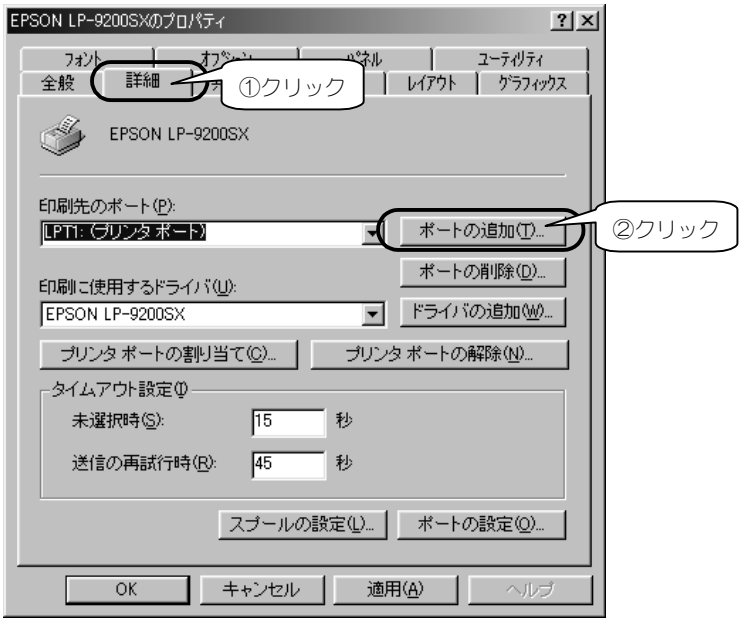
Windows ユーザは、管理者が設定したプリンタ名でプリンタを登録すれば、プリンタを使用できるようになります。
すでにプリンタドライバをインストールしている場合は、そのまま以下へお進みください。
新規にプリンタドライバをインストールする場合は、プリンタの取扱説明書を参照して、お使いの OS に対応したプリンタドライバをインストール後、以下へお進みください。
※本手順の画面は、Windows 98 を例にしています。

1 まず、お使いのプリンタのプリンタドライバをインストールしてください。
※詳細は、プリンタに付属の取扱説明書でご確認ください。
すでにプリンタをインストール済みの場合は、手順 ***2*** へお進みください。

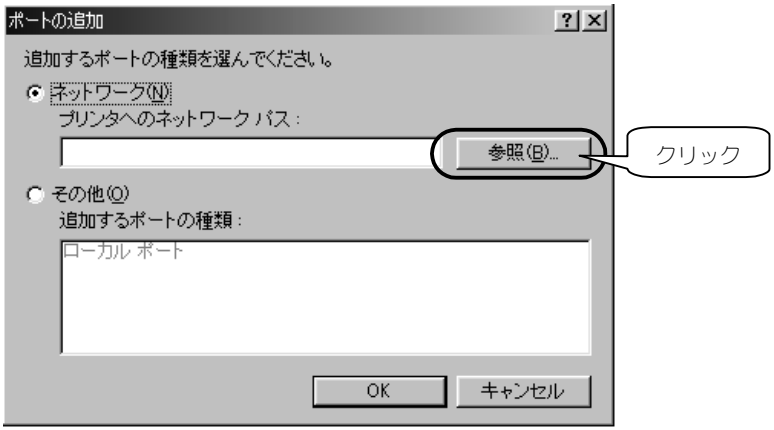
2 [スタート]→[設定]→[プリンタ]を順にクリックします。

3 追加しているプリンタを右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。
※以下の画面はEPSON製LP-9200SXを例にしています。

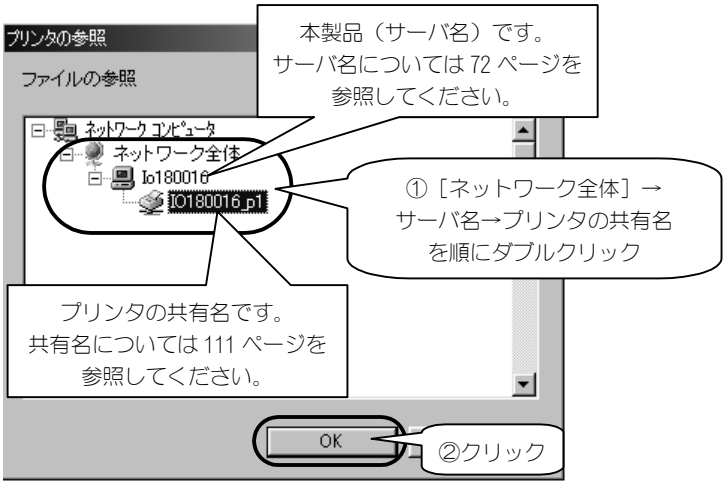
4 [詳細]タブをクリックし、
[ポートの追加]ボタンをクリックします。



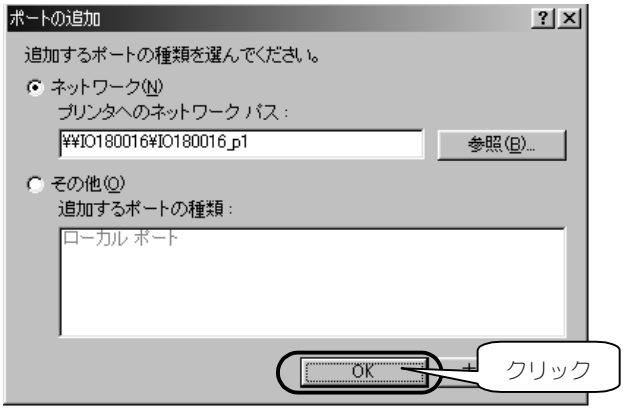
5 [参照]ボタンをクリックします。



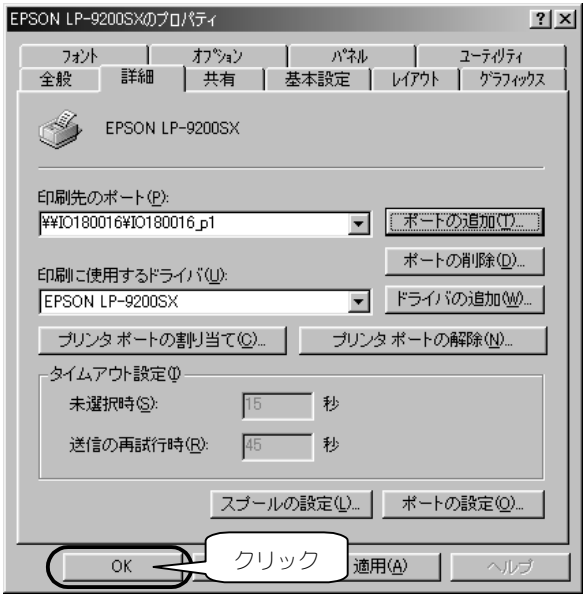
6 [ネットワーク全体]をクリックし、"本製品のサーバ名"→"プリンタの共有名"を順にダブルクリック後、[OK]ボタンをクリックします。



7 [OK]ボタンをクリックします。



8 [OK]ボタンをクリックします。



以上でプリンタの設定は終了です。

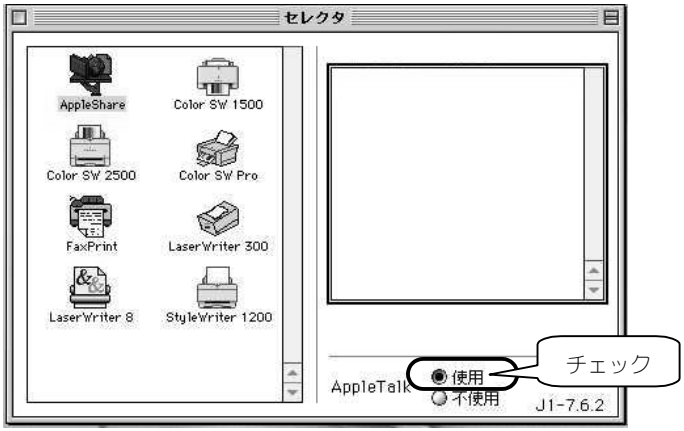
Mac OS で使うには

Mac OSユーザが本製品に接続したプリンタを使用するには、AppleTalkでプリンタへのアクセスの設定が必要です。

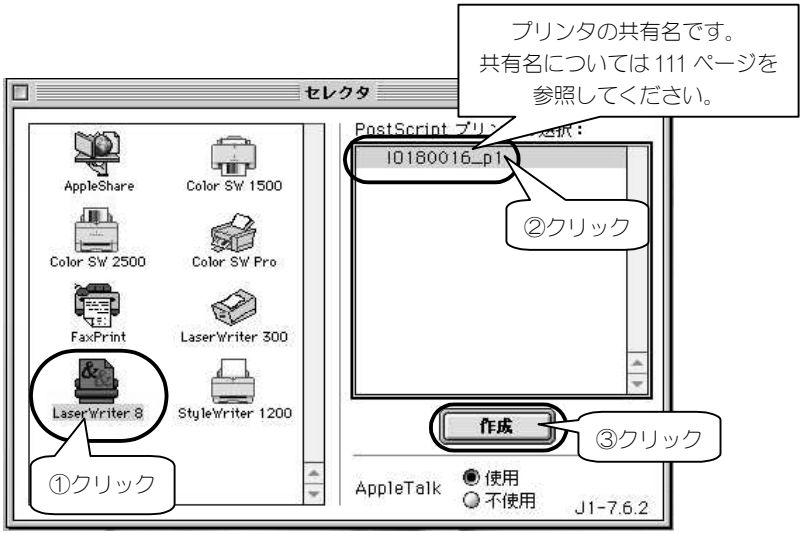
以下は、LaserWriter互換プリンタの場合の手順を説明します。

1 [アップルメニュー]→[セレクタ]を順にクリックします。

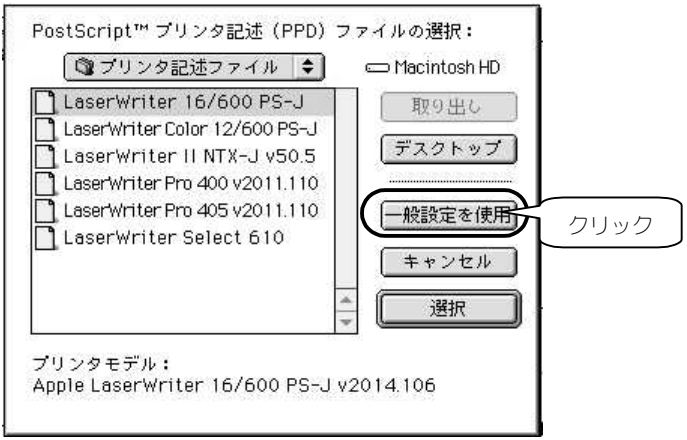
2 [セレクタ]画面の[AppleTalk]の[使用]をチェックします。



3 [LaserWriter 8]アイコン、本製品に接続した“プリンタの共有名”を順にクリックし、[作成]ボタンをクリックします。



4 以下の画面で[一般設定を使用]ボタンをクリックします。



以上で設定終了です。
デスクトップ上にアイコンが追加されますので、ご活用ください。

MEMO

付録 1

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

設定時のトラブル

状態	参照ページ
設定画面が表示されない	185
設定画面で文字化けする　（Mac OS のみ）	
設定画面で［保存］ボタンをクリックしても、再度「管理者情報入力」を要求される　（Mac OS のみ）	
管理者（admin）の［パスワード］、［IP アドレス］を忘れた	186
設定画面で文字が入力できない	
本製品を DHCP サーバに設定した環境で、Mac OS ユーザ側の［TCP/IP］画面で［DHCP サーバを参照］に設定したにもかかわらず、［TCP/IP］に IP アドレスなどの情報が表示されない	
本製品を DHCP クライアントに設定した場合、どんな IP アドレスが割り当てられているかわからない	
［TCP/IP］が表示されていない　（Windows Me/98/95 の場合）	187
［Disk full］ランプが点灯し、［Ready］ランプと［Error］ランプが交互に点滅する（電源も切れない）	189
各ランプの点灯/点滅が、ステップ通り(50 ページ参照)に進まない	

ハードディスク使用時のトラブル

状態	参照ページ
2バイト文字（日本語など）を使用したファイルやフォルダが文字化けする、あるいは開けない	189
Windows から本製品の共有にアクセスできるのに、Mac OS からはアクセスできない	190
Windows 上からハードディスクを参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある	
・本製品にファイルをコピーするとアーカイブ属性になる ・本製品にファイルをコピーした後に属性を変更したはずなのに変更されない	

インターネット接続時のトラブル

状態	参照ページ
勝手にダイヤルアップしてしまう	190
フレッツ ISDN で認証がうまくいかない	191
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される（Windows のみ）「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」	192

プリンタ使用時のトラブル

状態	参照ページ
PostScript（LaserWriter 互換）プリンタ以外のプリンタを使用できない（Mac OS のみ）	192

設定時のトラブル

設定画面が表示されない

原因1	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（Ready ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが外れていないか、再度確認してください。
原因2	別のネットワークで使用していたために、Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	Webブラウザのプロキシ経由の設定を外してください。 （【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)参照）

設定画面で文字化けする（Mac OS のみ）

原因1	Internet Explorer のモジュールに問題がある。
対処	「Text Encoding Converter」モジュールのバージョンが 1.4 の場合には、1.3.1 を再インストールしてください。 詳細については、以下のアドレスで確認し、モジュールを入手してください。 http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/j046/7/18.htm
原因2	Mac OS のバージョンによっては、「Text Encoding Converter」のモジュールが無いか、または、古い場合がある。
対処	以下のアドレスから上記モジュールを入手してください。 http://www.aladdinsys.com/updates/

設定画面で[保存]ボタンをクリックしても、再度「管理者情報入力」を要求される（Mac OS のみ）

原因	Internet Explorer のバージョンが古い。
対処	Internet Explorer のバージョン5以上を使用してください。

管理者(admin)の[パスワード]、[IP アドレス]を忘れた

対処	本製品背面の［リセット］（RESET）ボタンを押せば、再度新しい設定を行うことができます。（IP アドレスとパスワードが出荷時状態に戻ります。（[IP アドレス]：192.168.0.2，パスワード：なし）

設定画面で文字が入力できない

原因1	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因2	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。

本製品を DHCP サーバに設定した環境で、Mac OS ユーザ側の[TCP/IP]画面で[DHCP サーバを参照]に設定したにもかかわらず、[TCP/IP]に IP アドレスなどの情報が表示されない

原因	Mac OS の仕様です。
対処	一度、ネットワーク上から本製品を参照し、再度 TCP/IP 画面を開いていただくと IP アドレスなどの情報が表示されます。

本製品を DHCP クライアントに設定した場合、どんな IP アドレスが割り当てられているかわからない

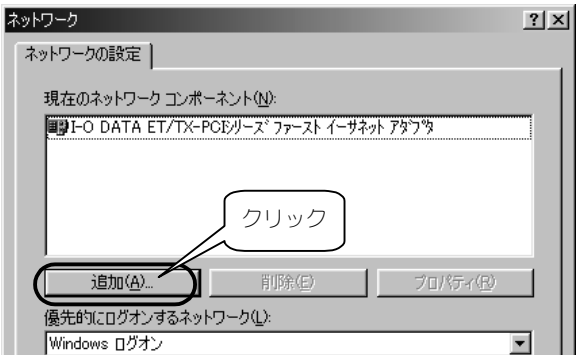
対処	DHCPサーバ側で確認できる場合は、DHCPサーバとしてお使いの機器の取扱説明書をご確認の上お調べください。 DHCP サーバにその機能が無い場合は、管理者権限にて本製品の HDD1 フォルダの下にある IPDATA ファイルの内容をご確認ください。

[TCP/IP]が表示されていない（Windows Me/98/95 の場合）

原因	TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順で TCP/IP をインストールします。

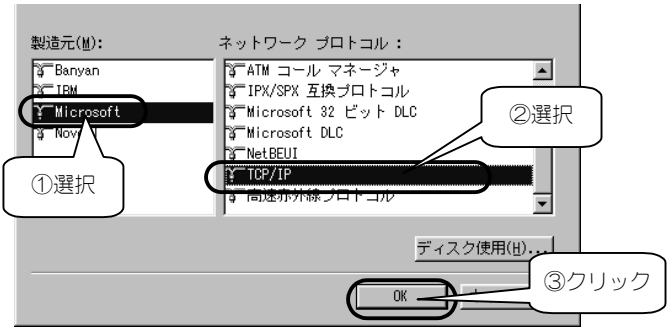
1 「ネットワーク」画面を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、
[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。
※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。



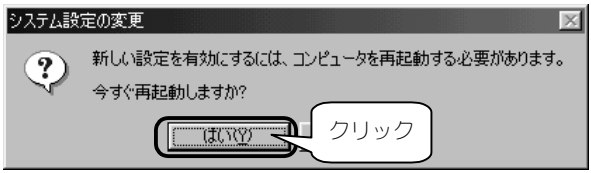
3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



[Disk full]ランプが点灯し、[Ready]ランプと[Error]ランプが交互に点滅する（電源も切れない）

原因	［リセット］ボタンを押しながら電源を入れた。
対処	［Disk］ランプが点灯していないことを確認して、一度ACアダプタを抜き、再度ACアダプタを接続して電源を入れ直してください。 ※[リセット]ボタンを押しながら、電源を入れる操作は行わないようにしてください。

各ランプの点灯/点滅が、ステップ通り(50 ページ参照)に進まない

原因	本製品のシステムが破損している。
対処	弊社修理係にご依頼ください。（【修理について】（246ページ）参照） ※弊社修理係では、データ復旧サービスは行っておりません。 故障した場合、データの復旧はできなくなります。 ※修理係では、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。

ハードディスク使用時のトラブル

2バイト文字（日本語など）を使用したファイル/フォルダが文字化けする、あるいは開けない

原因	Windows で作成したファイルやフォルダに Mac OS からアクセスしている。あるいは Mac OS で作成したファイルやフォルダに Windows からアクセスしている。
対処	WindowsとMac OSで２バイト文字を共用させることはできません。 １バイト文字（半角英数文字など）のファイル/フォルダ名に変更してください。

Windows から本製品の共有にアクセスできるのに、Mac OS からはアクセスできない

原因１	本製品の AppleTalk が有効になっていない。
対処	AppleTalk を有効にしてください。（【ステップ4　AppleTalk を有効にする】63 ページ参照）
原因2	AppleTalk 経由先が、ご使用の LAN アダプタになっていない。
対処	Apple メニューの[コントロールパネル]で[AppleTalk]を開き、[経由先]として、使用している LAN アダプタを選択してください。

Windows 上からハードディスクを参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある

原因	Mac OS ユーザがフォルダを作成したり、ファイルをコピーした。
対処	Mac OSユーザがファイルやフォルダを作成すると、Windowsユーザには見覚えの無いフォルダやファイルが同時に作成されます。 これには、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

・本製品にファイルをコピーするとアーカイブ属性になる
・本製品にファイルをコピーした後に属性を変更したはずなのに変更されない

原因	本製品の仕様です。

インターネット使用時のトラブル

勝手にダイヤルアップしてしまう

原因1	メールやホームページを定期的にチェックするソフトやチャットソフトが常駐している。
対処	常駐を解除してください。 解除方法については、各ソフトウェアの取扱説明書やヘルプを参照してください。

原因2	Windows XP/2000 の場合での［DNS］の設定に問題がある。
対処	以下の手順を行ってみてください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックします。
（Windows XPでは、［スタート］→［コントロールパネル］）

2 ［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。
（Windows XPでは、［ネットワークとインターネット接続］→［ネットワーク接続］）

3 ［ローカルエリア接続x］（x には数字が入る場合があります）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をダブルクリックし、［詳細設定］ボタンをクリックします。

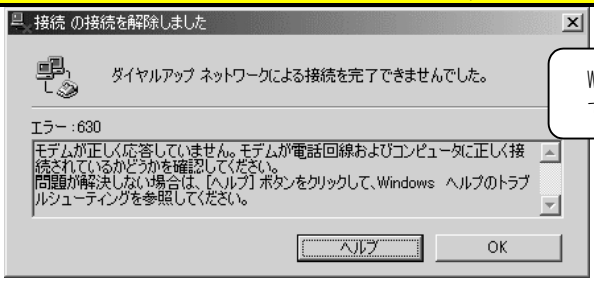
5 ［DNS］タブをクリックし、以下の設定を行ってください。

この接続の DNS サフィックス	何も入力しない
この接続のアドレスを DNS に登録する	チェックを外す

フレッツ ISDN で認証がうまくいかない

原因	認証の設定を［CHAP］に設定している。
対処	［PAP］に設定してください。（203 ページの［インターネット］タブで［認証］項目を［PAP］に変更してください。）

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される （Windows のみ）
「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」



原因	ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップする設定となっている。
対処	【5. Web ブラウザを設定する】(40 ページ)を参照して、Web ブラウザの設定を行ってください。

プリンタ使用時のトラブル

PostScript（LaserWriter 互換）プリンタ以外のプリンタを使用できない（Mac OS のみ）

対処	本製品では、PostScript（LaserWriter 互換）プリンタ以外のプリンタは保証しておりません。

付録2

Web 設定画面の詳細

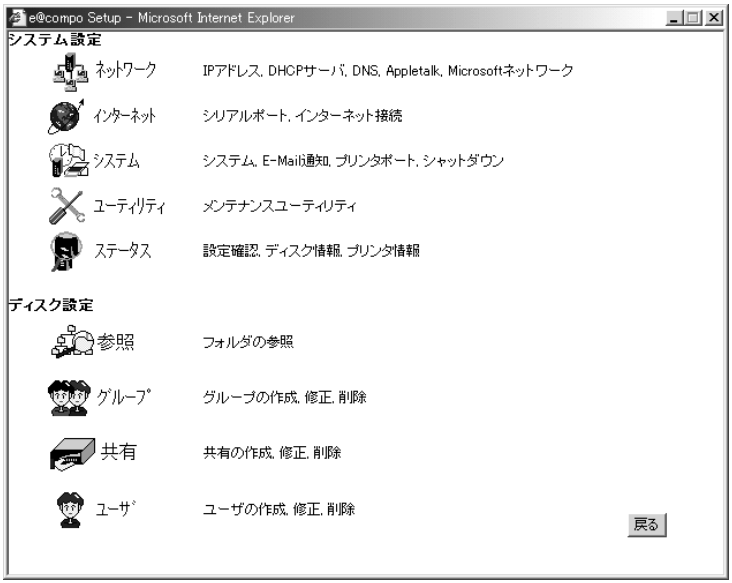
ここでは、Web設定画面の詳細について説明します。
必要に応じてお読みください。

・Web 設定画面の起動方法 …… 194
・ネットワークに関する設定 …… 195
[IP アドレス]…(本製品の IP アドレスの設定) …… 195
[DHCP]…(DHCP サーバ機能の設定) …… 197
[DNS]…(DNS アドレスの登録) …… 198
[AppleTalk]…(AppleTalk 関連の設定) …… 199
[Microsoft]…(Microsoft ネットワーク関連の設定) …… 200
・インターネットに関する設定 …… 201
[ポート]…(RS-232C/モデムの設定) …… 201
[インターネット]…(インターネット接続関連の設定) …… 203
[アプリケーション]…(アプリケーションの追加) …… 205
[ステータス]…(接続ステータスの表示) …… 208
・システムに関する設定 …… 211
[システム]…(システムの基本設定項目の設定) …… 211
[E-mail]…(E-mail 通知機能関連の設定) …… 213
[シャットダウン]…(シャットダウン・リブートの設定) …… 214
・プリンタに関する設定 …… 216
・ディスク検査に関する設定 …… 218
・ログファイルの表示 …… 220
・ソフトウェアのアップグレード …… 221
・現在の状態の表示 …… 222
[システム]…(本製品のシステムの表示) …… 222
[プリンタ]…(接続したプリンタ情報の表示) …… 223
[ディスク]…(ディスク情報の表示) …… 224
・ハードディスクの共有に関する設定 …… 225
[参照]…(共有状態の表示) …… 225
[グループ]…(グループの作成・修正・削除) …… 227
[共有]…(共有の作成・修正・削除) …… 229
[ユーザ]…(ユーザの作成・修正・削除) …… 231

Web 設定画面の起動方法

設定画面は、Web ブラウザから起動します。
詳細は、51 ページを参照してください。

＜設定画面＞



ネットワークに関する設定

ネットワークに関する設定です。
設定画面の［ネットワーク］をクリックして行います。

[IP アドレス]･･･本製品の IP アドレスの設定

本製品は、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）クライアントとして動作させることが可能です。
お使いのネットワーク上に、Windows 2000 ServerなどのDHCPサーバがある場合は、クライアントとして登録することもできます。

IP アドレスを自動的に取得（DHCP クライアント）	ネットワーク上に DHCP サーバがある場合には選択できます。DHCP サーバはパソコンやその他の機器が起動する際に IP アドレスを提供します。 ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合は、以下の「IP アドレスを指定する」を選択し、IP アドレスを入力してください。 **注意** **ネットワーク上に DHCP サーバが無い状態で、本製品を DHCP クライアントに設定した場合、本製品を再起動後に、DHCP サーバを検出できないために、しばらくすると、初期値の［IP アドレスを指定する］の設定に戻ります。**
IP アドレスを指定する	ネットワーク上に DHCP サーバが無い場合にはこちらを選択して値を入力してください。
IP アドレス	**初期値：192.168.0.2** ネットワークに適した IP アドレスを入力します。
サブネットマスク	**初期値：255.255.255.0** パソコンやネットワーク上の機器と同じサブネットマスクを使用します。
ゲートウェイ（ルータ）	**初期値：空白** ネットワーク上にルータやゲートウェイが存在する場合には、その IP アドレスを入力します。 ルータやゲートウェイが存在しない場合には、空白または 0.0.0.0 に設定します。

[DHCP]・・・DHCP サーバ機能の設定

本製品 は DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバとして動作させることが可能です。 DHCPサーバは IP アドレスや関連したデータをパソコンやその他のデバイスに提供します。
この機能を使用することで、ネットワークの管理を容易にできます。

DHCP サーバを有効にする	DHCP サーバを有効/無効にします。 もし、他に DHCP サーバがある場合には、有効にしないでください。
開始 IP アドレス	DHCP サーバが提供する開始 IP アドレスを指定します。 この数値は 1～254 の間でなければなりません(最初の３つの項は 本製品の IP アドレスの値と同じ値を使用します)。
終了 IP アドレス	DHCP サーバが提供する最後の IP アドレスを指定します。

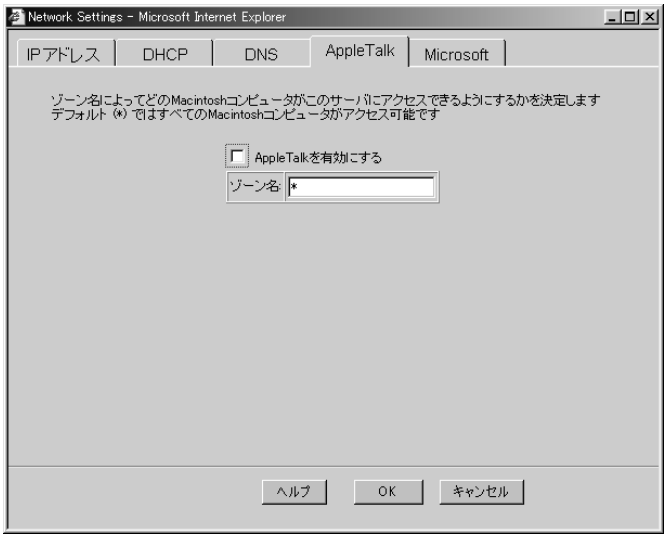
[DNS]・・・DNS アドレスの登録

DNS（Domain Name System）はインターネットアドレス（例:www.iodata.jpなどの文字列のアドレス)を、数字で構成されたIPアドレスに変換します。
パソコンに設定している値と同じ値を使用してください。
複数が登録されている場合には最初に検出されたサーバが使用されます。

DNS IP アドレス（1）	１つ目の DNS サーバの IP アドレス
DNS IP アドレス（2）	１つ目の DNS サーバがシステムダウンなどにより、検出できない場合にアクセスするDNS サーバの IP アドレス
DNS IP アドレス（3）	２つ目の DNS サーバがシステムダウンなどにより、検出できない場合にアクセスするDNS サーバの IP アドレス

[AppleTalk]・・・AppleTalk 関連の設定

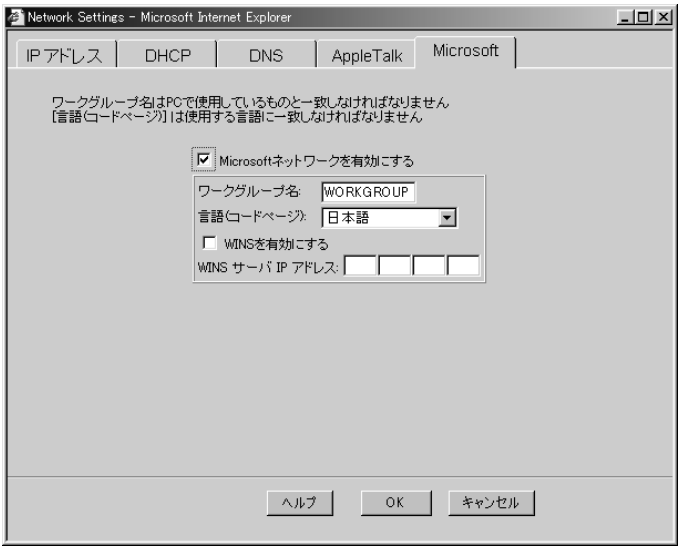
この項は Apple Macintoshパソコンを接続する場合に必要です。



AppleTalk を有効にする	有効になっていない場合、Mac OS ユーザは AppleTalk では、本製品にアクセスできません。
ゾーン名	**初期値(出荷時)"*"** では、すべての Mac OS ユーザが本製品にアクセスできる設定です。 特定のゾーンだけにアクセスするようにする場合には ゾーン名を入力してください。

[Microsoft]・・・Microsoft ネットワーク関連の設定

Windowsを使用する場合、Microsoftネットワークを有効にして本製品にアクセス可能に設定する必要があります。



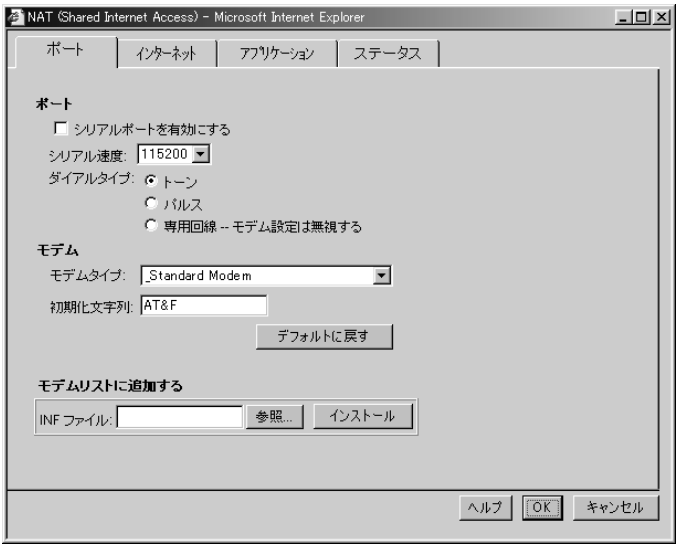
Microsoft ネットワークを有効にする	無効にした場合には Windows ユーザは、本製品にアクセスできません。
ワークグループ名	″ワークグループ名″ はパソコンのワークグループ名と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名の確認方法は、64 ページ参照） ワークグループ名が一致していない場合にも本製品のハードディスクにアクセスすることは可能ですが、ネットワークを参照した場合には表示されません。
言語コード（コードページ）	使用言語を選択します。 「日本語」の選択より変更しないでください。
WINS を有効にする	WINS サーバを使用している場合に有効にします。 有効になっている場合、WINS サーバに登録されます。この場合、ルータを経由するユーザもネットワークコンピュータで参照できます。（ネットワークコンピュータで同一の LAN セグメントのみを検索する場合を除く）
WINS サーバ IP アドレス	WINS サーバの IP アドレスを入力します。 通常 NT サーバです。

インターネットに関する設定

インターネットに関する設定です。
設定画面の［インターネット］をクリックして行います。

［ポート］・・・RS-232C／モデムの設定

ここでの入力は正しくなければいけませんが、アナログモデムを使用する場合、ほとんどの場合には最初（出荷時）の設定で動作します。
リストにのっていないモデム/ISDN TA を使用する場合、そのモデムのWindows用のINFファイルを持っていればモデムリストに追加することもできます。



シリアルポートを有効にする	シリアルポートを経由したインターネットアクセスの有効/無効を設定します。
シリアル速度	使用するモデム・TA がサポートする最高速度を選択します。通常は、出荷時の［115200］で問題ありません。 ここでの値は、シリアルポートでの速度であって、電話回線の速度ではないことに注意してください。 専用回線を使用する場合は、使用する専用回線の速度を選択してください。

ダイアルタイプ	モデム・TA に接続した回線の種類を選択します。 専用回線など常時接続の場合は、「専用回線」を選択します。以下の「モデムタイプ」設定の内容は無視されます。 **注意:「シリアル速度」は専用回線の速度に一致していなければなりません。**
モデムタイプ	リストから使用するモデム・TA を選択します。 ・″_Standard Modem″ を選択し、動作を確認します。（多くのモデムは、この設定で動作可能です。） ・″Other″を選択し、適切な初期化文字列（AT コマンド）を入力します。この初期化文字列が、モデム・TA の回線速度、ダイアル方法を設定します。 **※サポートする AT コマンドについてはモデム･TA の取扱説明書を参照してください。** ・使用するモデム・TA の Windows 98/95 用 INF ファイルがある場合、そのモデム・TA をモデムリストに追加できます。（手順については、**【●モデムリストへの追加手順】106 ページ**参照）
初期化文字列	プロバイダに接続を行う前に、モデム･ TA に対して行う設定用の AT コマンドです。「Other」以外のモデム・TA については設定を変更することはできません。 「Other」を選択する場合、サポートするコマンドについてはモデム・TA の取扱説明書を参照してください。
モデムリストに追加する	使用するモデム・TA をリストに追加するための INF ファイルの指定を行います。 INF ファイルは、Windows 98/95 用のみ対応です。 （手順については、**【●モデムリストへの追加手順】106 ページ**参照）
デフォルトに戻す	画面表示されている値を初期値（出荷時設定値）に戻します。

[インターネット]・・・インターネット接続関連の設定

リモート接続を行うための設定ですので、正しく入力してください。
ここでの入力内容は、プロバイダによって指定されたものです。

アカウント名	プロバイダで指定されたインターネットアカウント名です。 プロバイダによっては「ユーザ名」と呼んでいるところもあります。	
パスワード	上のアカウント名のパスワードを入力します。 「パスワードの再入力」欄にもう一度パスワードを入力して、このパスワードが正しいかどうか確認します。	
認証	プロバイダの案内に応じて以下のいずれかを設定します。	
	CHAP	PPPなどにおけるユーザ認証方法の１つ。 PAP と違って、ユーザ名やパスワード情報をそのまま渡さない（流さない）ため、安全性が高い。
	PAP	PPPにおけるユーザ認証方法の１つ。 PPPにおける最も簡単な認証方式であるが、通信回線をモニタされるとユーザ名とパスワード情報が盗まれる可能性がある。

電話番号	プロバイダに接続するための電話番号（アクセス番号）です。 数字(0～9)とコンマ(,)のみ使用できます。 専用線を使用する場合には、空白のままにしてください。
電話番号 2 & 3	これらはオプションです。 入力しておけば、最初の電話番号が利用できないとき、順番にこれらの番号にダイアルをします。
切断までの待ち時間	入力した時間の間、データ通信が行われていなければ切断します。 アナログ回線を使用している場合には、再接続に必要な時間の遅延を避けるために長めに設定（例 20 分）することができます。 ISDN を使用している場合には、接続の遅延は短く、1 分程度に設定しておけば良いと思われます。 専用回線を使用する場合には、ここでの設定は関係ありません。
接続時の IP アドレス	通常は、［ダイナミック］を使用します。 プロバイダから IP アドレスが提供されていない場合は、［ダイナミック］を選びます。（プロバイダに接続したときに IP アドレスが割り振られる場合など） 接続したときに割り振られるのではなく、すでに IP アドレスを提供されている場合には、「次のアドレスに固定」を選択し、そのアドレスを記入してください。
DNS IP アドレス	プロバイダに接続するには、少なくとも 1 つの DNS IP アドレスが必要です。 「ネットワーク」項目の「DNS」タブで設定します。（198 ページ参照）

注意！

本製品では、DNS サーバの指定を DNS サーバの IP アドレスで行います。
アドレスを公開していないプロバイダもありますので、事前にご確認ください。

[アプリケーション]・・・アプリケーションの追加

″アプリケーション″ 機能は通常の接続方式では無く、通常はファイヤーウォールでプロテクトされている特別なインターネットアプリケーションを使用する場合に使用します。
例えば、ゲームサーバやインスタントメッセンジャー、ビデオ・カンファレンスなどです。
通常、使用する可能性のあるアプリケーションのみを有効にしください。

アプリケーション リスト	定義済みのアプリケーションがリスト表示されます。 次のようにしてこのリストを編集できます。 ・「更新」、「削除」ボタンを使ってリストの項目を編集できます。 ・「追加」ボタンを使って新しくリストにアプリケーションを追加できます。

プロパティ	選択した項目のプロパティを表示します。また、新しく項目を追加する場合にも使用されます。 一部のアプリケーションでは「n/a」と表示されます。これはユーザが指定できない特別な方法によってサービスがサポートされていることを示します。新しく項目を加える場合は、プロバイダから指定された値が含まれていなければいけません。	
	名前	アプリケーション名
	有効	使用を有効/無効にします。 使用するアプリケーションのみに有効をチェックしてください。
	プロトコル	送信、受信時のプロトコルをそれぞれ選択します。プロトコルを特定しない場合は「Auto」を選択してください。（ポート番号が空白のときのみ有効になります。）
	ポート番号	送信、受信時の開始ポート番号を入力します。 １つのポートのみ使用する場合、送信、受信両方の「開始」欄にその番号を入力してください。 送信、あるいは受信のどちらかに１つのポート番号が使用できる場合、「終了」欄は空白のままになります。その場合、「開始」欄のポート番号のみ利用可能です。「終了」欄に値を入力した場合には、「開始」から「終了」までのポートが利用可能です。

操作方法

・新規エントリーを追加する場合

1. 「クリア」ボタンをクリックします。
2. 「プロパティ」にデータを入力します。
3. 「追加」ボタンをクリックします。
4. 画面をリフレッシュしたとき、新しいエントリーがリストに追加されます。

・項目を変更する場合

1. リストから項目を選択します。
2. 「プロパティ」に「n/a」が表示されていない場合、プロパティに表示されたデータを変更することができます。

   ※「n/a」と表示された場合、有効/無効の設定以外、変更することはできません。
3. 「更新」ボタンをクリックします。
4. 画面をリフレッシュしたとき、プロパティに新しいデータが表示されます。

・項目を削除する場合

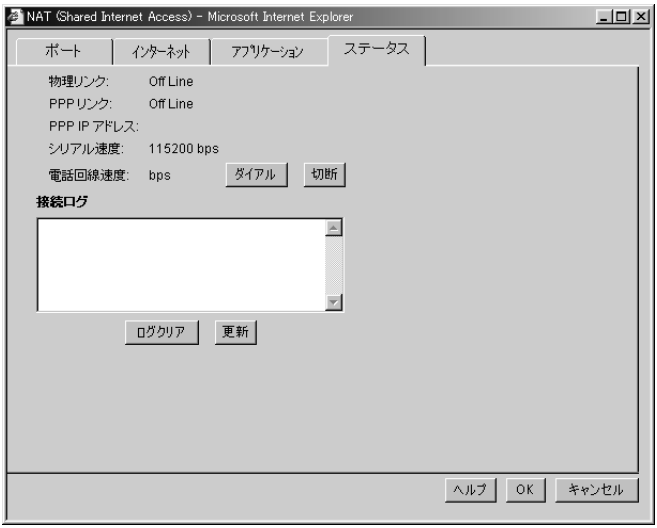
1. リストから項目を選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されます。
3. 画面をリフレッシュしたとき、その項目はリストから消去されています。

注意！

項目を削除した場合、取り消しできません。

[ステータス]・・・接続ステータスの表示

本画面は接続状態の確認やトラブルシューティングのために参照します。



物理リンク	動作状態ではリンクは Established と表示されます。 この場合にはモデムが電話発信できる状態であることを示します。
PPP リンク	Established の場合には PPP 接続が認証に成功したことを示します。
PPP IP アドレス	インターネットを参照するために使用される IP アドレスを示します。IP アドレスの設定を「ダイナミック」（「インターネット」タブで設定します）に設定している場合には、このアドレスは接続先のプロバイダより提供されます。
シリアル速度	シリアルポートとモデム間の通信速度を示します。 この設定は「ポート」タブで変更できます。
電話回線速度	モデムと電話先の電話回線の通信速度を示します。 この値はモデムにより返されます。
接続ログ	接続ログは接続結果に関連したステータスメッセージを表示します。 一般的なメッセージについては、次ページの表に示します。 「ログクリア」ボタンを押すとログを消去して新しくログを開始します。また、「更新」ボタンで最新情報を表示します。

ダイヤルボタン	未接続状態の場合、本ボタンでプロバイダへの接続を行うことができます。接続試験などを行う場合に有効です。
切断ボタン	接続状態の場合、本ボタンで接続を切断することができます。
ログクリアボタン	全てのログのメッセージを消去して、新しいメッセージを参照しやすくします。
更新ボタン	画面のステータスおよびログデータを更新します。

●メッセージ一覧

メッセージ	概要
通常状態	
ATDTxxxxxxxx	ダイヤルした電話番号が xxxxxxxx で表示されます。２つめの「T」はトーンダイヤルを示します。パルスダイヤルを使用した場合には「T」の代わりに「P」が表示されます。
Connect: PPP	プロバイダに接続したことを示します。 物理レベルの PPP 接続は正常に確立されました。 PPP ログインが成功したことを示します。 次に PPP 認証(ログイン)の手順に入ります。
Local IP Address Remote IP Address	「Local IP Address」は、インターネット接続用に本製品に割り当てた IP アドレスを示します。 もし IP アドレスの設定を「ダイナミック」に設定している場合には、この IP アドレスは接続先のプロバイダより提供されます。 **注意** **本製品はもう一つの IP アドレスを LAN 用に持っています。** 「Remote IP Address」はプロバイダの IP アドレスです。
Disconnecting	［インターネット］タブ(203 ページ)での［切断までの待ち時間］で指定した時間が経過した、あるいは［ステータス］タブ(前ページ)で［切断］ボタンが押された事によりその接続が切断されました。

メッセージ	概要
エラー状態	
No Dial Tone	モデムが応答しないか、またはダイヤルトーンを検出できません。モデムと電話回線のケーブルの接続状態を確認してください。
Busy	ダイヤル先がビジーです。 複数の電話番号を設定している場合には、次の電話番号をダイヤルします。
No answer	ダイヤル先からの応答がありません。 複数の電話番号を設定している場合には、次の電話番号をダイヤルします。
PPP Authentication failed	PPP ログインに失敗しました。 ログイン名が許可されませんでした。ログイン名を確認してください。
Password Incorrect	パスワードが不正で PPP ログインに失敗しました。 パスワードを確認してください。

システムに関する設定

本製品のシステムに関する設定です。
設定画面の［システム］をクリックして行います。

［システム］･･･システムの基本設定項目の設定

ここのデータが基本設定です。本製品は、名前を持つ必要があります。
ファイルを正しいタイムスタンプで保存するためには、正しい日付と時刻を設定する必要があります。〝コメント〟はオプションです。

サーバ名	本製品のサーバ名を変更することができます。 句読点や特殊文字（例　＊／｜￥）および2バイト文字（日本語など）、半角カタカナは使用できません。 共有名として使用されていますので、稼動後は、頻繁には変更しないでください。

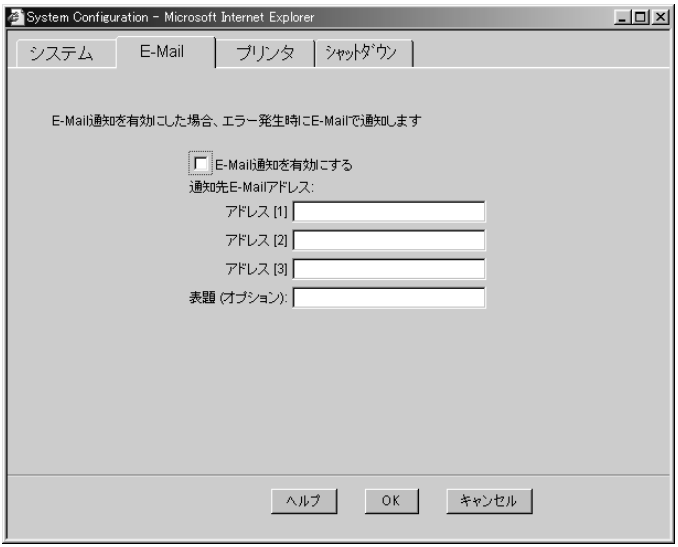
コメント	コメントを入力できます。 句読点や特殊文字（例　＊ / ｜ ¥ ）および２バイト文字（日本語など）、半角カタカナは使用できません。 **参考** **このコメントは、Windows のネットワークのプロパティ中にある「コンピュータの説明」と同様に、[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]を詳細表示させた際のコメント欄に表示される文字列となります。**
タイムゾーン	正しいタイムゾーンを選択します。
日付	現在の日付を入力します。
時間	現在の時刻を入力します。 本製品には［OK］ボタンをクリックした際に送られます。

[E-Mail]・・・E-Mail 通知機能関連の設定

本製品に問題やエラーが発生した場合に、ネットワーク上のユーザへE-Mailを送ることができます。これによって問題が発生した場合にはそのステータスをチェックすることができます。

注意！

E-Mail 通知機能は、ネットワーク内に DNS サーバとメールサーバがある場合にのみ通知可能です。



E-Mail 通知を有効にする	E-Mail による通知を行う場合には、これをチェックします。
通知先 E-Mail アドレス	アドレス(1)～(3)に E-Mail アドレスを入力します。 本製品により作成されるメッセージはこの宛先に送付されます。
表題 (オプション)	送信する E-Mail の表題を入力します。２バイト文字、日本語（半角含む）、および一部の記号は使用できません。

[シャットダウン]・・・シャットダウン・リブートの設定

本製品のリブートもしくはシャットダウンを行います。
また、リブート/シャットダウンスケジュールも設定できます。シャットダウンを行った場合は、本製品の背面スイッチによって起動します。

注意！

この画面のデータは[OK]ボタンをクリックしても保存されません。
保存するには[保存/タイマ開始]ボタンをクリックしてください。

●シャットダウンスケジュール

動作	指定の曜日/時間に行う動作を指定します。 動作は、「シャットダウン」,「リブート」から選択します。 動作に 「なし」が指定されている場合には動作は行われません。
曜日	「平日(月～金)」,「土曜」,「日曜」のそれぞれの項目に動作および時間を入力することによってそれぞれの動作を指定します。
時間	設定された動作を開始する時間を指定します。

●ハードディスクドライブ

特定時間ディスクへのアクセスが無い場合にハードディスクの電源を切る場合には、待ち時間を選択します。
ハードディスクの電源が切断された状態の時にディスクへのアクセスが行われた場合には、ハードディスクが動作開始するまでの遅延時間が発生します。
「なし」が選択されている場合には、ハードディスクは常時回転しています。

●アクション

アクション	実行するアクションを選択します。 また、何分後に指定したアクションを開始するかを設定します。 タイマーは［保存/タイマ開始］ボタンをクリックしてから動作を開始します。

●ボタン

保存/タイマ開始	画面上の設定を保存します。 アクションの欄で動作を指定した場合には、タイマの動作が開始されます。
直ちに シャットダウン	本製品を直ちにシャットダウンします。 この接続を含めて全ての接続は切断されます。 このボタンをクリックした場合には、設定した内容は保存されません。
直ちにリブート	本製品を再起動します。 この接続を含めて全ての接続は切断されます。 本製品は直ちに再起動され、数分後に動作を再開します。 このボタンをクリックした場合には、設定した内容は保存されません。

プリンタに関する設定

本製品に接続したプリンタに関する設定です。
設定画面の［システム］をクリック後、［プリンタ］タブをクリックして行います。

プリンタポートの設定を行います。接続されるプリンタは Windows と Mac OS ユーザによって共有されます。

注意！

Mac OS から印刷する場合、本製品に接続できるプリンタは、PostScript（LaserWriter 互換）プリンタのみです。

●Windows 用の設定

プリンタ名	プリンタ名を入力します。 プリンタ名は Windows を使用してプリンタをインストールする場合に参照されます。

●Mac OS 用の設定

接続するプリンタ	プリンタタイプを選択します。 ″その他″を選択した場合には、Mac OS ユーザは、そのプリンタのネットワーク対応プリンタドライバをインストールする必要があります。
プリンタオブジェクトタイプ	ここに入力する名前は接続したプリンタのプリンタドライバで指定される「オブジェクトタイプ」と一致しなければなりません。 「オブジェクトタイプ」指定が正しくない場合には、Mac OS 上でプリンタが検出されません。 「オブジェクトタイプ」を確認するにはプリンタの取扱説明書を参照してください。

ディスク検査に関する設定

本製品のハードディスクの検査に関する設定です。
設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［ディスク］タブで行います。

ディスク検査プログラムはファイルシステムを検査してエラーの有無をチェックします。ディスク検査は停電により電源が切断された場合などの、エラー状態が検出された場合には自動的に開始されます。

注意！

ディスクの検査中は、本製品を使用できません。
また、本製品に接続している機器（モデム・TA およびプリンタ）も使用できなくなります。
ディスクの検査を停止する場合には、[停止]ボタンをクリックしてディスクの検査を中止してください。

●ファイルシステムの検査

不良セクタのチェックを行う	チェックした場合に不良セクタの検査を行います。 この場合には検査がより詳細に行われますが、チェックには数時間かかります。
開始ボタン	検査を開始します。結果は別のウィンドウに表示されます。
停止ボタン	このボタンを押すと検査を中止します。 検査を中止する場合には、このボタンをクリックしてください。

●検査スケジュール

曜日	検査を行う曜日を指定します。 曜日は 「平日(月～金)」,「土曜」,「日曜」をそれぞれ選択して設定できます。
時間	検査を開始する時間を指定します。
不良セクタのチェック	チェックした場合には、不良セクタの検査も行います。 この場合には検査がより詳細に行われますが、チェックには数時間かかります。

ログファイルの表示

本製品のログファイルの表示です。
設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［ログ］タブで行います。

本製品は自動的にログファイルを作成します。
このログファイルには動作結果が記録され、管理やトラブルシューティングに利用できます。ログファイルはテキストファイルです。

ログ参照ボタン	このボタンをクリックするとログファイルが別ウィンドウに表示されます。ブラウザメニューでは検索できないため、必要であれば、 保存するか印刷します。

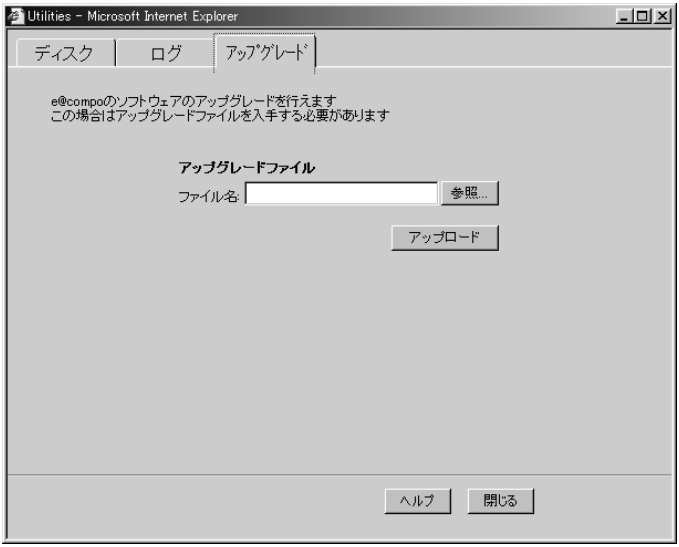
終了したらログファイルウィンドウを閉じてください。

ソフトウェアのアップグレード

本製品がバージョンアップされた際、ソフトウェアのアップグレードを行えます。設定画面の［ユーティリティ］をクリック後、［アップグレード］タブで行います。ただし、まず弊社ホームページ上からアップグレードファイルを入手する必要があります。

注意！

アップグレード操作中は、本製品を使用できません。 また、本製品に接続している機器（モデム・TA およびプリンタ）も使用できなくなります。サーバはアップグレードが完了したら再起動を行います。[アップロード]ボタンをクリックしてから、アップグレードが完了するまでには、 5 分～10 分必要です。



●ファイル名

アップグレードファイルをフルパスで指定します。

「参照」ボタンをクリックしてパソコンのフォルダを参照することもできます。

注意！

ソフトウェアのアップグレード機能はブラウザに搭載された機能に依存します。

●アップロード

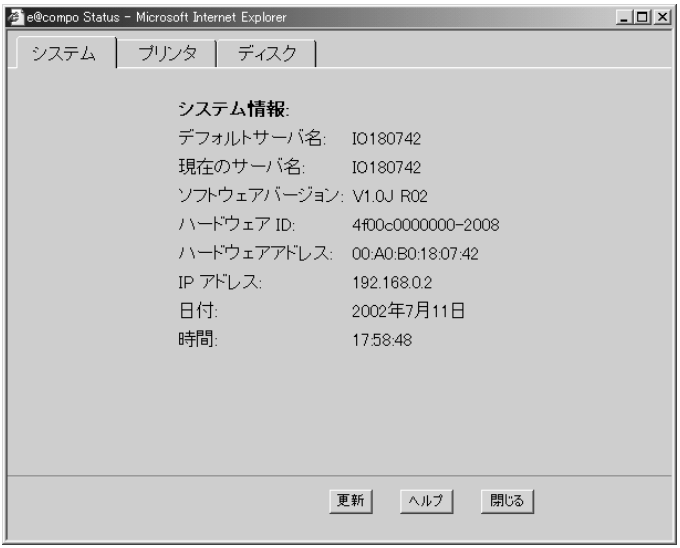
このボタンをクリックすると本製品にアップグレードファイルをアップロードして、ソフトウェアのアップグレードを行います。

現在の状態の表示

本製品の現在の状態表示を行います。
設定画面の［ステータス］をクリックして行います。

［システム］・・・本製品のシステムの表示

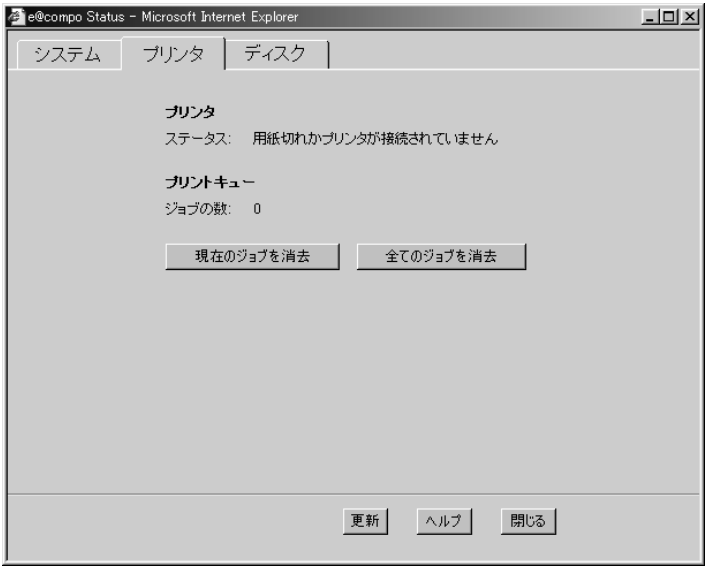
本製品のシステム情報を表示します。



デフォルトサーバ名	出荷時の名前
現在のサーバ名	［システム］タブの［サーバ名］（211 ページ）で入力した現在の名前（変更していなければ、上の名前と同一）
ソフトウェアバージョン	インストールされているソフトウェアのバージョン
ハードウェア ID	製造番号
ハードウェアアドレス	ネットワークアダプタのハードウェアアドレス
IP アドレス	本製品で使用される IP アドレス
日付	本製品に記憶されている現在の日付
時間	本製品に記憶されている現在の時刻

[プリンタ]・・・接続したプリンタ情報の表示

本画面はプリンタとプリントキューの現在のステータスを表示します。
プリントキューはWindowsとMac OSの両方のプリントジョブを保持します。



●プリンタ

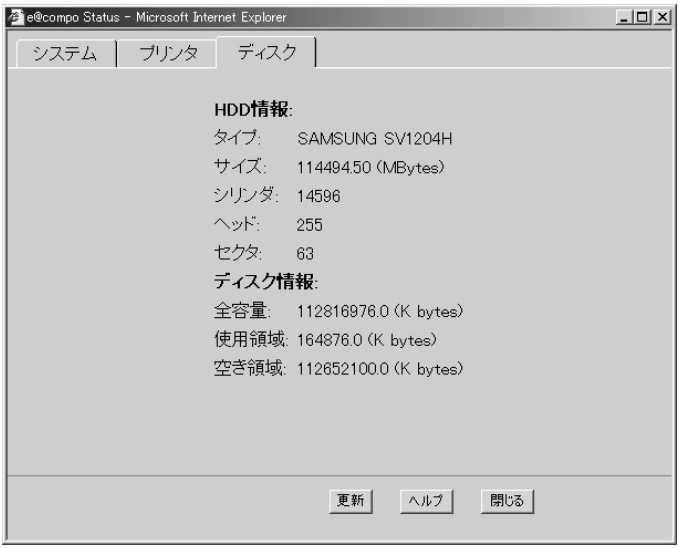
ステータス	表示するステータスは、″オンライン″, ″オフライン″, ″用紙切れかプリンタが接続されていません″ です。

●プリントキュー

ジョブの数	プリントキュー内の印刷待ちプリントジョブのトータル数 (Windows と Mac OS の両方)
現在のジョブを消去	クリックすると現在印刷しているプリントジョブを消去します。 正しく印刷されない場合にご使用ください。
全てのジョブを消去	クリックするとプリントキュー内のすべてのプリントジョブを消去します。 プリントキューをクリアする場合にご使用ください。

[ディスク]・・・ディスク情報の表示

本製品上のディスクの状態を表示します。



●HDD 情報

タイプ	ハードディスクのタイプを示します。
サイズ	ハードディスクの容量を示します。
シリンダ	シリンダ数（各サーフェイスのトラック数と同一）
ヘッド	ヘッド数
セクタ	各シリンダ内のセクタ数

●ディスク情報

全容量	ディスクスペースの全容量
使用領域	使用されているディスクスペース
空き領域	使用されていない空きディスクスペース

ハードディスクの共有に関する設定

ハードディスクの共有に関する設定です。

［参照］･･･共有状態の表示

設定した共有情報の表示を行います。
設定画面の［参照］をクリックして行います。

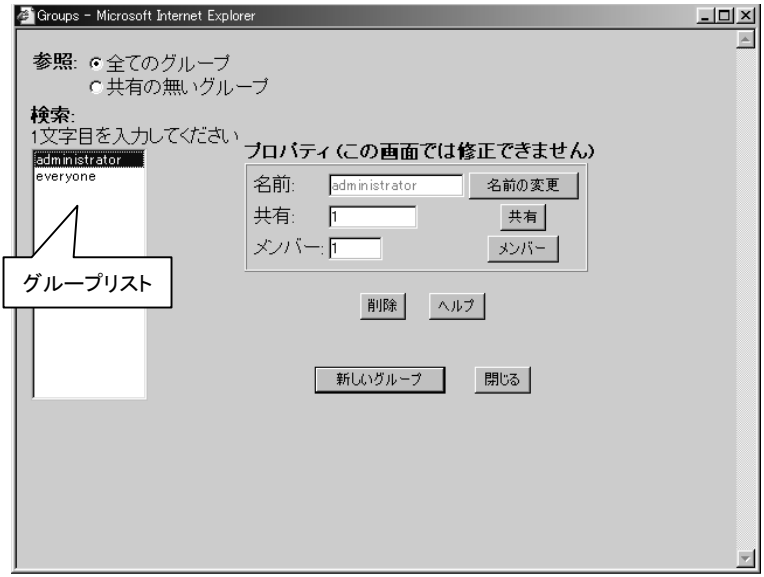
この画面では、共有、フォルダ、ファイルおよび基本的な管理情報が表示されます。 ファイル管理には、エクスプローラなどのファイルマネージャを使用してください。

アドレス	現在選択しているファイル/フォルダなどのアドレスをフルパスで示します。（フォルダは共有か通常のフォルダ）
名前の変更ボタン	選択した項目の名前を変更します。
削除ボタン	選択した項目を削除します。
プロパティボタン	プロパティを編集します。共有にのみ有効です。

名前	共有名、フォルダ名、ファイル名を示します。
タイプ	項目のタイプ（共有名、フォルダ、ファイル）を示します。
共有名/所有者	内容は「タイプ」に依存します: **共有名**: フォルダの共有名を示します。 **フォルダ**: 通常は空白です。ただし、フォルダへのアクセスが通常できない場合には「Administrator」と表示されます。 **ファイル**: このファイルの作成者を示します。
サイズ	ファイルサイズ（K バイト）を示します。
更新日	ファイル、フォルダが作成/更新された日を示します。

［グループ］･･･グループの作成･修正･削除

ユーザグループの設定を行います。
設定画面の［グループ］をクリックして行います。



グループリスト	左側にすべてのグループのリストが表示されます。"everyone" と"administrator" の２つのグループは常に存在し、削除することはできません。
プロパティ	選択したグループのプロパティを表示します。このデータは読み込み専用です。

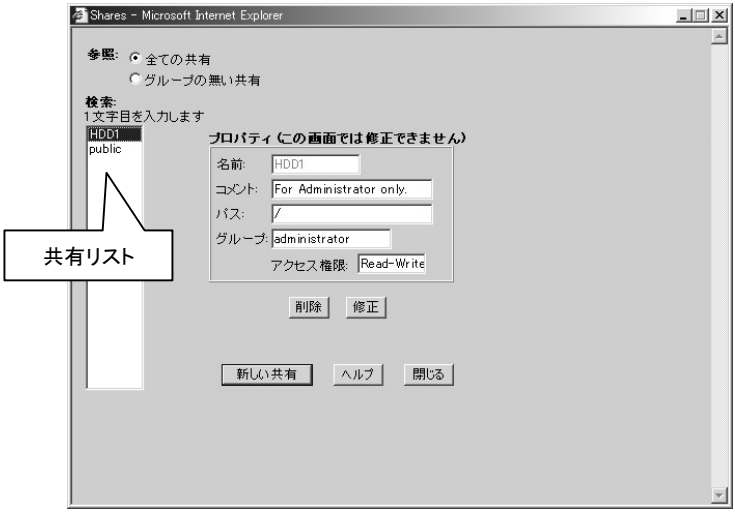
●操作

参照 **(ラジオボタン)**	参照したいグループを設定します。通常、共有の無いグループは本製品にアクセスできません。このオプションはアクセスできないグループの問題解決に有効です。
検索	リストのグループ名を選択することで、グループリストを検索できます。
名前の変更	このボタンを使用すると選択したグループの名前を変更できます。 **注意** **コンマやピリオド、その他の特殊文字（例　＊／｜￥）および２バイト文字(日本語など)、半角カタカナは使用できません。**
共有	このボタンを使用すると、選択したグループがどの共有へアクセスできるかを決定します。それぞれの共有は１グループのみがアクセス可能です。(グループは複数の共有を持つことが可能です。) **注意** **"administrator" グループはすべての共有へアクセスすることが可能です。**
メンバー	選択したグループへのユーザの追加や削除を行います。 **注意** **"everyone" グループは常にすべてのユーザに割り当てられ、メンバーを削除することはできません。**
削除	選択したグループを削除します。
新しいグループ	新しいグループを作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

［共有］･･･共有の作成･修正･削除

共有の設定を行います。
設定画面の［共有］をクリックして行います。
″共有″ はユーザがアクセスできるフォルダです。

・administratorグループのメンバだけが共有を作成することができます。
・共有は１ユーザグループのみアクセス可能です。ユーザグループは複数の共有フォルダへアクセスすることが可能です。
・共有内に共有フォルダが存在する場合、外側の共有へのアクセス権を持つユーザは内部の共有フォルダへの同じ権限でアクセスすることができます。
・ユーザは、アクセス権を持つ共有下に共有にフォルダやファイルを作成することができます。



●画面表示されるデータ

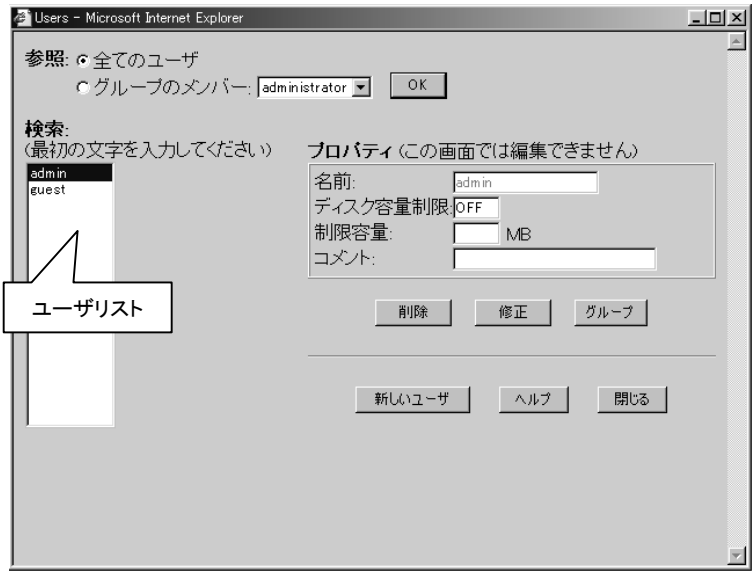
共有リスト	すべての共有のリスト
プロパティ	リストから選択した共有のプロパティを表示します。このデータは読み込み専用です。 ユーザグループが選択した共有フォルダへのアクセス権を持つかどうか、またアクセス権限を表示します。 (Read-only(読み取り専用)か Read-Write(読み書き))

●操作

参照 **(ラジオボタン)**	表示したい共有フォルダを選択します。 ユーザグループに登録されていない共有フォルダは表示されません。 このオプションによって共有フォルダの問題の解決を容易に行うことができます。
検索	いずれかのボタンを押すことでカーソルの位置から共有フォルダリストを検索できます。 ブラウザがこの機能をサポートしている必要があります。 このリストは最初のエントリからスクロールします。
削除	共有を解除します。
修正	選択した共有のプロパティを修正します。
新しい共有	新しい共有を作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

［ユーザ］・・・ユーザの作成・修正・削除

ユーザの設定を行います。
設定画面の［ユーザ］をクリックして行います。



ユーザリスト	左に全てのユーザが表示されます。 「admin」と「guest」は常に存在します。これらのユーザは削除することはできません。
プロパティ	リストから選択したユーザのプロパティが表示されます。 このデータは表示専用です。「制限容量」はユーザに許可されている最大のディスク使用量を示します。

●操作

参照 **（ラジオボタン）**	参照するユーザを選択します。 オプションは、以下の２つです。 　- 全てのユーザ 　- グループのメンバー（特定のグループのユーザ） リストは最初に「全てのユーザ」が表示されます。 変更するにはラジオボタンでグループのメンバーを選択して［OK］ボタンをクリックします。
検索	リストのカーソルからいずれかのキーを押してユーザリストを検索できます。 ブラウザが本機能をサポートしている場合には、リストは検索した最初のエントリまでスクロールします。
削除	削除するユーザを選択してボタンをクリックします。 （admin と guest は削除できません。）
修正	プロパティを修正するユーザを選択してこのボタンをクリックします。
グループ	クリックした後、ユーザをどのグループのメンバーにするかを設定できます。
新しいユーザ	新しいユーザを作成します。
閉じる	ウィンドウを閉じます。

付録3

TCP/IP の基礎知識

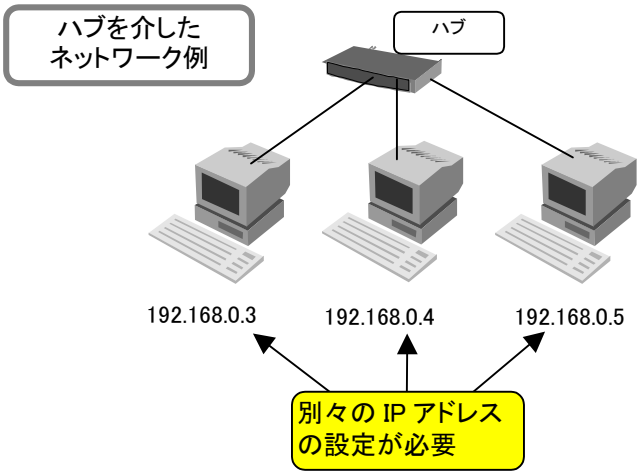
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

・IP アドレス ····· 234
同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要 ····· 234
グローバル IP アドレスとローカル IP アドレス ····· 235
IP アドレスのクラス ····· 236
・DHCP ····· 237
・具体的な IP アドレスの設定例 ····· 238
本製品を DHCP サーバとして使用する場合の例 ····· 238
IP アドレスをすべて手動で設定する場合の例 ····· 239

IP アドレス

同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要

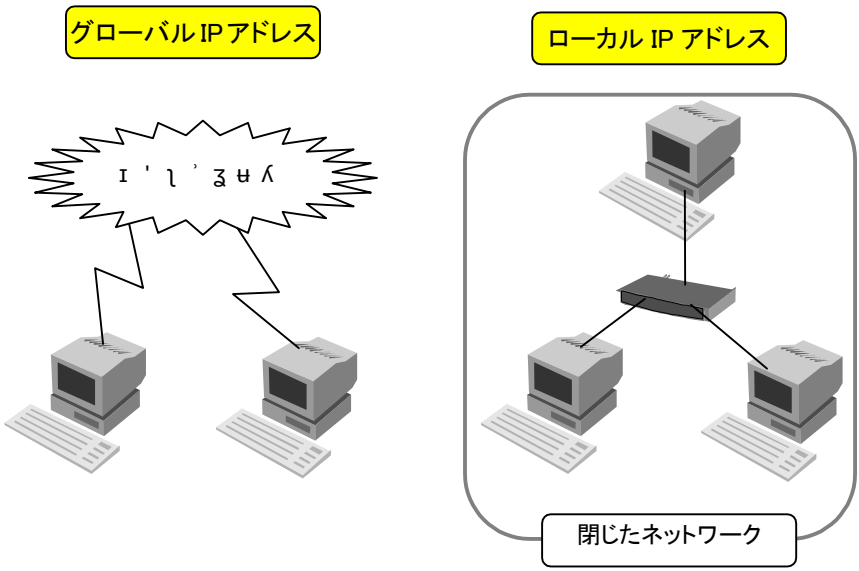
本製品を使用するには、本製品やパソコンにIPアドレスの設定が必要です。
IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の１軒１軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも１台１台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。もし、同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192. 168. 0. 2」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。



グローバル IP アドレスとローカル IP アドレス

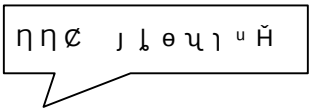
IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。



IP アドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスAのIPアドレス］、中規模なら［クラスBのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスCのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時のIPアドレス「192. 168. 0. 2」のように、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。



IP アドレス　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時の IP アドレス「192. 168. 0. 2」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２６	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127, 224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10. 0. 0. 0　～　10. 255. 255. 255
クラスＢ	172. 16. 0. 0　～　172. 31. 255. 255
クラスＣ	192. 168. 0. 0　～　192. 168. 255. 255

DHCP

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）とは、IP アドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCP は、DHCP サーバと DHCP クライアントで構成され、DHCP サーバが DHCP クライアントに使用可能な IP アドレスを割り当てます。
例えば、本製品を DHCP サーバとし、複数台のすべてのパソコンを DHCP クライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能な IP アドレスを入手し、終了時に開放します。

●DHCP の特徴

- 個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
- 設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバのみの変更で済みます。そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
- DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ（ルータ）の IP アドレスも自動で設定されます。
- DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

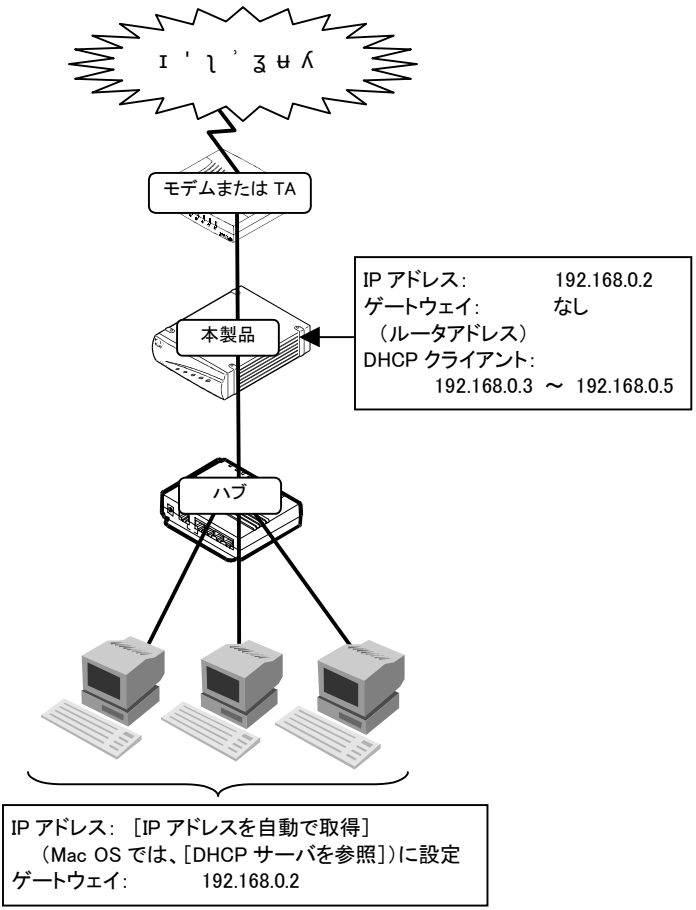
注意！

本製品を DHCP サーバとした場合は、必ず本製品が正常に起動した後に、パソコンを起動してください。パソコンを先に起動すると IP アドレスが正常に割り当てられなくなる場合があります。

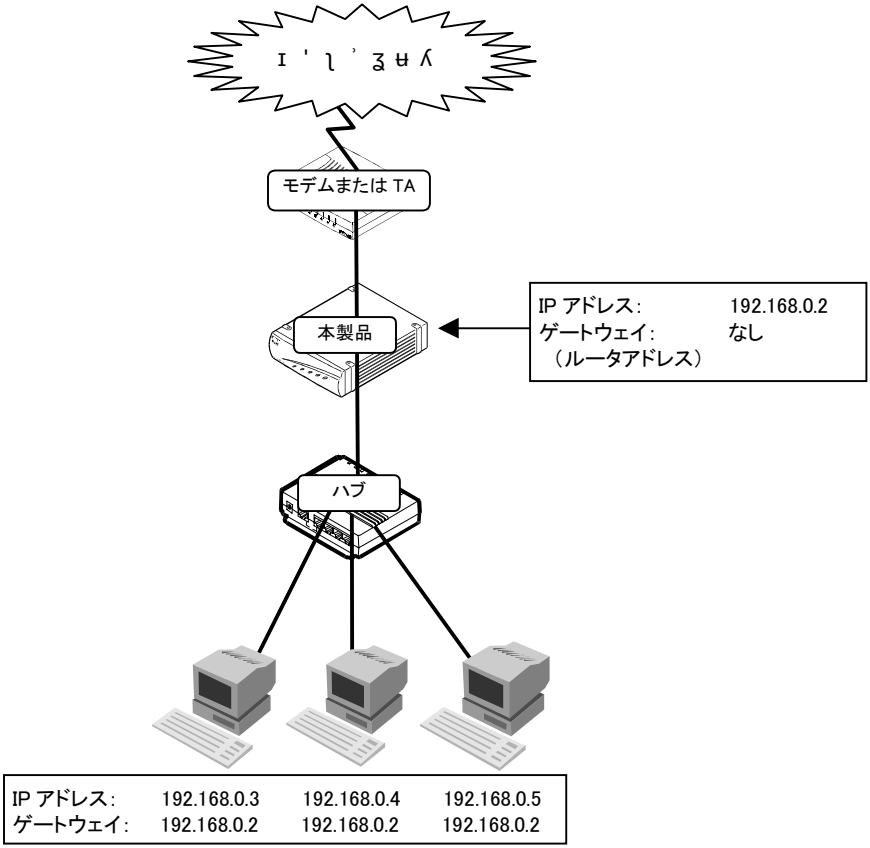
具体的な IP アドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

本製品を DHCP サーバとして使用する場合の例



IP アドレスをすべて手動で設定する場合の例



付録4

仕　様

ここでは、本製品の仕様について説明します。

■ 一般仕様

製品名	ET-NAS120G
ハードディスク容量	120Gバイト※1
ネットワーク	・Ethernet 10BASE-T／100BASE-TX （10／100Mbps、Full／Half-Duplexの自動検出） ・シールド付きRJ-45ポート （LED2個装備：10BASE-T Link／100BASE-TX Link）
パラレルポート	D-sub25ピン　メス（IEEE1284）
シリアルポート	D-sub9ピン　オス（RS-232C）
ブザー	1
LED	Ready, Error, Disk, Disk full, LAN
デイジーチェーンスイッチ	クロス接続（デイジーチェーン）か通常接続の選択用
リセットボタン	IPアドレスおよびadminパスワードの消去用
電源	外付型電源（12VDC、3.6A）
動作温度範囲	5～35℃
保存温度範囲	-10～60℃
動作湿度範囲	10～80%　（結露なきこと）
保存湿度範囲	5～90%　（結露なきこと）
寸法	210（W）×271（D）×66（H）mm
質量	2.1kg

※1　ファイルシステムとして利用可能な容量は107.4Gバイトまでです。

■ ネットワーク仕様

物理仕様	10BASE-T／100BASE-TX（IEEE802.3／802.3u）
ファイル／プリンタ共有プロトコル	・SMB/CIFS（NetBIOS over TCP/IP） ・AppleShare（AppleTalk）
ルータ機能	ルータ機能により、インターネットアクセスを行います。 ルータおよびNAT機能の詳細については、【ルータ機能】(243ページ)を参照してください。
E-Mail通知	特定のエラー発生時にE-Mailでの通知を行います。
接続端末数制限	制限を設けていません（Windows）／約50台まで（Macintosh）

■ ソフトウェア仕様

IPアドレスの設定方式 （40,42ページ参照）	IPアドレスの設定方式には、次の2つの方法があります。 1)自動取得（DHCPクライアント） DHCPクライアントとして動作を行い、DHCPサーバからIPアドレスを自動的に取得します。 DHCPサーバの検出に失敗した場合には、出荷時設定のアドレス（192.168.0.2）を使用して動作を開始します。 2)マニュアル設定 Webブラウザによる設定で任意のIPアドレスを入力します。 ※この設定を行う場合には、ディスクサーバと設定ツールを使用するパソコンのIPアドレスの設定が同一のセグメントになっている必要があります。出荷時設定では、IPアドレスは「192.168.0.2」が割り当てられます。	
ファイル共有／セキュリティ	共有	フォルダ単位でのファイル共有を行う
	ファイル名	半角255文字以内のロングファイル名のサポート
	ファイル属性	「読み書き可（アーカイブ）」の属性を設定可能 「読み込みのみ可（Read-Only）」および「隠しファイル（Hidden File）」の属性は設定不可
	アクセス権限	「読み書き可」、「読み込みのみ可」を各共有毎に選択可
	ディスク使用量制限	ディスクの使用容量制限をユーザ毎に制限可

Web マネージメント	アドミニストレータ設定	アドミニストレータは、設定ツールを使用して各種設定を行うことができます。 アドレス例　http://192.168.0.2
	ユーザパスワード設定	各ユーザは、Webブラウザ上からユーザパスワードの変更を行うことができます。 アドレス例　http://192.168.0.2
E-Mail通知	本製品は、特定の状態でのレポートをE-Mailで送信することができます。 E-Mail通知先は、3つまで設定することができます。 通知される状態については、【補足資料】(244ページ)を参照してください。	
システムログ	システムの運用状態は、システムログに保存されます。 システムログの容量が大きくなった場合には、システムログは古いものから削除されます。 システムログに記述される内容については、【補足資料】(244ページ)を参照してください。	
ソフトウェアアップグレード	ソフトウェアは、設定画面を使用してアップグレードを行うことができます。(221ページ参照)	

■ ルータ機能

サポートインターネットアプリケーション	インターネットアクセス	Netscape, Internet Explorer, Real Audio, mIRC, MS Chat, CU-CeeMe, IRC, Telnet, ICQ, Neterm, WS-FTP, Cute-FTP
	E-Mail	MS Internet mail, MS Outlook, Outlook Express, Netscape, Eudro light, Pegasus, Free Agent
	サーバ	DNS, FTP standard, POP3, Web Server, SMTP
	ゲーム	Diablo
	その他	PING, Trace Route, HTTP
接続プロトコル	回線通信には、PPPプロトコルを使用します。	
認証方式	ユーザ認証方式は、PAPおよびCHAPをサポートします。	
接続回線／ダイヤル設定方法	専用線／ダイヤルアップ接続共に設定可能です。 ダイヤルアップの場合には、3局までの登録が可能です。 また、ダイヤルアップ接続の場合には、自動接続／切断が行われます。	
IPアドレス	固定アドレス／ダイナミックアドレスのいずれも設定可能です。	
同時接続数	IPマスカレード（エクステンションNAT）機能によって253セッションの同時接続が可能です。	
アクセスログ	ダイヤルした情報は、アクセスログに保存されます。 ログファイルは、ステータス表示を参照して確認できます。	
ステータス表示	設定画面で現在のPPP接続の状態を表示することができます。 また、この画面を使用して以下の動作を行うことができます。	
	接続	プロバイダに接続します。
	切断	接続状態からモデムを切断します。
	アクセスログの消去	アクセスログファイルのデータを消去します。
	ステータスの更新	Web設定画面の更新を行い、最新のステータスを表示します。

■ 補足資料

●システムログに保存される内容

タイプ	メッセージ
Scan Disk(e2fsk)	Scan Disk: OK
	Scan Disk: Found Error(xxxx)and correct it
	Scan Disk: Found Error(xxxx)、correct it、Please reboot system
	Scan Disk: Found Error(xxxx)、but can not correct it
	Scan Disk: Found unknown errors(xxxx)
Diagnostics	Printing: Fails to output data to /dev/lpt1
System／network／server	System: Boot
	System: Shutdown
	System: Clear password and reset to default IP address
	System: Disk Full warning
	Network: Fails to get an IP address from DHCP server
	SMB::
	AppleShare Read Apple Zone failure
Debug	Debug: Can not get data from AppleShare configuration file
Debug	Debug: Open AppleShare configration file error(STDERR)

●E-Mail 通知される内容

タイプ	メッセージ
System／network／server	mm/dd/yy hh:mm:ss system shut down
	mm/dd/yy hh:mm:ss system reboot
	mm/dd/yy hh:mm:ss occured disk full

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポート Web ページ内の「製品 Q&A、News など」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A
News など

ソフトウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のソフトウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ソフトウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター
電話：　本社…076-260-3644　東京…03-3254-1144
※受付時間　9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX：　本社…076-260-3360　　東京…03-3254-9055
インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

※お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に下記の事項をご用意ください。

1. お客様の住所･氏名･郵便番号･連絡先の電話番号とFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアルNo.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名
5. 現在の状態（どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●内部のデータについて

・検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。
（厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。）
※データに関しては、弊社はいっさいの責任を負いかねます。
バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

・弊社では、データの修復は行っておりません。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアル NO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX 番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
　ご使用環境（機器構成、OS など）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　　〒920-8513 石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地
アイ・オー・データ第 2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

ET-NAS120G 取扱説明書
2002.Aug.02 118683-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地

© 2002 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。